

---

## 第 128 回日本森林学会大会プログラム

---

会 期 2017年3月26日(日)～3月29日(水)

会 場 鹿児島大学郡元地区(27～29日), かごしま県民交流センター(26日)

連絡先 〒890-8580 鹿児島県鹿児島市郡元1-21-24 鹿児島大学農学部 農林環境科学科内

第128回日本森林学会大会運営委員会

E-mail: jfs128@ml.agri.kagoshima-u.ac.jp 大会本部当日電話 050-5806-8578(インターネット経由)

### 大会日程

3月26日(日): かごしま県民交流センター

- |             |                                    |                  |
|-------------|------------------------------------|------------------|
| 9:00～12:00  | 日本森林学会各賞授賞式・受賞者講演                  | (県民交流センター 県民ホール) |
| 13:30～16:30 | 公開シンポジウム「木質バイオマス利用の現状と将来」          | (県民交流センター 県民ホール) |
| 12:00～13:30 | JFR 編集委員会                          | (県民交流センター 大ホール1) |
| 16:30～18:00 | 日本森林学会誌編集委員会                       | (県民交流センター 大ホール1) |
| 18:00～19:00 | 日林誌・JFR・森林科学合同編集会議                 | (県民交流センター 大ホール1) |
| 16:30～18:00 | 森林科学編集委員会                          | (県民交流センター 大ホール2) |
| 14:30～16:30 | 中等教育連携推進委員会                        | (県民交流センター 大ホール2) |
| 16:30～19:00 | 林政・風致・経営, 観光・レクリエーション, 教育分野のあり方検討会 | (県民交流センター 大ホール3) |

3月27日(月): 鹿児島大学郡元地区

- |             |                                  |                     |
|-------------|----------------------------------|---------------------|
| 8:30～       | 口頭発表会場(解錠)                       |                     |
| 9:00～17:00  | 研究発表(部門別口頭発表, 企画シンポジウム, 公募セッション) | (共通教育棟1～3号館)        |
| 11:00～16:00 | 研究発表(P1ポスター; コアタイム12:00～13:30)   | (学習交流プラザ2階)         |
| 18:00～20:30 | 懇親会(桜島錦江湾クルーズ)                   | (*大学よりシャトルバスを運行します) |

3月28日(火): 鹿児島大学郡元地区

- |             |  |              |
|-------------|--|--------------|
| 8:30～       | 口頭発表会場(解錠)                             |              |
| 9:00～19:15  | 研究発表(部門別口頭発表, 公募セッション)                 | (共通教育棟1～3号館) |
| 11:00～16:00 | 研究発表(P2ポスター・高校生ポスター; コアタイム12:00～13:30) | (学習交流プラザ2階)  |
| 13:30～14:30 | 大学院進学とその後の進路の選択—どのように社会に出て行くのか—        | (共通教育棟1号館)   |
| 17:45～19:45 | 論文執筆や審査の経験を共有しよう Part2—回答書や英語論文を書いてみる— | (共通教育棟1号館)   |

3月29日(水): 鹿児島大学郡元地区

- |           |                     |                    |
|-----------|---------------------|--------------------|
| 8:00～9:00 | IUFRO-J平成29年度機関代表会議 | (農学部共通棟)           |
| 9:00～     | 関連研究集会              | (共通教育棟1号館, 農学部共通棟) |

大会受付: 26日は県民交流センター県民ホール前, 27～28日は鹿児島大学郡元地区学習交流プラザ1Fに設置

---

### 第128回日本森林学会大会運営委員会

曾根 晃一(委員長), 森貞 和仁(副委員長), 枚田 邦宏, 寺岡 行雄, 地頭菌 隆, 藤澤 義武, 岡 勝,  
井倉 洋二, 畑 邦彦, 寺本 行芳, 鶴川 信, 加治佐 剛, 奥山 洋一郎

(日本森林学会 市民公開シンポジウム)

# 木質バイオマス利用の 現状と将来

エネルギー利用、CLT、セルロースナノファイバーなど木材製品の高度化と利用による国産材の新たな需要の開拓は、不振にあえぐ日本林業の再生に資するものと期待されています。その現状と課題について市民の皆様に理解を深めていただくため、各分野のエキスパートに話題を提供していただき、ともに考えることを目的として、シンポジウムを開催します。

## 基調講演

### 木材利用をめぐる新たな潮流

沖 修司 氏 (林野庁次長)



## 話題提供

### 木造でここまでできる

佐々木 幸久 氏 (山佐木材株式会社 代表取締役)

### エネルギー利用の現状

近藤 博 氏 (中越パルプ木材株式会社 原燃料部長)

### 木質バイオマスの利用技術研究の現状

木口 実 氏 (国立研究開発法人 森林総合研究所 研究ディレクター)

■座長 / 吉田 茂二郎 氏 (九州大学大学院農学研究院教授)

2017年

3月26日(日)

13:30~16:30

かごしま県民交流センター  
県民ホール

〒892-0816 鹿児島県鹿児島市山下町14-50

TEL: 099-221-6600



※ご来場には公共交通機関をご利用ください。



写真提供 / 中越パルプ木材株式会社

お問い合わせ

鹿児島大学 農学部 公開シンポジウム担当

TEL: 099-285-8571 FAX: 099-285-8571

事前のお申し込みは不要です。  
参加費無料で誰でも参加できます。

主催 / 一般社団法人 日本森林学会 公益社団法人 国土緑化機構「緑と水の森林ファンド」助成事業

## 2017年度 日本森林学会各賞 受賞者および受賞業績

### 1. 日本森林学会賞

谷 尚樹 (国際農林水産業研究センター)

東南アジア熱帯林の主要構成樹種であるフタバガキの花粉散布様式と繁殖特性の解明と択伐施業への応用

岩田 隆太郎 (日本大学)

木質昆虫学序説の出版

大園 享司 (同志社大学)

落葉分解菌類の多様性と分解機能に関する生態学的研究

### 2. 日本森林学会奨励賞

田中 憲蔵 (森林総合研究所)

Height-related changes in leaf photosynthetic traits in diverse Bornean tropical rain forest trees

篠原 慶規 (九州大学)

モウソウチク林の拡大が林地の公益的機能に与える影響：総合的理解に向けて

小松 雅史 (森林総合研究所)

Characteristics of initial deposition and behavior of radiocesium in forest ecosystems of different locations and species affected by the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident

### 3. 日本森林学会学生奨励賞

東 若菜 (京都大学)

Function and structure of leaves contributing to increasing water storage with height in the tallest *Cryptomeria japonica* trees of Japan

### 4. 日本森林学会功績賞

黒丸 亮 (北海道立総合研究機構)

炭素固定能の優れたグイマツ雑種F<sub>1</sub>「クリーンラーチ」等の開発と早期普及

### 5. Journal of Forest Research論文賞

Ian D. Thompson

An overview of the science-policy interface among climate change, biodiversity, and terrestrial land use for production landscapes. (Journal of Forest Research Vol. 20, No. 5, 423-429, 2015)

Atsushi Tamura

Potential of soil seed banks in the ecological restoration of overgrazed floor vegetation in a cool-temperate old-growth damp forest in eastern Japan. (Journal of Forest Research Vol. 21, No. 1, 43-56, 2016)

### 6. 日本森林学会誌論文賞

平岡 裕一郎・高橋 誠・渡辺 敦史

林木育種における地上 LiDAR 計測の応用—スギ精英樹 F<sub>1</sub> 家系における樹幹形質の評価— (日本森林学会誌 97 巻 6 号, 290-295, 2015 年)

3月26日(日)9時から、かごしま県民交流センター県民ホールにおいて、授賞式ならびに学会賞、奨励賞、学生奨励賞の受賞者講演を行います。

## 研究発表される方へ

### 部門別口頭発表

部門別口頭発表の講演時間は 1 件 15 分（講演 12 分、討論 3 分） です。

部門別口頭発表の機材は、液晶プロジェクタのみとします。発表会場には、Microsoft PowerPoint 2013 をインストールしたコンピュータを準備します。発表に用いる PowerPoint ファイルは 2013 までのバージョンでご準備ください。ファイルは、USB 接続可能なメディアに保存してご持参ください。発表する午前あるいは午後のセッション開始 10 分前までに、発表会場のコンピュータのデスクトップ上にある日付と名前のついたフォルダー（例「28 日午後 生態」）内にそのファイルをコピーしてください。ファイル名は、「講演番号+筆頭者の名前」（例「000 氏名」）としてください。なお、コピー後に動作確認されることをお勧めします。特にアニメーション・動画の機能を使用される場合は、ご自分で事前に動作確認されることを強くお勧めします。OHP は使用できません。最近、USB メモリを介したウィルス感染の事例が増えています。使用される USB メディアのウィルスチェックも含めて、USB メモリ等の管理はご自分をお願いいたします。なお、会場設置のコンピュータからウィルスの感染が起こった場合でも、運営委員会は一切責任を負えませんのでご了解ください。

### ポスター発表

ポスター発表のポスターの大きさは、A0 縦置き（高さ 1,188×幅 841 mm）を基本とします。ポスターには、発表題目、発表者氏名を明記してください。運営委員会で用意するものは、パネル・講演番号、画紙のみです。コアタイム時には、発表者は必ず掲示場所で、発表・質疑応答を行ってください。

### 企画シンポジウム・公募セッション・関連研究集会での発表

運営は責任者（コーディネータ）に一任していますので、責任者からの指示に従って準備してください。

### 企画シンポジウム・公募セッションコーディネータ・関連研究集会責任者の方へ

企画シンポジウム・公募セッションの発表会場には、Microsoft PowerPoint 2013 をインストールしたコンピュータと液晶プロジェクタを、関連研究集会会場には、液晶プロジェクタのみを準備します。これ以外の機器が必要な場合には各自ご準備ください。

企画シンポジウム・公募セッションについては、各会場にタイムキーパーを配置します。発表資料のコンピュータへのコピーの手順や時間配分などは、コーディネータの責任で発表者に周知徹底するようお願いいたします。

## 大会へ参加される方へ

### プログラム・学術講演集について

前回大会に引き続き冊子体の学術講演集（要旨集）を作成し、会場受付にて配布いたします。プログラム（印刷体）もこの学術講演集に含まれます。各要旨は、日本森林学会ホームページ（<http://www.forestry.jp/>）からリンクしたサイトにおいて 3 月初旬より閲覧できる予定ですので、必要な要旨は各自で事前に印刷しご持参ください。

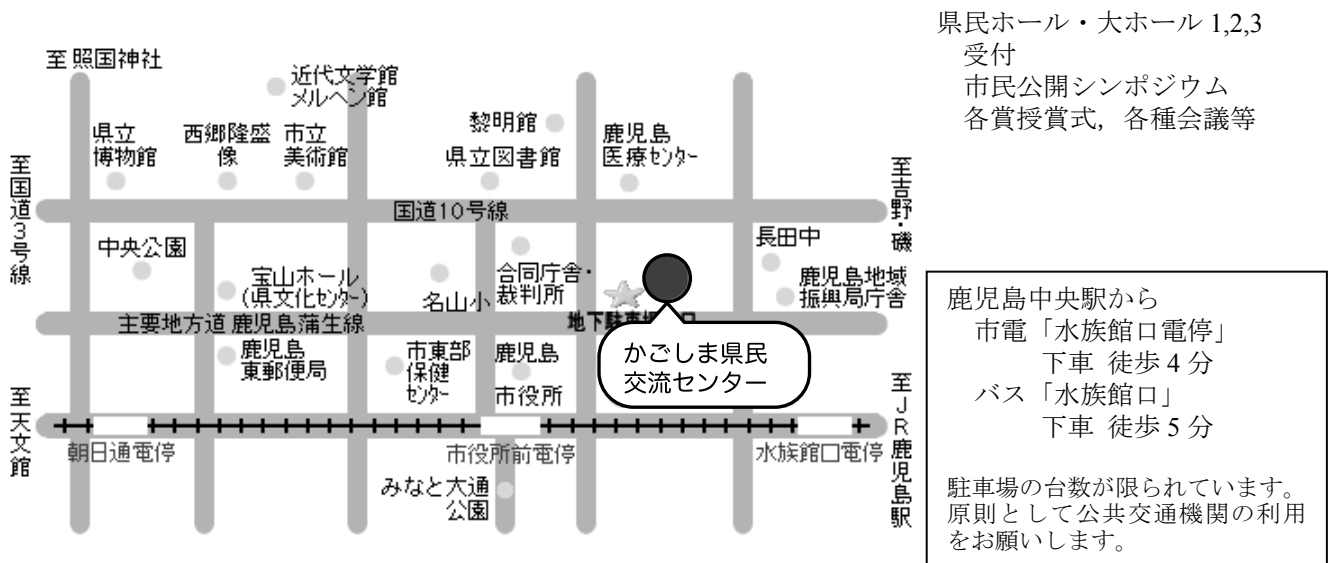
### 名札ケースについて

名札を収納するケースの持参をお願いいたします。運営委員会で名刺サイズの名札を用意いたしますので、お手持ちの名札ケースに入れてお使いください。

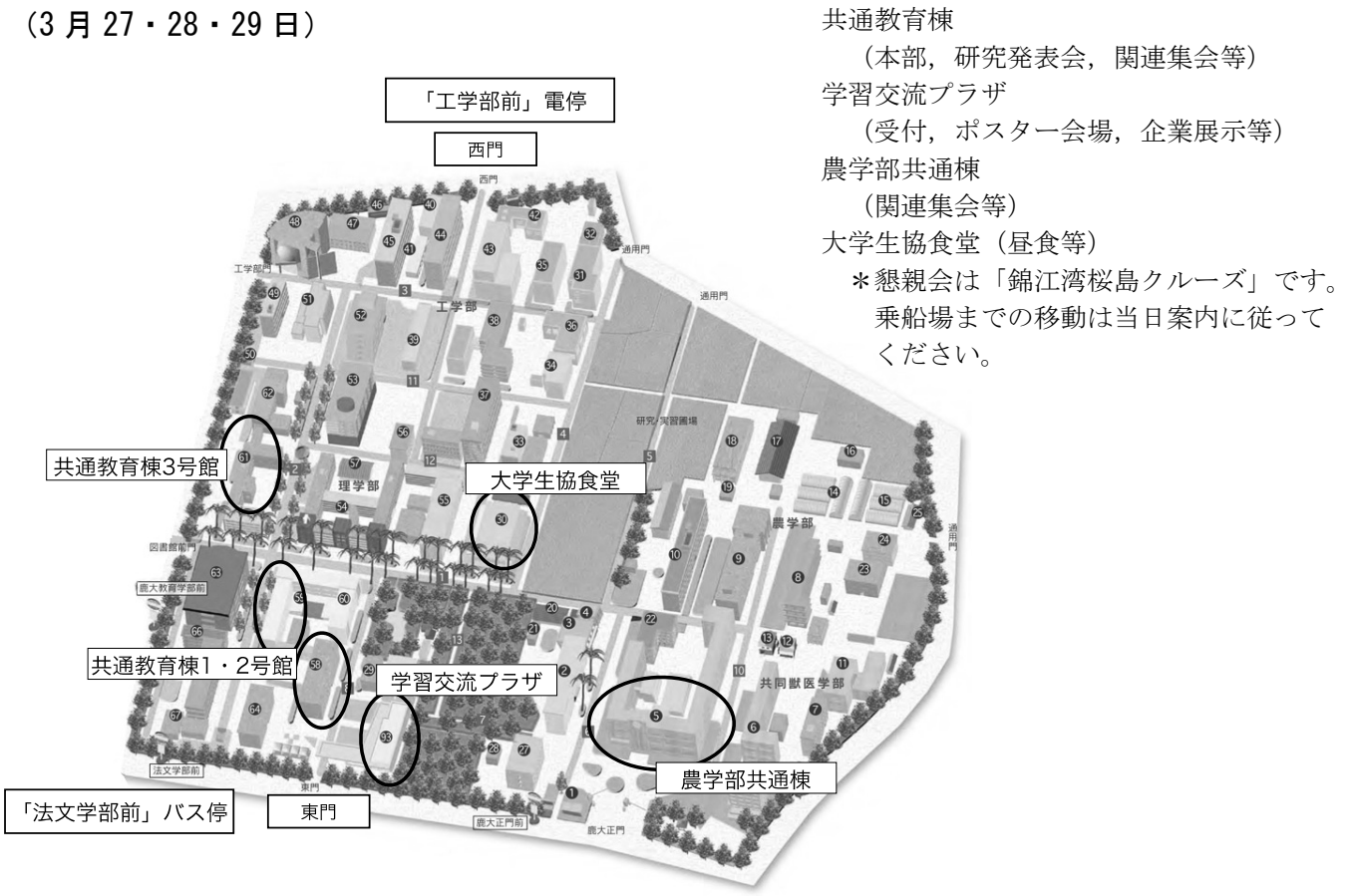
### 懇親会について

今大会の懇親会は、桜島フェリーでの船上パーティとなっております。開始時間 18:00（出航時間 18:30）は厳守していただきますようお願いいたします。大会会場（鹿児島大学）からの移動等は、当日の案内をご参照いただき、円滑な移動にご協力ください。

会場案内図：かごしま県民交流センター（鹿児島県鹿児島市山下町 14-50 電話：099-221-6600）  
 (3月26日)



会場案内図：鹿児島大学郡元地区（鹿児島県鹿児島市郡元 1-21-24）  
 (3月27・28・29日)

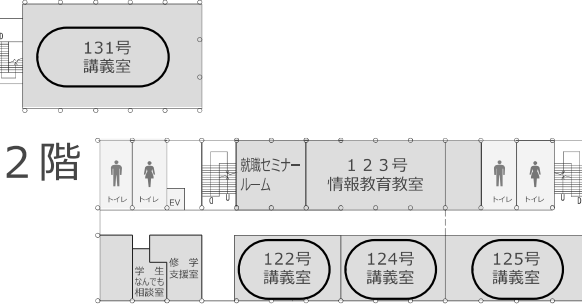
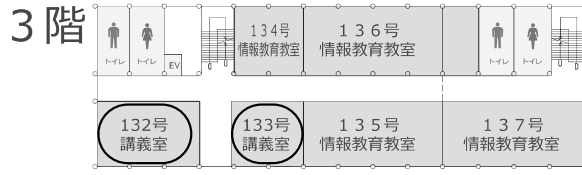
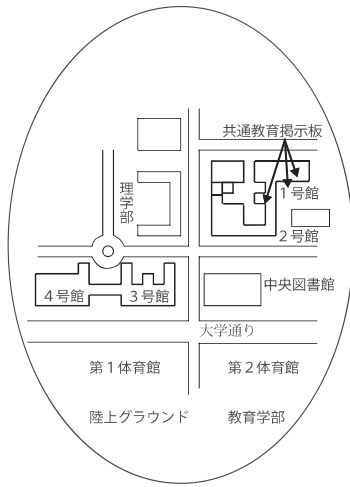


市電	〔市電1系統〕「騎射場」電停下車 ※徒歩約10分 〔市電2系統〕「唐湊(とそ)」、「工学部前」電停下車
市営バス (鹿児島中央駅経由)	「鹿大正門前」または「法文学部前」下車 9番線(武岡・鴨池港線)、11番線(鴨池・冷水線)、18番線 (大学病院線)、20番線(緑ヶ丘・鴨池港線)
鹿児島交通バス (鹿児島中央駅経由)	「鹿大正門前」または「法文学部前」下車 19番線(紫原・桜ヶ丘五丁目行)
南国交通バス (鹿児島中央駅経由)	「鹿大教育学部前」下車 30番線(県庁西・鴨池新町方面)

駐車場の台数が限られています。  
 公共交通機関の利用をお願いします。  
 (鹿児島中央駅から徒歩15分程度です)

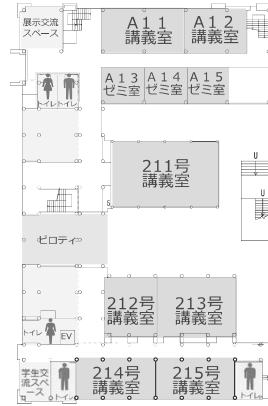
# 会場詳細図

鹿児島大学共通教育棟配置図



理学部

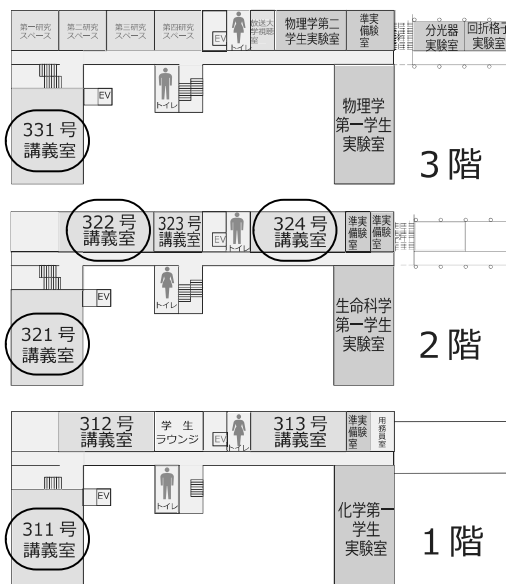
稲盛アカデミー



共通教育棟 2号館

中央図書館

入口



共通教育棟 3号館

大会スケジュール 3月26日

開始時刻/会場	かごしま県民交流センター 県民ホール	かごしま県民 交流センター 大ホール1	かごしま県民 交流センター 大ホール2	かごしま県民交流センター 大ホール3	かごしま県民 交流センター 県民ホール前	
8:00						
8:15						
8:30						
8:45	授賞式・受賞者講演					
9:00	日本森林学会各賞授賞式・受賞者講演					
9:15						
9:30						
9:45						
10:00						
10:15						
10:30						
10:45						
11:00						
11:15						
11:30						
11:45						
12:00		JFR編集委員会			大会受付	
12:15						
12:30						
12:45						
13:00						
13:15	シンポジウム					
13:30	市民公開シンポジウム 「木質バイオマス利用の現状と将来」					
13:45						
14:00						
14:15						
14:30						
14:45						
15:00						
15:15						
15:30						
15:45						
16:00						
16:15						
16:30						
16:45						
17:00						
17:15						
17:30						
17:45						
18:00						
18:15						
18:30						
18:45						

■学会企画

会場  
かごしま県民交流センター大ホール3 林政・風致・経営、観光・レクリエーション、教育分野のあり方検討会

■委員会一覧

会場  
かごしま県民交流センター大ホール1 JFR編集委員会  
かごしま県民交流センター大ホール1 日林誌編集委員会  
かごしま県民交流センター大ホール1 日林誌・JFR・森林科学合同編集会議  
かごしま県民交流センター大ホール2 中等教育連携推進委員会  
かごしま県民交流センター大ホール2 森林科学編集委員会

■関連研究集会一覧（詳細は別ページをご覧ください）

会場  
かごしま県民交流センター大研修室第2 森林GISフォーラム学生コンテスト(17:00-19:00)  
かごしま県民交流センター小研修室第2 森林立地学会理事会(13:30-15:00)  
かごしま県民交流センター小研修室第2 森林立地学会編集委員会(15:15-16:45)

大会スケジュール 3月27日

開始時刻／会場	共通教育棟 1号館 111講義室	共通教育棟 1号館 121講義室	共通教育棟 1号館 122講義室	共通教育棟 1号館 124講義室	共通教育棟 1号館 125講義室	共通教育棟 1号館 131講義室	共通教育棟 3号館 311講義室		
8:00									
8:15									
8:30									
8:45	S2	S3			T4a	T2a	S7		
9:00	S2-1 S2-2 S2-3 S2-4 S2-5 S2-6	S3-1 S3-2 S3-3 S3-4 S3-5 S3-6 S3-7 S3-8 S3-9			趣旨説明	趣旨説明	S7-1 S7-2 S7-3 S7-4 S7-5 S7-6 S7-7 S7-8		
9:15					T4-1	ポスター紹介			
9:30						T4-2		ポスター紹介	
9:45						T8		ポスター紹介	
10:00						趣旨説明		T4-4	T2-1
10:15						T8-1		調整	T2-2
10:30						T8-2		T4-5	T2-3
10:45						調整・討論		T4-6	調整・討論
11:00						T8-3		T4-7	T2-4
11:15						T8-4		T4-8	T2-5
11:30				T8-5	ポスター紹介	T2-6			
11:45				調整・討論	ポスター紹介	調整・討論			
12:00									
12:15									
12:30									
12:45									
13:00									
13:15									
13:30									
13:45	S1								
14:00	S1-1 S1-2 S1-3 S1-4 S1-5 S1-6 S1-7 S1-8 S1-9 S1-10 S1-11					T2b	S8  S8-1 S8-2 S8-3 S8-4		
14:15		経営1	風致	林政1	T4b	T2-7			
14:30		C1	B1	A1	T4-9	T2-8			
14:45		C2	B2	A2	T4-10	T2-9			
15:00		C3	B3	A3	T4-11	T2-10			
15:15		C4	B4	A4	調整	調整・討論			
15:30		C5	B5	A5	T4-12	T2-11			
15:45		C6	B6	A6	T4-13	T2-12			
16:00		C7	調整	A7	総合討論	T2-13			
16:15		調整・討論		調整	総合討論	総合討論			
16:30									
16:45									
17:00									
17:15									
17:30									
17:45									
18:00～20:30	懇親会（会場：桜島フェリー 錦江湾クルーズ）								

■企画シンポジウム一覧(詳細は別ページをご覧ください)

会場

- 1号館111講義室 S1. “森林・林業分野の人材育成”と教育研究機関の役割-新しい林学を求めて
- 1号館111講義室 S2. 残されたマツ林をどのようにして守るか
- 1号館121講義室 S3. 収穫期を迎えた人工林における資源循環利用と水土保全との両立
- 3号館321講義室 S4. 森林保全遺伝学のこれまでとこれから
- 3号館322講義室 S5. 生理部門特別セッション-樹木の成長と環境：講演会とポスター1分紹介
- 3号館331講義室 S6. 環境に適應する根系の形態と機能-樹木根の成長と機能 企画シンポジウム-
- 3号館311講義室 S7. 森林管理者としての大学演習林～森林の教育・社会貢献活動の意義を考える～
- 3号館311講義室 S8. 熊本地震による森林・林業被害と今後の課題
- 3号館321講義室 S9. 森林動態研究：到達点・応用・展望
- 3号館322講義室 S10. 大気環境変化にともなう森林の生産性と分布の予測

■公募セッション一覧(詳細は別ページをご覧ください)

会場

- 1号館131講義室 T2. 森林生態系中の放射性セシウム汚染に関する新たな知見
- 3号館331講義室 T3. 樹木根の成長と機能
- 1号館125講義室 T4. 流出を測る一分野横断的な解析ツールとしての流出研究の応用と可能性-
- 1号館124講義室 T8. Tropical forestry research



大会スケジュール 3月27日

開始時刻／会場	共通教育棟 3号館 321講義室	共通教育棟 3号館 322講義室	共通教育棟 3号館 324講義室	共通教育棟 3号館 331講義室	学習交流 プラザ2階	学習交流 プラザ1階	学習交流 プラザ1階	共通教育棟 2号館 217講義室			
8:00											
8:15						企業展示準備					
8:30											
8:45	S4	S5		S6							
9:00					P1 ポスター 準備 (11:00までに 掲示して ください)						
9:15			利用1								
9:30			J1	S6-1 S6-2							
9:45			J2								
10:00			J3								
10:15	S4-1 S4-2	S5-1 S5-2	J4								
10:30	S4-3 S4-4	S5-3	調整・討論	T3a							
10:45	S4-5		J5	趣旨説明							
11:00			J6	T3-1							
11:15			J7	T3-2							
11:30			J8	T3-3	P1 ポスター 発表						
11:45			調整・討論	調整・討論							
12:00											
12:15					P1 ポスター 発表 コアタイム	企業展示	大会受付	大会本部			
12:30											
12:45											
13:00											
13:15											
13:30											
13:45	S9	S10	利用2		P1 ポスター 発表						
14:00			J9								
14:15			J10	T3b							
14:30		S10-1 S10-2 S10-3	J11	T3-4							
14:45			J12	T3-5							
15:00	S9-1 S9-2	S10-4	調整・討論	T3-6							
15:15	S9-3	S10-5	J13	調整・討論							
15:30	S9-4	S10-6	J14	T3-7							
15:45	S9-5	S10-7	J15	T3-8							
16:00		S10-8	J16	総合討論		P1ポスター撤収・ 受賞ポスター移動					
16:15			調整・討論	総合討論							
16:30											
16:45											
17:00											
17:15											
17:30											
17:45											
18:00~20:30	懇親会（会場：桜島フェリー 錦江湾クルーズ）										

■P1ポスター発表(学習交流プラザ2階)

林政	P1-001~P1-015	
風致	P1-016~P1-021	
T6	P1-023~P1-025	
T10	P1-027~P1-028	※学生ポスター賞応募ポスターのみ
経営	P1-029~P1-044	※学生ポスター賞応募ポスターのみ
立地	P1-045~P1-064	※学生ポスター賞応募ポスターのみ
造林	P1-065~P1-079	※学生ポスター賞応募ポスターのみ
植物生態	P1-081~P1-111	※学生ポスター賞応募ポスターのみ(1件を除く)
動物・昆虫	P1-112~P1-130	※学生ポスター賞応募ポスターのみ
T5	P1-131~P1-136	
微生物	P1-137~P1-153	※学生ポスター賞応募ポスターのみ
特用林産	P1-154~P1-158	
T3	P1-159~P1-167	
遺伝・育種	P1-168~P1-202	
生理	P1-204~P1-236	
防災	P1-239~P1-247	※学生ポスター賞応募ポスターのみ
T4	P1-248~P1-252	
利用	P1-254~P1-262	※学生ポスター賞応募ポスターのみ
T2	P1-265~P1-287	

※ポスター番号(下3ケタ)は各配置場所に対して割り振られており、1日目と2日目です。そのため、場所によっては空き番号があります。

大会スケジュール 3月28日

開始時刻／会場	共通教育棟 1号館 111講義室	共通教育棟 1号館 121講義室	共通教育棟 1号館 122講義室	共通教育棟 1号館 124講義室	共通教育棟 1号館 125講義室	共通教育棟 1号館 131講義室	共通教育棟 1号館 132講義室	共通教育棟 3号館 311講義室
8:00								
8:15								
8:30								
8:45	林政2	経営2	防災1	生理		T5		
9:00	A8	C8	I1	F1		T5-1		
9:15	A9	C9	I2	F2	植物生態	T5-2		T9
9:30	A10	調整・討論	I3	F3	G1	T5-3		趣旨説明
9:45	A11	C11	I4	調整・討論	G2	T5-4		T9-1
10:00	A12	C12	I5	F4	G3	T5-5		T9-2
10:15	A13	調整・討論	調整・討論	F5	G4	調整・討論		T9-3
10:30	A14	C13	I6	F6	調整・討論	T5-6		調整・討論
10:45	A15	C14	I7	調整・討論	G5	T5-7		T9-4
11:00	A16	C15	I8	F7	G6	T5-8		T9-5
11:15	A17	C16	I9	F8	G7	T5-9		T9-6
11:30	A18	C17	I10	F9	G8	T5-10		調整・討論
11:45	調整	調整・討論	調整・討論	調整・討論	調整・討論	調整・討論		総合討論
12:00								
12:15								
12:30								
12:45								
13:00								
13:15							学会企画	
13:30							大学院進学とその後の進路の選択一どのように社会に出て行くのかー	
13:45								
14:00								
14:15	林政3	経営3	防災2	遺伝・育種	立地	造林		T10
14:30	A19	C18	I11	E1	H1	D1		T10-1
14:45	A20	C19	I12	E2	H2	D2		T10-2
15:00	A21	C20	I13	E3	H3	D3		T10-3
15:15	A22	C21	I14	E4	H4	D4		調整・討論
15:30	A23	C22	調整・討論	E5	調整・討論	調整・討論		T10-4
15:45	A24	調整・討論	I15	調整・討論	H5	D5		T10-5
16:00	A25	C23	I16	休憩	H6	D6		T10-6
16:15	A26	C24	I17	E6	H7	D7		調整・討論
16:30	A27	C25	I18	E7	H8	D8		T10-7
16:45	A28	C26	調整・討論	E8	調整・討論	D9		T10-8
17:00	A29	調整・討論		E9		調整・討論		T10-9
17:15	A30	C27		調整・討論		D10		調整・討論
17:30	A31	C28				D11	学会企画	T10-10
17:45	A32	C29				D12		T10-11
18:00	A33	C30				D13		T10-12
18:15	A34	C31				調整・討論	論文執筆や審査の経験を共有しようPart 2 一回答書や英語論文を書いてみる一	調整・討論
18:30	A35	C32						
18:45	調整	C33						
19:00		調整・討論						
19:15								
19:30								

■公募セッション一覧(詳細は別ページをご覧ください)

会場

- 1号館131講義室 T5. 森林におけるシカ問題の解決に向けて
- 3号館321講義室 T6. 観光とレクリエーション
- 3号館331講義室 T7. 木質バイオマス発電のための未利用木材を長期にわたり安定的かつ調和的に供給するために
- 3号館311講義室 T9. 森林環境の持つ保健休養機能の基礎的研究と応用研究
- 3号館311講義室 T10. 多様な主体による森林教育

■学会企画

会場

- 1号館132講義室 大学院進学とその後の進路の選択一どのように社会に出て行くのかー
- 1号館132講義室 論文執筆や審査の経験を共有しようPart 2一回答書や英語論文を書いてみる一

大会スケジュール 3月28日

開始時刻／会場	共通教育棟 3号館 321講義室	共通教育棟 3号館 322講義室	共通教育棟 3号館 324講義室	共通教育棟 3号館 331講義室	学習交流 プラザ2階	学習交流 プラザ2階	学習交流 プラザ1階	学習交流 プラザ1階	共通教育棟 2号館 217講義室
8:00									
8:15									
8:30									
8:45	T6a	動物・昆虫1	特用林産	T7a					
9:00	T6-1	K1	M1	趣旨説明	P2 ポスター 準備 (11:00まで に掲示して ください)	高校生 ポスター 準備 (11:00まで に掲示して ください)			
9:15	T6-2	K2	M2	T7-1					
9:30	T6-3	K3	M3	T7-2					
9:45	T6-4	K4	微生物1	T7-3					
10:00	T6-5	調整・討論	L1	T7-4					
10:15	調整・討論	K5	L2	調整・討論					
10:30	T6-6	K6	L3	T7-5					
10:45	T6-7	K7	調整・討論	T7-6					
11:00	T6-8	K8	L4	T7-7					
11:15	T6-9	K9	L5	T7-8					
11:30	T6-10	K10	L6	調整・討論	P2 ポスター 発表	高校生 ポスター 発表	企業展示	大会受付	大会本部
11:45	調整・討論	調整・討論	調整・討論	調整・討論					
12:00					P2 ポスター 発表 コアタイム	高校生 ポスター 発表 コアタイム			
12:15									
12:30									
12:45									
13:00									
13:15					P2 ポスター 発表	高校生 ポスター 発表			
13:30									
13:45									
14:00									
14:15	T6b	動物・昆虫2	微生物2	T7b					
14:30	T6-11	K11	L7	T7-9					
14:45	T6-12	K12	L8	T7-10					
15:00	T6-13	K13	L9	T7-11					
15:15	T6-14	調整・討論	調整・討論	T7-12					
15:30	調整・討論	K14	L10	T7-13					
15:45	T6-15	K15	L11	調整・討論	P2 ポスター 撤収	高校生 ポスター 撤収	企業展示 撤収		
16:00	T6-16	K16	L12	T7-14					
16:15	T6-17	調整・討論	L13	T7-15					
16:30	調整・討論	K17	調整・討論	T7-16					
16:45	T6-18	K18	L14	調整・討論					
17:00	T6-19	K19	L15	T7-17					
17:15	T6-20	調整・討論	L16	T7-18					
17:30	T6-21		調整・討論	総合討論					
17:45	T6-22			総合討論					
18:00	T6-23								
18:15	調整・討論								
18:30									
18:45									
19:00									
19:15									
19:30									

■P2ポスター発表(学習交流プラザ2階)

経営 P2-025~P2-064  
 植物生態 P2-065~P2-089  
 造林 P2-091~P2-150  
 利用 P2-152~P2-167  
 動物・昆虫 P2-168~P2-191  
 立地 P2-194~P2-214  
 防災 P2-220~P2-240  
 微生物 P2-246~P2-263

※ポスター番号(下3ケタ)は各配置場所に対して割り振られており、1日目と2日目で同一です。そのため、場所によっては空き番号があります。

■高校生ポスター発表(学習交流プラザ2階)

KP01~KP19 (配置場所番号は265~283)

■学生ポスター賞受賞ポスター展示(学習交流プラザ2階)

PP01~PP24 (配置場所番号は001~024)

大会スケジュール 3月29日

開始時刻／会場	共通教育棟 1号館 111講義室	共通教育棟 1号館 121講義室	共通教育棟 1号館 124講義室	共通教育棟 1号館 125講義室	共通教育棟 1号館 131講義室	共通教育棟 1号館 132講義室	共通教育棟 1号館 133講義室	農学部共通棟 101講義室
8:00								
8:15								
8:30								IUFOR-J 平成29年度 機関代表会議
8:45								
9:00								
9:15								
9:30								
9:45								
10:00								
10:15		第21回森林 施業研究会 シンポジウム	第23回森林 昆虫談話会		第6回森林 遺伝育種 シンポジウム	樹木病害 研究会	林木の成長 機構研究会	
10:30								
10:45								
11:00								
11:15								
11:30								
11:45								
12:00								
12:15								
12:30								
12:45				森林利用学会 平成29年度 総会・ シンポジウム				
13:00								森林計画学会 総会・講演会・ シンポジウム
13:15								
13:30	林業経済学会 春季大会							
13:45								
14:00								
14:15								
14:30								
14:45								
15:00								
15:15								
15:30								
15:45								
16:00								
16:15								
16:30								
16:45								
17:00								
17:15								
17:30								
17:45								

■関連研究集会一覧(詳細は別ページをご覧ください)  
会場

- |                |                        |
|----------------|------------------------|
| 共通教育棟1号館111講義室 | 林業経済学会春季大会             |
| 共通教育棟1号館121講義室 | 第21回森林施業研究会シンポジウム      |
| 共通教育棟1号館124講義室 | 第23回森林昆虫談話会            |
| 共通教育棟1号館125講義室 | 森林利用学会 平成29年度総会・シンポジウム |
| 共通教育棟1号館131講義室 | 第6回森林遺伝育種シンポジウム        |
| 共通教育棟1号館132講義室 | 樹木病害研究会                |
| 共通教育棟1号館133講義室 | 林木の成長機構研究会             |
| 農学部共通棟101講義室   | IUFOR-J平成29年度機関代表会議    |
| 農学部共通棟101講義室   | 森林計画学会 総会・講演会・シンポジウム   |



研究発表題目(企画シンポジウム・公募セッション) 3月27日午前 1/2

会場	1号館111講義室	1号館121講義室	1号館122講義室	1号館124講義室	1号館125講義室	1号館131講義室
開始時刻	S2 残されたマツ林をどのようにしてするか	S3 収穫期を迎えた人工林における資源循環利用と水土保全との両立			T4a 流出を測る一分野横断的な解析ツールとしての流出研究の応用と可能性	T2a 森林生態系中の放射性セシウム汚染に関する新たな知見
9:00	S2-1 松くい虫被害に対する防除戦略: 考え方と実際: 中村克典(森林総合研究所)	S3-1 木材生産と水土保全との両立に向けた森林流域試験の取り組み: 野口正二(森林総合研究所)			趣旨説明	趣旨説明
9:15	S2-2 選抜された抵抗性マツ植栽林における材線虫病の流行と新防除技術: 杉本博之(山口県農林総合技術センター)ら	S3-2 人工林における林分構造の変化が葉散量に及ぼす影響評価に向けて: 鶴田健二(京都大学)			T4-1 自動水質観測センサーを用いた: 溪流水質の短時間変動特性の解明: 勝山正則(京都大学)ら	ポスター紹介
9:30	S2-3 北限の松枯れの特徴を踏まえた省力的防除体制: 科学的検証と秋田の市民ボランティアによる15年間の実践: 星崎和彦(秋田県立大学)ら	S3-3 森林の水土保全機能向上への流域人工林管理技術実装へ向けて: 五味高志(東京農工大学)ら			T4-2 花崗岩山地と堆積岩山地における雨水流出および溶存物質流出の空間不均一性: 小杉賢一朗(京都大学)ら	ポスター紹介
9:45	S2-4 "マツノサイエンチュウ潜在感染松に対し樹幹注入剤の効果は?" - 2.3の検証 - : 田中啓司(近畿大学)	S3-4 斜面における土層発達・崩壊と人工林の資源循環利用: 下川悦郎(鹿児島大学)ら			T4-3 降雨時の高頻度水質観測に基づく流出・水質形成プロセスの考察: 小田智基(東京大学)ら	ポスター紹介
10:00	S2-5 潜在感染木に対する樹幹注入剤の効果 - 三保松原において小集団で毎年発生する松枯れ被害地の枯死木発生経過と対策 - : 加藤徹(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)ら	S3-5 次世代の森林整備に向けた九州国有林での取組 - 人工林での資源循環利用に向けて - : 大政康史(林野庁九州森林管理局)		T8 Tropical forestry research	T4-4 洪水流出減衰曲線から推定された森林小流域の流出過程の考察: 小島永裕(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)ら	T2-1 福島県の森林における放射性セシウムの移行と林内空間線量率の時間変化傾向: 加藤弘亮(筑波大学)ら
10:15	S2-6 潜在感染木を対象に含めたマツ枯れ防除戦略: 二井一積(京都大学, サンケイ化学)	S3-6 資源循環利用と生物多様性・水土保全を両立させる伐区配置の検討: 伊藤哲(宮崎大学)ら		Explanation	T4-5 山地小流域からの溪流を経路とした炭素と窒素の放出量: 高木正博(宮崎大学)	T2-2 森林モニタリングサイトにおける放射性セシウム蓄積量の時系列変化および空間分布: 今村直広(森林総合研究所)ら
10:30		S3-7 オーストリア・チロル州の市町村林務職員による野溪監視(Wildbachbetreuung): 古井戸宏道(東京大学)		T8-1 Dynamism of work organization for swidden agriculture and commercial crop cultivation in East Kalimantan, Indonesia: Takata, Naoko (University of Tokyo) et al.	調整	T2-3 福島県森林土壌の放射性Csの鉛直分布と吸着形態の特徴: 伊藤祥子(国立環境研究所)ら
10:45		S3-8 獣害問題に学ぶ: 小泉透(森林総合研究所)		T8-2 Multi-stakeholder interaction for a successful customary forest scheme in Indonesia: Yumi Sakata (Nagoya University) et al.	T4-6 森林流域におけるリター流出の季節変動: 山部翔太郎(東京大学)ら	調整・討論
11:00		S3-9 石油が不足すると森林管理で何が問題になるか?: 小松光(京都大学)		Discussion	T4-7 山地河川における大規模土砂流出の計測 - 新しい手法の開発と2016年台風9号出水の観測 - : 宮田秀介(京都大学)ら	T2-4 日本の森林土壌中のグローバルフールアウト: 三浦寛(森林総合研究所)ら
11:15				T8-3 Ecological networking to scale-up and sustain ecological restoration in the dry lands of northern Ethiopia: Buruh Abebe Tetemke (Mekelle University) et al.	T4-8 溪流水質に基づく深層崩壊の危険度評価の試み: 堀田紀文(筑波大学)ら	T2-5 森林内の放射性セシウムの分布・動態に及ぼす乾性・湿性沈着の影響: 金子真司(森林総合研究所)ら
11:30				T8-4 Identifying households taking maladaptive coping strategies: Case study of deforestation in Cambodia: Ehara, Makoto (Forestry and Forest Products Research Institute) et al.	ポスター紹介	T2-6 部分皆伐が放射性セシウムの流出に及ぼす影響: 鍋島達啓(福島県環境創造センター)ら
11:45				T8-5 How much can we get from forests? Knowing realistic values is a first step for better planning.: Takeshi Toma (Forestry and Forest Products Research Institute)	ポスター紹介	調整・討論
12:00 ~ 13:30	P1ポスター発表コアタイム					

企画シンポジウムについては、発表の順序を示しており、時間の配分は企画シンポジウムごとに異なります。

発表時間の厳守をお願いします。

座長は別のページに記載しています。

「調整・討論」のコマは、座長の裁量で、時間調整、総合討論等に使用します(林政、風致部門を除く)。

発表後、「調整・討論」の終了時間までは、会場にいてください(林政、風致部門を除く)。

林政部門は、直前の発表者が次の発表の司会(座長)を務めてください。

研究発表題目(企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表) 3月27日午前 2/2

会場	3号館311講義室	3号館321講義室	3号館322講義室	3号館324講義室	3号館331講義室
開始時刻	S7 森林管理者としての大学演習林～森林の教育・社会貢献活動の意義を考える～	S4 森林保全遺伝学のこれまでとこれから	S5 生理部門特別セッション-樹木の成長と環境:講演会とポスター1分紹介		S6 環境に適応する根系の形態と機能-樹木根の成長と機能 企画シンポジウム-
9:00	S7-1 大学演習林の教育および社会との関わりの変遷と多様性-斎藤暎生(東京大学)ら	S4-1 フナ林の断片化がフナ集団の遺伝的多様性と繁殖に及ぼす影響-戸丸信弘(名古屋大学)ら	S5-1 Enzyme identification and pathway engineering in plant phenolic metabolism: Carsten Milkowski (Martin Luther University of Halle-Wittenberg)		S6-1 栽培環境に適した植物根の形態-作物根系の事例から-阿部淳(東海大学)
9:15	S7-2 大学演習林アンケートにみる教育・社会連携活動の実態-石橋整司(東京大学)ら	S4-2 持続的な熱帯林管理のためのフタバガキ科林業樹種の交配特性を考慮した択伐施業の高度化-谷尚樹(国際農林水産業研究センター)ら	S5-2 シグナル物質によるヒノキ節節防御反応の制御-橋本大(東京大学)	利用1	S6-2 樹木の根系構造と引き抜き抵抗カ:山瀬敬太郎(兵庫県立農林水産技術総合センター)
9:30	S7-3 鹿児島大学演習林の森林環境教育:行政・NPO・地域住民との協働による多様な発展とそれに伴う諸課題-井倉洋二(鹿児島大学)	S4-3 MIG-seq法による熱帯林樹木の保全遺伝学的研究-満行知花(東北大学)ら	S5-3 Roles of ethylene in growth responses of woody species under various environmental stresses: Yamamoto, Fukuju (Tottori University)		
9:45	S7-4 新潟大学佐渡演習林における地域貢献活動-大学教育と大学外教育のジレンマ-崎尾均(新潟大学)ら	S4-4 特殊土壌への適応が促した森林植物の系統分化-阪口翔太(京都大学)ら		J1 長尺材採材を目的とした大径木の伐出作業で伐倒方向が生産性に与える影響-興権兼三(広島県立総合技術研究所林業技術センター)ら	
10:00	S7-5 東京大学秩父演習林における近年の利用申込の特徴-高徳佳絵(東京大学)ら	S4-5 保全遺伝学から保全ゲノムクスへ:変わる事、変わらないこと-津田吉晃(筑波大学)		J2 素材生産におけるチェーンソー作業の寄与率-飛田京子(東京大学)ら	
10:15	S7-6 北大研究林のフィールドを活用した地域連携-小塚力(北海道大学)ら			J3 かかり木の発生確率-松本武(東京農工大学)	
10:30	S7-7 岐阜大学位山演習林における森林管理と教育活動-天然木の経済的価値とヒノキ科極相林の保全-石田仁(岐阜大学)			J4 素材生産の作業システム改善による労働生産性の向上-谷口智彦(名古屋大学)ら	
10:45	S7-8 演習林の森林認証取得と意義-信州大学農学部附属AFC演習林の事例-三木敦朗(信州大学)ら			調整・討論	T3a 樹木根の成長と機能
11:00				J5 自律分散集材架線機構-仁多見俊夫(東京大学)	趣旨説明
11:15				J6 林業架線の主素が集材時に受ける衝撃-植之原碧(東京農工大学)ら	T3-1 アラスカ内陸部におけるクロトウヒ根系の水平分布-城田徹夫(信州大学)ら
11:30				J7 スイングヤーダをどげんかせんといかん-吉村哲彦(島根大学)ら	T3-2 スギ林における根密度のクローン間変異-大平峰子(森林総合研究所)
11:45				J8 GPS データを用いた架線集材作業の時間分析-山尾真生(名古屋大学)ら	T3-3 樹木群集の環境傾度に対する応答を地上・地下部の形質変化から考える-前田瑞貴(横浜国立大学)ら
12:00 ~ 13:30	P1ポスター発表コアタイム				

企画シンポジウムについては、発表の順序を示しており、時間の配分は企画シンポジウムごとに異なります。

発表時間の厳守をお願いします。

座長は別のページに記載しています。

「調整・討論」のコマは、座長の裁量で、時間調整、総合討論等に使用します(林政、風致部門を除く)。

発表後、「調整・討論」の終了時間までは、会場にいてください(林政、風致部門を除く)。

林政部門は、直前の発表者が次の発表の司会(座長)を務めてください。

研究発表題目(企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表) 3月27日午後 1/2

会場	1号館111講義室	1号館121講義室	1号館122講義室	1号館124講義室	1号館125講義室	1号館131講義室
開始時刻	S1 “森林・林業分野の人材育成”と教育研究機関の役割—新しい林学を求めて					
14:00	S1-1 森林・林業分野の人材育成と教育研究機関:田村興江(総合地球環境学研究所)					T2b 森林生態系中の放射性セシウム汚染に関する新たな知見
14:15	S1-2 森林・林業基本計画における人材育成の位置づけとその取組状況について:川村竜哉(林野庁)					
14:30	S1-3 地方林務行政における林業教育への期待—海外連携の経験を通じて—中村幹広(岐阜県立森林文化アカデミー)	経営1	風致	林政1	T4b 流出を測る一分野横断的な解析ツールとしての流出研究の応用と可能性—	T2-7 ジョロウグモは森林環境および生息節足動物の放射性セシウム汚染の指標となるか?:綾部慈子(名古屋大学)ら
14:45	S1-4 「県立の専修学校(林業専門学校)が担う社会人教育」の意義:横井秀一(岐阜県立森林文化アカデミー)	C1 Reineke式再考:井上昭夫(熊本県立大学)ら	B1 本庄早稲田の森を対象とした景観機能評価に関する研究—SD法による景観印象評価を中心として—康尼(早稲田大学)ら	A1 受粉をめぐる生態系サービスの知識伝播の分析:養蜂に関する東アジアの先行研究と国内の現地調査より:内山倫太(東北大学)ら	T4-9 森林流域における降雨流出特性と清澄水供給ポテンシャルとの関係:芳賀弘和(鳥取大学)ら	T2-8 福島県木戸川水系における溪流魚の <sup>137</sup> Cs濃度—事故後5年目の結果—岡田直紀(京都大学)ら
15:00	S1-5 鹿児島大学における林業社会人教育プログラム:枚田邦宏(鹿児島大学)ら	C2 日本全国を対象としたスギ、ヒノキ、カラマツ地位指数分布の推定:光田晴(宮崎大学)ら	B2 富山県砺波平野における屋敷林の現状と課題:石灰希(京都大学)ら	A2 国際森林政策と科学政策インターフェース: CBDとIPBESにおける在来知・伝統的知識の扱いと利益配分をめぐる議論より:香坂玲(東北大学)ら	T4-10 防風林から牧草地への夜間の暖気流出—北海道東部の格子状防風林における事例—:岩崎健太(北海道立総合研究機構林業試験場)ら	T2-9 モニタリングデータを用いた野生きのこの放射性セシウム汚染の解析:小松雅史(森林総合研究所)ら
15:15	S1-6 北海道に即した林業技術者の育成—大学・研究機関の役割:柿澤宏昭(北海道大学)	C3 天然林の成長予測への航空機リモートセンシングの応用:平田泰雅(森林総合研究所)ら	B3 茨城県自然環境保全地域と保安林との重複地域の現状:川端篤志(筑波大学)	A3 スマトラ島ワイ・カンパス国立公園における住民主体のソウ被害対策の実態:中川ゆりや(東京大学)ら	T4-11 窒素安定同位体比を用いた森林大気中NOxの起源推定法の開発:渡邊未来(国立環境研究所)ら	T2-10 福島原発事故によるキノコ類への放射性セシウムの蓄積—東京大学演習林における5年間の調査結果—山田利博(東京大学)ら
15:30	S1-7 大学演習林における林業技術者に対する教育活動の実践:山本信次(岩手大学)	C4 リモートセンシングによる材積分布の広域推定における課題:栗屋善雄(岐阜大学)	B4 沖縄県国頭村の保安林が持つ近世地球の「抱擁」的特徴:齋藤和彦(森林総合研究所)	A4 プータンにおける森林保全のための政策及び環境教育に関する研究:神前佳毅(京都大学)	調整	調整・討論
15:45	S1-8 高校教育の中の森林・林業教育:奈良岡隆樹(青森県立五所川原農林高等学校)	C5 JICA-JAXA熱帯林早期警戒システム(JJ-FAST)におけるALOS-2/PALSAR-2を利用した森林伐採検出:林真智(宇宙航空研究開発機構)ら	B5 全国の林業遺産の分布状況と今後の展望:深町加津枝(京都大学)ら	A5 熱帯林減少と保全の動学モデル分析:王瀾陽(東京大学)	T4-12 シカによる森林下層植生の衰退と窒素流出の関係:降雨時の応答に着目して:福島慶太郎(首都大学東京)ら	T2-11 立木樹皮放射性セシウム濃度の地域特性:山村充(国土防災技術)ら
16:00	S1-9 京都府立林業大学校における教育の現状と課題について:志方隆司(京都府立林業大学校)	C6 WorldView-2を用いた松本市の松枯れ被害把握:竹中悠輝(信州大学)ら	B6 IUCN保護地域管理カテゴリの日本における適用状況の分析:伊藤太一(筑波大学)ら	A6 最近の中国における森林政策の動向と変化:平野悠一郎(森林総合研究所)	T4-13 谷壁斜面において十分に湿潤になった土層で観測された降雨流出機構を飽和と不飽和浸透流理論によって再現する試み:谷誠(人間環境大学)	T2-12 森林林床の木質チップの真菌菌群集と放射性セシウムの移行との関係:金子信博(横浜国立大学)ら
16:15	S1-10 JABEEプログラムの現状からみた大学の林学教育:戸田浩人(東京農工大学)	C7 ヒノキ苗の分光反射特性及び水ストレスの日変化:中島義明(静岡大学)ら	調整	A7 中国における社会経済要因が森林面積に与える影響: Tan, Jiaye(筑波大学)ら	総合討論	T2-13 放射性セシウム汚染に関する情報発信の現状と課題—福島の森林・林業再生に向けて—藤野正也(京都大学)
16:30	S1-11 高度林業技術者の育成に向けた大学院教育の目標と課題:山田容三(愛媛大学)	調整・討論	調整	調整	総合討論	総合討論
16:45						
17:00						
17:15						
17:30						
17:45						
18:00 ~ 20:00	懇親会(会場: 桜島フェリー 錦江湾クルーズ)					

企画シンポジウムについては、発表の順序を示しており、時間の配分は企画シンポジウムごとに異なります。

発表時間の厳守をお願いします。

座長は別のページに記載しています。

「調整・討論」のコマは、座長の裁量で、時間調整、総合討論等に使用します(林政、風致部門を除く)。

発表後、「調整・討論」の終了時間までは、会場にいてください(林政、風致部門を除く)。

林政部門は、直前の発表者が次の発表の司会(座長)を務めてください。



研究発表題目(企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表) 3月27日午後 2/2

会場	3号館311講義室	3号館321講義室	3号館322講義室	3号館324講義室	3号館331講義室
開始時刻		S9 森林動態研究:到達点・応用・展望	S10 大気環境変化にともなう森林の生産性と分布の予測	利用2	
14:00		S9-1 落葉広葉樹林における動態研究の到達点:正木隆(森林総合研究所) S9-2 用材林に誘導された旧薪炭ブナ林の択伐的利用と天然更新:紙谷智彦(新潟大学)	S10-1 日本の森林樹種の成長および乾物分配のオゾンに対する応答:渡辺誠(東京農工大学)ら S10-2 オゾン暴露と硫酸アンモニウム付加に対するニホンカラマツとクイマツ雑種F <sub>1</sub> 苗木の応答の種間差:菅井徹人(北海道大学)ら S10-3 開放系O <sub>3</sub> 付加施設で生育させた落葉広葉樹の無機養分の動態:小池孝良(北海道大学)ら	J9 作業日報を用いた一貫作業等の作業効率分析:野村久子(三重県農業研究所)	
14:15	S8 熊本地震による森林・林業被害と今後の課題	S9-3 琉球諸島の生物多様性保全と森林管理:システム化保全計画と森林施業スキーム:久保田康裕(琉球大学)	S10-4 境界面としての樹冠における大気との相互作用:佐瀬裕之(アジア大気汚染研究センター)ら S10-5 水溶性エアロゾルの森林樹冠への乾性沈着:堅田元喜(茨城大学)	J10 小型自走式草刈り機の林地導入への可能性:渡辺一郎(北海道立総合研究機構林業試験場)ら	T3b 樹木根の成長と機能
14:30	S8-1 平成28年熊本地震の概要と山地災害の発生状況:黒川潮(森林総合研究所) S8-2 現地調査に基づく熊本地震に伴う山地災害の実態と特徴:久保田哲也(九州大学)	S9-4 スギの長期動態研究-これからどこに向かうのか-松下通也(森林総合研究所) S9-5 スギ人工林における成長の地域差と伐期:西園朋広(森林総合研究所)	S10-6 生態系への人為的な窒素負荷の増大は樹木にどのような影響を及ぼすのか:久米篤(九州大学)	J11 育林ロボット 自動植付機・自動刈り機の開発:山田健(森林総合研究所)ら	T3-4 土壌窒素と生産性の関係における天然林と人工林の違い-種交代が地下部生産量に与える影響:菱沼雄(九州大学)ら
14:45	S8-3 熊本県における森林被害と復旧・復興への取組み:木下節夫(熊本県) S8-4 熊本地震で発生した森林域の亀裂等の航空レーザー計測による把握:岸功規(林野庁)		S10-7 養分状態が異なる土壌で育成したブナ苗のCO <sub>2</sub> 固定量に対するオゾンの影響:黄瀬佳之(東京農工大学)ら S10-8 オゾン吸収量に基づいた森林のCO <sub>2</sub> 吸収機能に対するオゾンの影響評価:北尾光俊(森林総合研究所)	J12 モウソウチク皆伐跡地における再生量と再生サイクル:村上勝(山口県農林総合技術センター)ら	T3-5 大規模窒素施肥が樹木細根の現存量及び生産量に与える影響の解明:牧田直樹(信州大学)ら
15:00				調整・討論	T3-6 根の切断および石灰施肥処理が樹木の細根生産量に与える影響:田中(小田)あゆみ(森林総合研究所)ら
15:15				J13 直送方式下における素材の用途別出荷距離と林業経営への影響-北海道での事例分析-津田高明(北海道立総合研究機構林業試験場)ら	調整・討論
15:30				J14 木材需要に応じた素材生産体制の構築における情報集約の課題:繁田直樹(東京大学)ら	T3-7 スキャナ法を用いた熱帯雨林における樹木細根の成長・枯死パターンの解明:山内里佳(兵庫県立大学)ら
15:45				J15 無人ヘリおよび地上からの森林3次元レーザー計測における連携可能性:山崎淳史(広島県立総合技術研究所林業技術センター)ら	T3-8 2015年-2016年における苗場山ブナ林の細根動態:野口孝太郎(森林総合研究所)ら
16:00				J16 RGB-Dカメラによる森林作業道の検知:有水賢吾(森林総合研究所)	総合討論
16:15				調整・討論	総合討論
16:30					
16:45					
17:00					
17:15					
17:30					
17:45					
18:00 ~ 20:00	懇親会(会場:桜島フェリー 錦江湾クルーズ)				

企画シンポジウムについては、発表の順序を示しており、時間の配分は企画シンポジウムごとに異なります。

発表時間の厳守をお願いします。

座長は別のページに記載しています。

「調整・討論」のコマは、座長の裁量で、時間調整、総合討論等に使用します(林政、風致部門を除く)。

発表後、「調整・討論」の終了時間までは、会場にいてください(林政、風致部門を除く)。

林政部門は、直前の発表者が次の発表の司会(座長)を務めてください。

研究発表題目(公募セッション・部門別口頭発表) 3月28日午前 1/2

会場	1号館111講義室	1号館121講義室	1号館122講義室	1号館124講義室	1号館125講義室	1号館131講義室
開始時刻	林政2	経営2	防災1	生理		T5 森林におけるシカ問題の解決に向けて
9:00	A8 屋久島の薪炭生産に関する映像研究.柴崎茂光(国立歴史民俗博物館)	C8 大規模点群データを用いた森林の樹木形状生成手法.齋藤和人(電気通信大学)ら	I1 遠州灘海岸防潮堤における広葉樹枯死要因の検討.猿田けい(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)ら	F1 地球温暖化による樹木の呼吸量増加は温度順化によってどの程度抑制されるのか?.荒木真岳(森林総合研究所)ら		T5-1 森林生態系多様性基礎調査データを用いたニホンジカによる森林への影響評価.大橋春香(森林総合研究所)ら
9:15	A9 センサステータによる農林複合経営が顕著な地域への抽出-世界農業遺産「高千穂郷・椎葉山地域」の特徴付けに関連して-藤掛一郎(宮崎大学)	C9 3次元点群データを用いた森林構造の把握.田村太志(千葉大学)ら	I2 年代別空中写真の比較からみた植生の長期的な変化が崩壊特性に与える影響.大丸裕武(森林総合研究所)	F2 結実がブナの木質器官への炭素配分動態に及ぼす影響-安定性同位体アプローチによる解析-。韓慶民(森林総合研究所)ら	植物生態	T5-2 シカ影響下のブナ林に16年間設置した植生保護柵が林床植生と樹木稚樹に及ぼす効果.田村淳(神奈川県自然環境保全センター)
9:30	A10 東北農村における子育て世代の生活構造と意向-宮城県登米市東和町米川地区のアンケート調査から-。高野涼(岩手大学)ら	調整・討論	I3 火山地域を対象とした豪雨と表層崩壊の関係について-伊豆大島を事例として-。執印康裕(宇都宮大学)	F3 乾燥ストレス条件におけるヨーロッパバナの節部形状と師液輸送.禮浦正子(京都大学)ら	G1 樹木の耐風性に及ぼす樹形力学特性の影響についての数値実験.南光一樹(森林総合研究所)ら	T5-3 ナラ枯れ被害林におけるシカ補の効果.伊東宏樹(森林総合研究所)
9:45	A11 竹林の荒廃・拡大に対する周辺住民の認識.評価-茨城県つくば市茨崎地区を事例として-。相原隆貴(筑波大学)ら	C11 南筑輪村有林の間伐試験林における間伐前後の航空レーザとUAVを用いた経年変化抽出.市川菜(信州大学)ら	I4 関東東北豪雨で発生した斜面崩壊の場の特徴と樹木の土砂捕捉について.岡田康彦(森林総合研究所)ら	調整・討論	G2 ゲーム理論による森林風害連鎖メカニズムの解明.上村佳奈(信州大学)	T5-4 エゾシカによる人工林被害レベルの評価指標.明石信廣(北海道立総合研究機構林業試験場)
10:00	A12 環境基本計画・生物多様性地域戦略と連動した市民参加による森林管理-福津市におけるプロジェクトマネジメントと-。伊東啓太郎(九州工業大学)ら	C12 間伐指針づくりのためのUAVを用いた陽樹冠計測.米康克(島根大学)ら	I5 土石流中の流木の挙動に関する粒子法シミュレーション.鈴木拓郎(森林総合研究所)ら	F4 マダケにおける稈齢と水分生理的機能.作田耕太郎(九州大学)ら	G3 異なる斜面位置における冠雪害抵抗性の違い.山本拓也(信州大学)ら	T5-5 伊豆地域におけるニホンジカ生息密度と森林累積被害の関係性.小松鷹介(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)ら
10:15	A13 森林生態系サービスの空間的経済評価.岩田健吾(京都大学)	調整・討論	調整・討論	F5 コンバクトMRIを用いた樹幹の樹液流速分布の可視化.平川雅文(東京大学)ら	G4 電源・情報インフラのない森林での定点撮影画像を用いた生物季節への気候変動影響評価.中村英史(東京大学)ら	調整・討論
10:30	A14 J-クレジット制度における森林分野の現状と課題.福岡崇(亜細亜大学)	C13 ALS (Airborne Laser Scan) データを活用した相対幹距の推定.田中和博(京都府立大学)ら	I6 気象条件に対する冠雪重量変化の解析とモデル開発.勝島隆史(森林総合研究所)ら	F6 父島低木林における強度乾燥経験後の樹木生理活性回復過程と衰退過程の分岐点.吉村謙一(京都大学)ら	調整・討論	T5-6 GPS首輪による追跡から把握したニホンジカの行動の性差.大塚孝裕(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)ら
10:45	A15 住宅・土地統計調査による山林所有者数.松下幸司(京都大学)ら	C14 Species classification of natural broad-leaved forests in Afan Woodland using airborne laser data: Deng, Songqiu (Shinshu University) et al.	I7 大気・土壌環境の変化が森林蒸発散に与える影響-東シベリア・カラマツ林2サイトの比較-。中坪稔(名古屋大学)ら	調整・討論	G5 45年前に調査された高知県鹿取山のモミ林の現在の林分構造.米田令仁(森林総合研究所)ら	T5-7 「ニホンジカ・カモシカ識別キット」の開発.相川拓也(森林総合研究所)ら
11:00	A16 わが国における林地集積の二面性.大塚生美(森林総合研究所)	C15 雲み込みニューラルネットワークを用いた点群からの樹種自動判別手法.溝口知広(日本大学)ら	I8 スギにおけるグラニエセンサーのキャリブレーション.篠原慶規(九州大学)ら	F7 遺伝子ネットワーク解析によるブナ衰退現象の因果推論.齋藤秀之(北海道大学)ら	G6 屋久島西部照葉樹林における立地基質による樹木の分布および成長の差異.齊藤哲(森林総合研究所)ら	T5-8 シカの給餌誘引に及ぼす下層植生の影響.八代田千鶴(森林総合研究所)ら
11:15	A17 「自伐型林業」における林地の所有と利用の諸相.佐藤直子(九州大学)	C16 航空レーザ計測データの樹冠高モデルが単木情報解析に及ぼす影響評価.大野勝正(アジア航測)	I9 ヒノキ人工林における単木の樹幹流下量のばらつき説明要因.田中延亮(東京大学)ら	F8 <i>Eucalyptus camaldulensis</i> の加水分解性タンニン生成に関わる糖転移酵素の同定.田原恒(森林総合研究所)ら	G7 地中海の硬葉樹林と東亜の照葉樹林はどのくらい似ている? -北半球の暖帯相当域の森林の木本種多様性比較-。次任克博(鳥取大学)	T5-9 人工林皆伐跡地におけるニホンジカ集中捕獲を目指した利用状況モニタリング(続報).奥村栄朗(森林総合研究所)ら
11:30	A18 社会的相互作用と森林所有者の自発的参加行動に関する計量分析:集約化施業プログラムの事例から.篤田栄樹(京都大学)ら	C17 ALS (Airborne Laser Scan) データを活用した地位指数の推定.塩田廣美(京都府立大学)ら	I10 風台風による落葉がスギ・ヒノキ人工林における二酸化炭素フラックスの長期変動に及ぼした影響.清水貴範(森林総合研究所)ら	F9 酵母に抗生物質耐性を付与するポブラのGPT遺伝子の性質.西口濱(森林総合研究所)	G8 Diversity and abundance of invertebrate assemblage around forest edges facing crop fields in East Java, Indonesia: Palaguna Umaryasa (University of Miyazaki) et al.	T5-10 新植地でのシカ捕獲によるスギ・ヒノキ苗木食害の軽減効果.大谷達也(森林総合研究所)ら
11:45	調整・討論	調整・討論	調整・討論	調整・討論	調整・討論	調整・討論
12:00 ~ 13:30	P2, 高校生ポスター発表コアタイム					

発表時間の厳守をお願いします。

座長は別のページに記載しています。

「調整・討論」のコマは、座長の裁量で、時間調整、総合討論等に使用します(林政部門を除く)。

発表後、「調整・討論」の終了時間までは、会場にいてください(林政部門を除く)。

林政部門は、直前の発表者が次の発表の司会(座長)を務めてください。

研究発表題目(公募セッション・部門別口頭発表) 3月28日午前 2/2

会場	3号館311講義室	3号館321講義室	3号館322講義室	3号館324講義室	3号館331講義室
開始時刻		T6a 観光とレクリエーション	動物・昆虫 I	特用林産	T7a 木質バイオマス発電のための未利用木材を長期にわたり安定的かつ調和的に供給するために
9:00		T6-1 「牛久自然観察の森」を事例とした里山林の管理・利用における共通性と差異:神宮翔真(筑波大学)ら	K1 羽化脱出直後のカシノナガキクイムシの飛翔生態:山崎理正(京都大学)ら	M1 中国におけるもうそうちく資源の利用の現状と竹材流通の実態-江蘇省宜興市を事例として:孫麟程(京都大学)ら	趣旨説明
9:15	T9 森林環境の持つ保健休養機能の基礎的研究と応用研究	T6-2 協働型管理における持続可能性指標モデルの適用可能性に関する考察:寺崎竜雄(日本交通公社)ら	K2 越冬中のカシノナガキクイムシ幼虫および成虫の過冷却点:北島博(森林総合研究所)ら	M2 原木ナメコ栽培におけるイヤ地現象について:古川仁(長野県林業総合センター)ら	T7-1 多雪地における林地残材の発生量と供給可能性:園子光太郎(富山県農林水産総合技術センター森林研究所)
9:30	趣旨説明	T6-3 太平洋沿岸部の住民が認識する海の恵みと脅威-三陸沿岸部と土佐湾沿岸部の比較-山本清龍(岩手大学)	K3 カシナガトラップを用いたナラ枯れ防除の成功例:小林正秀(京都府農林水産技術センター森林技術センター)	M3 マツタケシロの抗菌物質・シュウ酸アルミニウムの濃度とマツタケ菌体量の季節変化:西野勝俊(京都大学)ら	T7-2 北関東周辺地域における小規模木質バイオマスガス化発電の現状:有賀一広(宇都宮大学)ら
9:45	T9-1 風景評価に及ぼす生育環境の影響:尾崎勝彦(フーランド)ら	T6-4 地方自治体における観光客受け入れ意識に関する研究(その1):吉谷地裕(日本交通公社)ら	K4 ナラ枯れ被害拡大地域のコナラ・ミスナラ林分で翌年のナラ枯れ危険度を予想する:西信介(鳥取県林業試験場)ら	微生物 I	T7-3 長野県における木質バイオマス利用状況と利用可能量の推計:斎藤仁志(信州大学)ら
10:00	T9-2 中期滞在の都市近郊林滞在におけるストレスコーピング・レジリエンス・気分の変化:高山範理(森林総合研究所)	T6-5 地方自治体における観光客受け入れ意識に関する研究(その2):菅野正洋(日本交通公社)ら	調整・討論	L1 都市公園の広葉樹樹下に発生したキシメジ菌属について:玉井裕(北海道大学)ら	T7-4 高知県における木質バイオマス発電への材供給・残材利用と基盤整備:鈴木保志(高知大学)ら
10:15	T9-3 高頻度の森林散策が日常のメンタルヘルスに及ぼす影響:大規模疫学調査 J-MICG Study 静岡地区より:森田えみ(森林総合研究所)ら	調整・討論	K5 日本産と台湾産マツノマダラカミキリの亜種間交雑が幼虫休眠と成虫形質に及ぼす影響:富程一巳(東京大学)	L2 イボセイヨウショウロの子実体発生環境の解明にむけて:木下晃彦(森林総合研究所)ら	調整・討論
10:30	調整・討論	T6-6 統一フォーマットを用いた国立公園機能の経済評価:13国立公園に関する分析:今村航平(京都大学)ら	K6 乾燥マツ樹皮でのマツノマダラカミキリ幼虫飼育:吉田成章	L3 アカマツ根との二員培養による外生菌根菌の菌糸成長及び菌叢の特徴:芳井明子(東京農業大学)ら	T7-5 宮崎県におけるバイオマス輸送基盤の整備に関する考察:櫻井倫(宮崎大学)
10:45	T9-4 ハートタイムの主婦を対象とした傾聴散策カウンセリングの事例:竹内啓恵(東京農業大学)ら	T6-7 黎明期の国立公園における観光資源とその位置づけ:水内佑輔(東京大学)	K7 乾燥ストレス下におけるクロマツの生理状態と遺伝子発現解析:松永孝治(森林総合研究所)ら	調整・討論	T7-6 木質バイオマス資源における賦存量と利用可能量の比較:白澤結明(信州大学)
11:00	T9-5 精神科急性期病棟における森林療法の効果:伊藤賢司(内海慈仁会姫路北病院)	T6-8 アメリカ合衆国 内務省・国立公園局による地域協働の取り組み:熊谷嘉隆(国際教養大学)	K8 クロマツ防衛応答とマツノサイゼンチュウの挙動との関連性-リアルタイムPCRを利用した時空間的解析-山口莉未(九州大学)ら	L4 カラマツ林における成木と実生の外生菌根菌叢集・実生の定着に菌根共生は寄与しているのか:石川陽(東京農業大学)ら	T7-7 木質バイオマス需要と最適伐期・最適間伐体系の関係-栃木県北地域をモデルとして-富山啓介(東京大学)ら
11:15	T9-6 長野県伊那市のカラマツ林における地衣類の分布:上原麻(東京農業大学)	T6-9 自然保護官による国立公園の管理有効性評価の試行について:愛甲哲也(北海道大学)ら	K9 マツノマダラカミキリの被覆粘着資材を用いた防除へのサビマダラオホソカタムシの導入試験:浦野志久(森林総合研究所)ら	L5 アホイカンバ・ハイマツ林の外生菌根菌叢集:村田政徳(東京大学)ら	T7-8 バイオマス発電所稼働状況下における未利用供給を考慮した木材生産管理:澤田直美(東京大学)ら
11:30	調整・討論	T6-10 自然保護地域におけるガバナンスのあり方試論(2):土屋俊幸(東京農工大学)	K10 バイオリサマダラを事業者に施用した際の防除効果:佐藤大樹(森林総合研究所)ら	L6 絶滅危惧種トガサワラおよび共生する外生菌根菌トガサワラシロの集団遺伝構造:阿部寛史(東京大学)ら	調整・討論
11:45	総合討論	調整・討論	調整・討論	調整・討論	調整・討論
12:00 ~ 13:30	P2, 高校生ポスター発表コアタイム				

発表時間の厳守をお願いします。

座長は別のページに記載しています。

「調整・討論」のコマは、座長の裁量で、時間調整、総合討論等に使用します(林政部門を除く)。

発表後、「調整・討論」の終了時間までは、会場にいてください(林政部門を除く)。

林政部門は、直前の発表者が次の発表の司会(座長)を務めてください。

研究発表題目(部門別口頭発表) 3月28日午後 1/2

会場	1号館111講義室	1号館121講義室	1号館122講義室	1号館124講義室	1号館125講義室	1号館131講義室
開始時刻	林政3	経営3	防災2	遺伝・育種	立地	造林
14:30	A19 管理意欲の決定要因に関する考察-小松市における森林所有者の意向調査結果から-梶岡周一郎(金沢大学)ら	C18 航空機Lidarによる地形図の森林調査への応用-吉田茂二郎(九州大学)ら	I11 自作大型転倒計流量計の開発と現地観測への利用-根本浩輔(東京農工大学)ら	E1 スギと対比したコウヨウザンの材質特性-藤澤義武(鹿児島大学)ら	H1 亜北極地域の北方林における森林火災後の土壌水中溶解有機物の質の時間変化について-井手淳一郎(九州大学)ら	D1 クリーナーチの挿し木増殖方法の改良(Ⅱ)-環境制御による挿し木苗木の成長促進-栗田和(北海道立総合研究機構林業試験場)ら
14:45	A20 原木市場における楡皮剥皮木の評価(Ⅲ)-ヒノキ林所有者の動向-坂野上なお(京都大学)ら	C19 航空レーザー計測と、地上レーザーとUAVを組み合わせた計測との比較-張柱安(信州大学)ら	I12 森林斜面における表層土壌の水分環境形成メカニズムの解明-藤目直也(東京大学)ら	E2 スギの発根に影響を及ぼす環境因子の調査-基質について-栗田学(森林総合研究所)ら	H2 間伐で発生したスギ針葉リターの蓄積量の動態-内村慶彦(鹿児島県森林技術総合センター)ら	D2 クリーナーチの挿し木増殖方法の改良(Ⅰ)-環境制御による挿し木苗木の効率的生産-角田真一(住友林業)ら
15:00	A21 日本型経営の林業事業体への応用可能性-小宮良家(島根大学)ら	C20 無人航空機と地上レーザーによる大規模森林モニタリング-加藤顕(千葉大学)ら	I13 「水の国くまもと」における森林・農地連携による地下水涵養事業-宮野岳明(くまもと地下水分財団)ら	E3 マイクロカッピング技術を応用した無花粉スギの苗木生産量の増進-斎藤真己(富山県農林水産総合技術センター森林研究所)ら	H3 スギ人工林における皆伐後4年間の土壌呼吸速度の変化-阿部有希子(東京大学)ら	D3 植栽直前の放置に伴う乾燥にコナナ苗木はどれだけ耐えられるのか-江口則和(愛知県森林・林業技術センター)ら
15:15	A22 森林技術者に関する「人の移動」研究のための序論的考察-山本伸幸(森林総合研究所)	C21 航空レーザーデータにより取得した森林資源情報の更新手法検討-近藤大将(アジア航測)ら	I14 東北地方太平洋沖地震直後の流出量増加と浅層地下水位の低下-玉井幸治(森林総合研究所)ら	E4 人工交配家系を用いたスギカミキリ抵抗性に関する組合せ能力の推定-宮下久哉(森林総合研究所)ら	H4 白神山地ミズナラ林における微生物呼吸に対する長期的な温暖化の影響-寺本宗正(国立環境研究所)ら	D4 北陸地方(福井県坂井市三国町)における、エネルギー資源作物としてのヤナギの可能性-宇都木玄(森林総合研究所)ら
15:30	A23 林業イノベーションシステムの戦後の展開-峰尾恵人(京都大学)ら	C22 レーザーセンシング情報を使用した持続的なスマート精密林業の開発-加藤正人(信州大学)ら	調整・討論	E5 石川県内ヒノキアスナロ人工林におけるクローンの識別と分布-池田虎三(石川県農林総合研究センター林業試験場)ら	調整・討論	調整・討論
15:45	A24 鳥根県における植栽密度の地域別相違とその背景-安村直樹(東京大学)	調整・討論	I15 ヒノキ人工林における地表面積の観測-豊田市水源涵養機能モニタリングの結果から-蔵治光一郎(東京大学)ら	調整・討論	H5 スギ精葉樹の苗木へのカリウム、セシウム集積におけるクローン間差-長倉洋子(森林総合研究所)ら	D5 樹液流計測から見える森林成長の季節性-宮沢良行(University of Hawaii at Manoa)ら
16:00	A25 主伐期に入った生産森林組合の経営動向-宮崎県を事例に-原田大貴(宮崎大学)ら	C23 情報技術を用いた原木供給の合理化に関する技術開発-星川健史(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)ら	I16 渓流水温と雨温を用いた流出成分分離と流域間比較-松本恵里(東京農工大学)ら	休憩	H6 北海道東部の冷温帯林において土壌の凍結融解が細根リターの増加を通して土壌の窒素無機化に与える影響-細川奈々枝(北海道大学)ら	D6 つしまツツの人工林データを用いた20年生アカマツ天然林の呼吸諸量の推定について-林田好広(コスモ測地設計)ら
16:15	A26 再造林労働力の供給実態-宮崎県の事例-大地俊介(宮崎大学)ら	C24 航空レーザーデータを活用した森林管理の実務事例について-塚原正之(アジア航測)ら	I17 トドマツ人工林を主体とした小流域における伐採前後の流出量の変化-長坂晶子(北海道立総合研究機構林業試験場)ら	E6 Genetic conservation of the giant illipe nut, <i>Shorea macrophylla</i> , in tropical rain forest of Indonesia: Utomo, Singgih (University of Tsukuba) et al.	H7 攪乱等により破壊された団粒の再形成過程の検討-小野裕(信州大学)ら	D7 地上レーザー計測による森林調査の展望-千葉幸弘(森林総合研究所)ら
16:30	A27 栃木県における林業労働者の賃金に関する研究-林宇一(宇都宮大学)ら	C25 地上型レーザースカナによる森林計測結果を活用した循環型林業経営-中村裕幸(woodinfo)	I18 森林流域からの放射性セシウムの流出について-坪山良夫(森林総合研究所)ら	E7 遺伝学的手法を用いたシラカンバの侵入パターンの検証-中西敦史(森林総合研究所)ら	H8 東シベリアアカマツ林における植生変化が樹木の吸水特性に対して及ぼす影響-山田啄也(名古屋大学)ら	D8 東カリマンタン・スンガイワイン植生変化における攪乱に伴う樹種構成の変化-酒井敦哉(森林総合研究所)ら
16:45	A28 沖縄県北部における林業労働組織の再編-田中且(森林総合研究所)ら	C26 持続可能な森林経営にむけてどのような情報が求められるのか?-山本博一(東京大学)	調整・討論	E8 SSRマーカーのジェノタイピングにおけるNGS-SSR分析とフラグメント解析の比較-長谷川陽一(国際農林水産業研究センター)ら	調整・討論	D9 大きい林分材積成長量と明るい林床の折り返しのつけかたを探る。個体サイズのバラツキとキャップ構造-水永博己(静岡大学)ら
17:00	A29 所得水準が木材消費量に与える影響の変動に関する国際統計分析-岡裕泰(森林総合研究所)	調整・討論	調整・討論	E9 トドマツの標高適応に関連する生理形質の連鎖解析-後藤晋(東京大学)ら	調整・討論	調整・討論
17:15	A30 北海道上川町における町有林資源利用に関する取組み-平松悠輝(上川町)	C27 木質資源の地域内循環を目指した持続可能な森林管理手法の検討-三重島雅野町(三重大学)ら	調整・討論	調整・討論	調整・討論	D10 強度間伐が行われたスギ高齢人工林における林分および個体の成長-杉田久志(元森林総合研究所)ら
17:30	A31 地域材ブランドと森林整備に関する一考察-窪江俊美(東京農工大学)ら	C28 湖北省における中国森林認証体系の普及に関する調査-曾江澤丹(東京大学)ら	調整・討論	調整・討論	調整・討論	D11 高齢スギ・ヒノキ人工林における過去の間伐履歴が林分構造と成長におよぼす影響-宮本和樹(森林総合研究所)ら
17:45	A32 森林認証木材製品の環境ブランド価値についての実証的研究-大田伊久雄(琉球大学)ら	C29 環境保全等を考慮した沖縄県北部における伐採適地の抽出-宮本麻子(森林総合研究所)ら	調整・討論	調整・討論	調整・討論	D12 カラマツ人工林におけるカラマツ天然更新の誘導 -実生の消長とコスト-大矢信次郎(長野県林業総合センター)ら
18:00	A33 日本の製紙産業における樹種別木材チップ調達依存度の変化-早船真智(森林総合研究所)ら	C30 広葉樹林における循環的木材生産の可能性-タケハシ樹林施業実験林32年間の調査結果から-石橋聡(森林総合研究所)	調整・討論	調整・討論	調整・討論	D13 亜熱帯常緑広葉樹林における皆伐後4成長期までの更新稚樹の樹種別発生消長-谷口真吾(琉球大学)ら
18:15	A34 燃料用木質チップの供給及び利用の実態と課題-岩手県を事例に-遠藤元治(岩手大学)ら	C31 森林経営計画における主伐の実施基準の再検討-溝上展也(九州大学)ら	調整・討論	調整・討論	調整・討論	調整・討論
18:30	A35 木造応急仮設住宅供給における現状と課題-森井拓哉(東京大学)	C32 造林問題としてのスギ花粉症に関する考察-河瀬麻里(京都大学)	調整・討論	調整・討論	調整・討論	調整・討論
18:45	調整・討論	C33 林業経営と太陽光発電パネル設置の比較-伊高静統計数理研究所)ら	調整・討論	調整・討論	調整・討論	調整・討論
19:00	調整・討論	調整・討論	調整・討論	調整・討論	調整・討論	調整・討論

発表時間の厳守をお願いします。

座長は別のページに記載しています。

「調整・討論」のコマは、座長の裁量で、時間調整、総合討論等に使用します(林政部門を除く)。

発表後、「調整・討論」の終了時間までは、会場にいてください(林政部門を除く)。

林政部門は、直前の発表者が次の発表の司会(座長)を務めてください。

研究発表題目(公募セッション・部門別口頭発表) 3月28日午後 2/2

会場	3号館311講義室	3号館321講義室	3号館322講義室	3号館324講義室	3号館331講義室
開始時刻	T10 多様な主体による森林教育	T6b 観光とレクリエーション	動物・昆虫2	微生物2	T7b 木質バイオマス発電のための未利用木材を長期にわたり安定的かつ調和的に供給するために
14:30	T10-1 多様な主体による森林教育-森林体験活動の方法から-大石康彦(森林総合研究所)ら	T6-11 荒れた登山道表面の天然素材被覆に期待される効果とは?菊池俊一(山形大学)	K11 スギ原木の林地での設置期間が穿孔性害虫の加害に及ぼす影響-2週間と4週間の条件で季節ごとに比較した結果から-松浦崇遠(富山県農林水産総合技術センター-森林研究所)ら	L7 根圏バクテリア群集決定要因の検討:バクテリアの外生菌根菌に対する反応:白川誠(東京農業大学)ら	T7-9 九州における木質バイオマス発電の現状と燃料供給の実態:佐藤政宗(森のエネルギー研究所)
14:45	T10-2 東日本大震災は子供たちの自然観にどのような影響を与えたのか?比屋根哲(岩手大学)	T6-12 観光遊覧船からの4K動画記録を用いた下田湾内の釣り利用状況把握:坂入愛(筑波大学)ら	K12 奈良県におけるスギザイノタマハエの分布および発生消長について:田中正臣(奈良県森林技術センター)ら	L8 根圏バクテリア群集決定要因の検討:微小環境の違いが及ぼす影響:後藤花織(東京農業大学)ら	T7-10 石炭・木質バイオマス混焼火力発電における木質バイオマス利用の実態-東北を事例に-佐竹望(岩手大学)ら
15:00	T10-3 企業における森林教育の試み:中島皇(京都大学)	T6-13 国立公園における利用者行動の時空間把握に向けたクラウドソースGPSデータの活用可能性:奥日光地域での検討:宮坂隆文(東京農工大学)ら	K13 ルリカミキリ産卵痕の時空間分布:江崎功二郎(石川県農林総合研究センター-林業試験場)	L9 アカマツ種子に内在するバクテリアの特徴と器官選択性:田中恵(東京農業大学)	T7-11 木質バイオマス発電のための未利用木材の安定供給体制:横田康裕(森林総合研究所)
15:15	調整・討論	T6-14 Investigating climber monitoring approaches on Mount Fuji: A comparison of automated and manual methods: Thomas Jones (Meiji University)	調整・討論	調整・討論	T7-12 サプライチェーンマネジメントから見た燃料用木質チップの生産システム:吉田美佳(筑波大学)
15:30	T10-4 中学校教科書に掲載されている樹種名および森林・林業に関する記述:杉浦克明(日本大学)ら	調整・討論	K14 シイタケ害虫ナガマドキノコバエ類の野外生息環境と地理的分布:末吉昌宏(森林総合研究所)	L10 スギ葉における木化組織と緑葉部の内生菌群集:洲上拓朗(東京農業大学)ら	T7-13 安定的燃料供給のための森林資源情報とサプライチェーンマネジメント:寺岡行雄(鹿児島大学)
15:45	T10-5 中学生が主体的に森林学習を開始するために:小西伴尚(三重中学校・高等学校)	T6-15 都市森林公園におけるレクリエーションの実態及び訪問客の環境保護意識-中国福州市国家級森林公園を事例として-陳碧霞(環球大学)	K15 <i>Euplatypus parallelus</i> preferences on <i>sonokembang Pterocarpus indicus</i> in Malang, Indonesia: Hagus Tarno (University of Brawijaya) et al.	L11 プナの葉内における内生菌の種間および種内の相互作用:松下範久(東京大学)	調整・討論
16:00	T10-6 国際教育を取り入れた森林環境教育の実践:安藤愛(筑波大学附属坂戸高等学校)	T6-16 知床五湖利用における外国人観光客の動態と意識:王茂琪(北海道大学)ら	K16 栃木県矢板市における森林環境と腐肉食性甲虫群集の関係:上田明良(森林総合研究所)ら	L12 木質残渣中に残存する南根腐病菌をターゲットにした防除薬剤の検討:佐橋憲生(森林総合研究所)ら	T7-14 小規模ガス化発電の実例をもとにした採算性分析:菅野明芳(森のエネルギー研究所)
16:15	調整・討論	T6-17 富士山村山古道登山を事例とした大学生の森林景観認識:武正憲(筑波大学)ら	調整・討論	L13 横打撃共振法によるシラカンバ生立木の腐朽判定に及ぼす季節の影響:坂上大翼(東京大学)	T7-15 固体木質バイオマスエネルギーの需給動向と環境基準の展開の可能性:藤原敬(林業経済研究所)ら
16:30	T10-7 「木」に関する教育の実践者・研究者の交流を通じた森林教育のニーズ把握:井上真理子(森林総合研究所)ら	調整・討論	K17 多雪地冷温帯林における野ネズミ群集の立体的生息場所選択:箕口秀夫(新潟大学)ら	調整・討論	T7-16 木質バイオマス供給の現状と課題:久保山裕史(森林総合研究所)
16:45	T10-8 中等教育における森林育成と木材生産の基礎概念に関する分析:東原貴志(上越教育大学)ら	T6-18 野生動物保全と外来種管理に対する人々の認識:アマミノクロウサギとネコに注目して:野野皓太(北海道大学)ら	K18 マツ材線虫病による猛禽類群集の縮小:工藤琢磨(森林総合研究所)	L14 マツノサイセンチュウを接種したクロマツ家系間の抗菌物質集積の差異:市原優(森林総合研究所)ら	調整・討論
17:00	T10-9 林業教育における語彙の整理:寺下太郎(愛媛大学)	T6-19 ライチョウ調査活動を目的とした登山ツアー参加者の特徴:小川結衣(筑波大学)ら	K19 航空機搭載型センサーによるシカ調査:田村恵子(中日本航空)ら	L15 東・東南アジアで採取された <i>Raffaella</i> 属菌の分子系統:鳥居正人(東京大学)ら	T7-17 木質バイオマス燃焼灰の林地還元に関する取り組み:平井敬三(森林総合研究所)ら
17:15	調整・討論	T6-20 村民便りの内容分析:効果的な島嶼生態系の保全にむけて:三ツ井聡美(筑波大学)ら	調整・討論	L16 宿主木に飛来するカンノナガキウムシの消化管から分離される/されない菌類:遠藤力也(理化学研究所)ら	T7-18 木質チップの熱利用と燃焼灰の有効利用による温室効果ガス排出削減効果:岩岡正博(東京農工大学)ら
17:30	T10-10 森林に関する過去の経験をふり返るワークショップ調査:泉館菜月(岩手大学)ら	T6-21 地域住民の認識から見る奄美群島の価値:久保雄広(国立環境研究所)ら	調整・討論	調整・討論	総合討論
17:45	T10-11 高齢者と協働するナレッジ活用型地域資源学習プログラムの開発:独居後期高齢者向け回想法サロンの効果と課題:青柳かつら(北海道博物館)	T6-22 国立公園の費用負担に対する選好の多様性:ベスト・ワーストスケールリングによる評価:庄子康(北海道大学)ら	調整・討論	調整・討論	総合討論
18:00	T10-12 映像コンテンツによる森林フィールドワークの振り返りを軸とした小学校授業のモデル化に向けて:中村和彦(東京大学)ら	T6-23 国立公園利用と時間価値-週末と長期休暇の訪問行動分析-栗山浩一(京都大学)ら	調整・討論	調整・討論	調整・討論
18:15	調整・討論	調整・討論	調整・討論	調整・討論	調整・討論
18:30					
18:45					
19:00					

発表時間の厳守をお願いします。

座長は別のページに記載しています。

「調整・討論」のコマは、座長の裁量で、時間調整、総合討論等に使用します(林政部門を除く)。

発表後、「調整・討論」の終了時間までは、会場にいてください(林政部門を除く)。

林政部門は、直前の発表者が次の発表の司会(座長)を務めてください。

研究発表題目(ポスター発表 P1グループ P1-001からP1-287) 3月27日 1/6

会場:学習交流プラザ # : 学生ポスター賞応募ポスター ポスター準備8:30~11:00, コアタイム12:00~13:30, ポスター撤収16:00~16:30

林政	風致	T6 観光とレクリエーション	T10 多様な主体による森林教育	経営
P1-001# 丹州木材市場における、スギ丸太の径線、材質と価格の関係性を探る:山本江里子(京都府立大学)ら	P1-016 半世紀にわたる立山ルート沿線緑化の成果と今後の課題:大宮徹(富山県農林水産総合技術センター森林研究所)ら	P1-023# 屋久島の新たな入山協力金制度における協力率の実証分析:矢野圭祐(京都大学)ら	P1-027# 緑地開発計画から生まれた環境教育活動に参加するインストラクターの意識-神奈川県藤沢市の川名里山レンジャー隊の活動-:早川尚吾(日本大学)ら	P1-029# 航空機LiDARデータを用いた立木密度の推定における誤差要因の検討:米森正悟(鹿児島大学)ら
P1-002# 伝統林業地における山林所有者の動向:岩木陽平(鳥取大学)ら	P1-018 伊庭内湖周辺の土地利用・管理と鳥類の生息状況の関係:川上哲平(京都大学)ら	P1-024# 虹の松原におけるボランティア活動の評価-CVM・トラベルコスト法を用いて-:宮崎優也(京都大学)ら	P1-028# 全国植樹祭などの2016の事後学習としての森林環境教育プログラムの開発と実践:植栽木の特徴と利用方法を五感を駆使して学ぶ!:牧口未和(長野大学)ら	(発表取消)
P1-003# 小規模な個人所有を対象にした集約的森林経営によって得られた利益の配分方法の研究:北沢あゆみ(東京大学)ら	P1-019# IUCN保護地域管理カテゴリーの中国における適用状況の分析:鞠佳岐(筑波大学)ら	P1-025# 沖縄県やんばる地域における入域料の導入可能性:金岡武蔵(京都大学)ら		P1-031# 航空機LiDARによる樹木個体の樹冠分類精度評価:中武修一(名古屋大学)ら
P1-004# 原木協定取引の課題及び拡大可能性-近畿地区及び中部地区における事例-:服部正和(京都大学)ら	P1-020 ニュージーランドの高等教育における自然観光を対象とした人材育成システムの現状:田中伸彦(東海大学)ら			P1-032# 地上型レーザスキャナによる幹の形の再現性-樹幹解析との対応-:川北憲利(京都府立大学)ら
P1-005# 福井県内の森林組合にみる森林団地化・集約的施業の実態と課題:金森啓介(福井県立大学)	P1-021# Assessing the distribution of installed solar panels in forests: Tomasi Junior Tawatatau Sovea (Mie University) et al.			P1-035# 相対成長関係とUAVによる空中写真を用いた旧薪炭ブナ林の資源量推定:二宮浩介(新潟大学)ら
P1-006 北海道における燃料材需要拡大の影響と需給安定に向けた各主体の取り組み:嶋瀬拓也(森林総合研究所)				P1-036# Fixed-wing UAV imagery for forest structure classification and mapping: A study in a mixed conifer-broadleaved forest: Sadeepa Jayathunga (University of Tokyo) et al.
P1-007# 都市部における薪調達の実態調査-京都市北部を事例に-:宮崎俊亨(京都大学)				P1-037# Evaluating fire disturbances and forest cover changes using remote sensing in Zeytsky Protected Area, Russia: Khatancharoen, Chulabush (University of Tokyo) et al.
P1-008 天城山御林における江戸時代末期の製炭に伴う森林状況の変化:川上愛絵(東京大学)ら				P1-038# Mapping forest cover change using remote sensing in Nuristan Province, Afghanistan: Popal, Shogufa (University of Tokyo) et al.
P1-009# 地域社会における狩猟者の行動様式と行政との関係-栃木県旧栗野町・シカ銃猟地域を事例として-:小杉純(宇都宮大学)ら				P1-039# ステレオ画像を用いた樹木位置計測の自動化手法の検討:三谷綾香(名古屋大学)ら
P1-010# インドネシアの森林火災とそれに関わる木材製品の日本への輸入の実態:森雅典(名古屋大学)ら				P1-040# 下刈り回数の違いがスギの枯死率および誤伐率に与える影響:福本桂子(九州大学)ら
P1-011 M市および町におけるFSC認証取得者の認証取得動機と認証取得が経営に与えた影響:泉桂子(岩手県立大学)				P1-041# スギ・ヒノキ人工林の帯状伐採による針広混交林化の可能性:谷口寛昭(九州大学)ら
P1-012# 静岡県「森林づくり県民税」による「森の力再生事業」の現状:加藤裕樹(東京大学)ら				P1-042# 群状・帯状伐採地におけるスギ・ヒノキ植栽木の成長:池田正(九州大学)ら
P1-013 「森林環境税」市町村交付金事業の現状と課題:山本美穂(宇都宮大学)ら				P1-043# 森林を活用した子どもの遊びと生態系学習に関する研究-ノルウェー・日本における野外教育の取り組み-:須藤朋美(九州工業大学)ら
P1-014# 森林がもつ生態系サービスの需給構造の解明-京都府南丹市を対象として-:山西悠友(京都大学)ら				P1-044# Characteristic of national park and forest usage in Urban area: the case study of Hlawga National park in Yangon: Shwe YeeLin (Kyushu Institute of Technology) et al.
P1-015# Attributes of green spaces for playgrounds in Malang children, Indonesia: Sri, Een Hartatik (Mie University) et al.				

ポスターの準備ならびに撤収は速やかをお願いします。ポスターの掲示場所については当日に会場でお知らせします。

コアタイムには必ずポスターの前に立ち質疑に応じてください。

研究発表題目(ポスター発表 P1グループ P1-001からP1-287) 3月27日 2/6

会場: 学習交流プラザ # : 学生ポスター賞応募ポスター ポスター準備8:30~11:00, コアタイム12:00~13:30, ポスター撤収16:00~16:30

立地	造林	植物生態
P1-045# 放置マダケ林の駆除方法の違いがタケの再生および広葉樹の成長に及ぼす影響:金道知聖(東京大学)ら	P1-063# イネ科植物のケイ酸吸収が及ぼす土壌の炭素蓄積への影響:小野拓哉(酪農学園大学)ら	P1-065# 夏季植栽されたスギ挿し木苗の生残規定要因-苗種か物質分配か?-新保優美(宮崎大学)ら
P1-046# 春日山原始林における常緑カシ3樹種の大径木の立地条件:吉田羽吹(京都府立大学)ら	P1-064# 森林流域内における溶存有機炭素の形態的特性:小林高嶺(北海道大学)ら	P1-066# 根量の違いと摘葉処理がスギ苗の水ストレスに与える影響:古里和輝(宮崎大学)ら
P1-047# Effect of soil moisture and phosphorus fertility on mycorrhizal colonization and nutrient uptake in oak seedlings: Omari, Abdulhaq (Tokyo University of Agriculture and Technology) et al.	P1-067# 弱光・灌水制限によるスギコンテナ苗の成長制御の試み:柴谷祐太郎(東京大学)ら	P1-081# 奥日光のブナ・ミズナラ林における50年間の森林植生変化:坂本祥乃(宇都宮大学)ら
P1-048# 渓流水質形成において流出起源の寄与が季節および流量によってどう変わるか:高島靖文(宮崎大学)ら	P1-068# 林地斜面に植栽されたスギ第二世代精英樹候補木当年葉の水分特性値:石川達也(九州大学)ら	P1-082# 奥秩父山地の冷温帯林における実生動態の種高変化:防塵柵を用いた植生回復の評価:小原茜(東京大学)ら
P1-050# 新潟市内の公園樹木による大気中の粒子状物質(PM)の捕捉機能の評価:小橋卓平(新潟大学)ら	P1-069# マツ枯れ林内におけるタブノキの植栽方法の違いが定着と成長に与える影響:佐藤さつき(新潟大学)ら	P1-083# 年輪生態学的手法に基づく伊豆半島丸山の広葉樹林の林分動態:吾妻直彦(東京大学)ら
P1-051# 針広混交林集水域における林冠葉の窒素濃度の空間分布パターン:井上華央(北海道大学)ら	P1-070# マツ枯れの激しい海岸マツ林におけるシロダモの天然更新木と植栽木の生残と成長比較:中山美智子(新潟大学)ら	P1-084# 山地渓谷林における樹木の死亡と新規加入の空間分布:地形的特徴と林冠状態:木村純也(三重大学)ら
P1-052# 水源林施業による光環境変化が土壌の年間窒素無機化量に及ぼす影響:牧すみれ(東京農工大学)ら	P1-071# 海岸クロマツ林におけるシロダモとタブノキの植栽木と天然更新木の成長特性:福田真央(新潟大学)ら	P1-085# 旧薪炭ブナ林におけるブナ稚樹の天然更新:北上夏陽子(新潟大学)ら
P1-053# 優占樹種の異なる森林での土壌窒素動態に関わる微生物の季節変動:中山理智(京都大学)ら	P1-072# シオジ若齢木の樹形に対する光環境と傾斜の影響:小川大知(東京農工大学)ら	P1-086# モンゴル国北方林における山火事と伐採が森林の更新に与える影響:友成美咲(岡山大学)ら
P1-054# 火山灰土壌において栄養塩添加が窒素・リン動態および土壌酵素活性に与える影響:柏木孝太(京都大学)ら	P1-073# 地上型レーザースカナを用いた林内光環境の推定-落葉広葉樹の複層林と一斉林の比較-:高田知帆(京都府立大学)ら	P1-087# ナンキンハゼの伐採後の再生動態の把握:安東憲佑(京都府立大学)ら
P1-055# 異なる植生・土地利用下の土壌における亜酸化窒素および硝酸溶脱に対する栄養塩添加の影響:長根美和子(北海道大学)ら	P1-074# スギ人工林の針広混交林化に向けた最適な間伐強度:根岸有紀(東北大学)ら	P1-088# ヒノキ人工林における間伐方法の違いが林床の光環境と低木種の動態に与える影響:杉谷華世(鳥取大学)ら
P1-056# 積雪が北方林のスコッチパイン落葉の分解過程に及ぼす影響:大貫真孝(京都大学)ら	P1-075# 森山のヒノキ無間伐人工林における林分構造と成長:尾崎俊介(鳥取大学)ら	P1-089# 林床植生の回復に与える立地環境と植栽木の影響:和田大樹(京都府立大学)ら
P1-057# 標高傾度と植生の一次遷移に伴う落葉分解菌群集の動態:小岐須悠平(同志社大学)ら	P1-076# 森林路網がスギ人工林内の光環境と種多様性におよぼす影響:孝森博樹(信州大学)ら	P1-090# ヒノキ人工林内に成立したヤマウルシ個体群の構造:三谷絵理子(鳥取大学)ら
P1-058# ヒノキ人工林での伐採による土壌呼吸変化:市川萌葉(静岡大学)ら	P1-077# 天然下種更新したカラマツ実生の成長と雑草木との競合:松永宙樹(信州大学)ら	P1-091# 人工林下層におけるアラカシの侵入に関与する要因の解明-緑ユネスコエコパークにおける事例-:岡本南(宮崎大学)ら
P1-059# 樹液流による樹体内CO <sub>2</sub> 輸送は土壌呼吸に影響するの?:堀内椋(静岡大学)ら	P1-078# スキー場跡地に成立したカラマツ天然更新林分の競争過程の解析:岩崎千鶴(信州大学)ら	(発表取消)
P1-060# 全国各地の森林リターおよび表層土壌に含まれる水銀の分布:近政孝哉(北海道大学)ら	P1-079# 伐採時に保残した水辺緩衝帯はどの程度土砂流出を緩和するの?:溝口拓朗(宮崎大学)ら	P1-092# 防塵柵設置と伐採方法の違いによるナラ枯れ被害林分の植生回復:下村友誓(京都府立大学)ら
P1-061# 釧路湿原における土壌栄養塩の地域及び植生タイプによる違い:シカの環境攪乱の影響評価に向けて:金子命(酪農学園大学)ら		P1-093# 鳥取県東部地域におけるナラ枯れ後の落葉樹の分布パターン:北川雄一(公立鳥取環境大学)ら
P1-062# 森林下の埋没腐植土層における有機物結晶生成作用の特性:安達亮太(酪農学園大学)ら		P1-094# 鳥取県東部地域におけるナラ枯れギャップの植物種多様性分布パターン:井口俊之(公立鳥取環境大学)ら
		P1-095# 京都府南部の落葉広葉樹林におけるナラ枯れ被害が生態系に与える影響の評価-(1)ナラ枯れ被害の進行と空間分布特性-:山本遼平(京都大学)ら
		P1-096# 京都府南部の落葉広葉樹林におけるナラ枯れ被害が生態系に与える影響の評価-(2)枯死木の発生が炭素循環に与える影響-:小南裕次(森林総合研究所)ら
		P1-097# 北海道のある蛇紋岩地帯における植生と土壌化学特性の関係:畑中朋子(酪農学園大学)ら
		P1-098# s-w法を用いたエストニアにおけるヨーロッパアカマツ林の地上部現存量の成長解析:田村行宏(京都大学)ら
		P1-099# アラスカ内陸部に生育するクロウヒ一次林年伸長量の気候応答:田邊智子(信州大学)ら
		P1-100# ブナ林構成樹種の樹冠形状とその空間分布特性:樹冠投影図を用いたアプローチ:安藤真純(三重大学)ら
		P1-101# 東北タイ:落葉フタバガキ林の種特性-樹種間の光利用戦略の違いは林冠層内での多樹種の共存に寄与するのか?-:菅原悠希(静岡大学)ら
		P1-102# 全天空写真を用いた質量ベースの葉の生産フェノロジーの推定:遠藤小百合(京都大学)ら
		P1-103# 景観スケールでのブナ林の種子生産量を混芽数から推定する試み:丸山諒子(新潟大学)ら
		P1-104# 樹種混交がオオイタヤメイゲツの細根分布に及ぼす影響-ニッチ分化の可能性-:加東良彬(静岡大学)ら
		P1-105# クロナール繁殖と種子繁殖がフジの空間分布に果たす役割:森英樹(筑波大学)ら
		P1-106# 亜高山帯落葉樹林の遷移とコケ植物の役割:佐原奈々美(宇都宮大学)ら
		P1-107# コケ型林床の亜寒帯針葉樹林における稚樹の分布と地表環境:鈴木ななみ(東京農業大学)ら
		P1-108# 岩礫上に生育するヒノキ科種相林立木への藓苔類の着生と森林維持機構における役割:花田雄亮(岐阜大学)ら
		P1-109# 飛騨地方ヒノキ科種相林における岩礫地と針葉樹の分布との関係:福永潮(岐阜大学)ら
		P1-110# 北海道のある蛇紋岩地帯における植生と土壌化学特性の関係:畑中朋子(酪農学園大学)ら
		P1-111# 渓流水中溶存有機炭素および硝酸塩濃度の源頭部森林小集水域における変化とその要因:安松亮(京都大学)ら

ポスターの準備ならびに撤収は速やかにお願いします。ポスターの掲示場所については当日に会場でお知らせします。

コアタイムには必ずポスターの前に立ち質疑に応じてください。

研究発表題目(ポスター発表 P1グループ P1-001からP1-287) 3月27日 3/6

会場:学習交流プラザ # : 学生ポスター賞応募ポスター ポスター準備8:30~11:00, コアタイム12:00~13:30, ポスター撤収16:00~16:30

動物・昆虫	T5 森林におけるシカ問題の解決に向けて	微生物	特用林産
P1-112# 奥秩父山地におけるニホンジカの食性: 遺伝構造と環境要因はどのような影響を及ぼすのか: 川崎満(東京大学)ら	P1-129# 透過型電子顕微鏡を用いたマツノザイセンチュウ近縁種群の角皮構造の観察: 浴野泰甫(鹿児島大学)ら	P1-131# 位山演習林におけるカメラトラップによるニホンジカ・カモシカ撮影頻度の季節変化: 中森さつき(岐阜大学)ら	P1-154# Estimating effects of climate change for the distribution of <i>Pinus gerardiana</i> in South Asia: Azizur, Rahman Aziz (Mie University) et al.
P1-113# ニホンヤマビルの近年の分布拡大と遺伝的集団構造: 森嶋佳織(宇都宮大学)ら	P1-130# マツノザイセンチュウの増殖力因子の解析: 保谷剛志(京都大学)ら	P1-132 ニホンジカ相対密度把握手法としてのカメラトラップ法の評価: 稲富佳洋(北海道立総合研究機構)ら	P1-155 北海道におけるセンサーカメラを用いた山菜利用者動態把握: 尾崎研一(森林総合研究所)ら
P1-114# エゾシカの糞を用いた栄養状態評価のための近赤外スペクトル分析法の有用性の検討: 山中岳史郎(酪農学園大学)ら	P1-133# 積雪地における分布拡大初期のシカ個体群が植生に与える影響: 佐藤俊(新潟大学)ら	P1-139# アーバスキュラー菌根または外生菌根が優占する温帯林における菌根菌糸生産量の季節変動: Schaefer, Holger (京都大学)ら	P1-156 シイタケの変色に影響する因子の探索方法の検討: 上辻久敏(岐阜県森林研究所)ら
P1-115# ニホンジカ背面の斑紋パターンを用いた個体識別の試み: 三浦光(名古屋大学)ら	P1-134 大台ヶ原における防鹿柵設置後の下層植生の種数及び被度の変化 - 西大台地区の事例 - : 若山学(奈良県森林技術センター)ら	P1-140# 三重県大又トガサワラ林における外生菌根菌埋土胞子の分布: 岡田経太(三重大学)ら	P1-157 マツタケ菌根形成のためのアカマツ細根の地表への誘導法の検討 (IV): 藤田徹(京都府農林水産技術センター)ら
P1-116# シカによる長期の被食圧が森林の更新能力に与える影響: 曳地穂(京都大学)ら	P1-135 三重県の落葉広葉樹林における下層植生衰退度の広域的評価: 福本浩士(三重県林業研究所)ら	P1-141# Ectomycorrhizal fungal communities in <i>Tristaniopsis</i> forests on Bangka Island, Indonesia: Helbert (University of Tokyo) et al.	P1-158 Genotyping of <i>Tricholoma matsutake</i> from soil in Japanese red pine forest: Hiroyuki Kurokochi (University of Tokyo) et al.
P1-117# 森林管理道と森林性哺乳類の関係: 山口由美(高知大学)ら	P1-136 奥日光においてシカの採食に伴う植生変化がリター供給量と分解に及ぼす影響: 古澤仁美(森林総合研究所)ら	P1-142# 水期遺存種ハイマツとその共生菌の集団遺伝構造比較: 小泉敬彦(東京大学)ら	
P1-118# クマ剥ぎへの物理的対策を実施することで被害場所は広がるのか?: 小橋川祥子(東京農工大学)ら		P1-143# Temporal variation in below-ground ectomycorrhizal communities in dry dipterocarp forests, Thailand: Pachit Pawara (Chulalongkorn University) et al.	
P1-119# 多雪地ブナ二次林における二次樹洞利用動物の樹洞選択: 井嶋陸(新潟大学)ら		P1-144# 複数菌根菌接種がクロマツ実生の成長に及ぼす影響: 塚塚祐太(東京農業大学)ら	
P1-120# 人工林主伐地での広葉樹の保残は鳥類の害虫捕食サービス増加につながるか? ダミーイモ虫設置実験による検証の試み: 河村和洋(北海道大学)ら		P1-145# 都市化による森林の孤立がヤブツバキとヒサカキの葉内生菌群集に与える影響: デニスサヤ(東京大学)ら	
P1-121# 針葉樹人工林におけるシジュウカラ科鳥類3種の営巣密度と営巣位置: 近藤康(名古屋大学)ら		P1-146# カン類樹木の葉内生 <i>Tubakia</i> 属菌群集の生態: 森永健太(東京大学)ら	
P1-122# 河川の地形変化に伴うサギ類の行動パターンの変化: 茶木彩佳(宮崎大学)ら		P1-147# 人為的環境下にあるオオシマザクラの葉内生菌の季節変動: 小川映瑠香(日本大学)ら	
P1-123# アリ類によるクマ剥ぎ被害木の利用: 田村大輔(新潟大学)ら		P1-148# マツノザイセンチュウからの簡易RNA抽出法: 田中克(東京大学)ら	
P1-124# クリ堅果における内部状態と利用昆虫類の変遷 - 孤立木と林内木での比較 - : 鶴岡建次(名古屋大学)ら		P1-149# 沿岸部と内陸部に成立するクロマツ林の土壌線虫群集構造: 北上雄大(三重大学)ら	
P1-125# 集合フェロモンによってカシノナガキクイムシの飛翔特性に違いが生じるか?: 奥田直人(兵庫県立大学)ら		P1-150# コフキサルノコシカケ子実体からのCO <sub>2</sub> フラックス量とその季節変動: 中川湧太(兵庫県立大学)ら	
P1-126# 新潟県谷川連峰荒沢山における高標高地のカシノナガキクイムシの発生と飛行の季節変化: 福沢朋子(東京農工大学)ら		P1-151# 定量PCRを用いたシイタケ ( <i>Lentinula edodes</i> ) のバイオマスと分解呼吸速度との関係: 桑山知子(日本大学)ら	
P1-127# 綾照葉樹林におけるナラ枯れ発生初期の被害拡大の傾向: 末吉智秀(宮崎大学)ら		P1-152# セルロース分解に関わる真菌群集: 環境と季節に対する応答: 執行彦彦(東京大学)ら	
P1-128# 都市緑地における潜葉虫の寄生蜂相: 鳥居裕太(名古屋大学)ら		P1-153# 健全度の異なるカスミザクラ3個体における辺材率および腐朽率の変動: 山越麻由(信州大学)ら	

ポスターの準備ならびに撤収は速やかにお願します。ポスターの掲示場所については当日に会場でお知らせします。

コアタイムには必ずポスターの前に立ち質疑に応じてください。



研究発表題目(ポスター発表 P1グループ P1-001からP1-287) 3月27日 4/6

会場:学習交流プラザ # : 学生ポスター賞応募ポスター ポスター準備8:30~11:00, コアタイム12:00~13:30, ポスター撤収16:00~16:30

T3 樹木根の成長と機能	遺伝・育種		生理
P1-159 樹木の根群と根系構造の関係: 藤堂千景(兵庫県立農林水産技術総合センター)ら	P1-168 北海道北部下川町の試験地におけるヤナギ属2樹種のバイオマス生産量のクローン間変異:矢野慶介(森林総合研究所)ら	P1-185# スギ精英樹における水分生理特性の系統間変異:中川拓真(京都府立大学)ら	P1-204# プレッシュヤーチャンパー法を用いたヒノキ根の水分特性の測定:井上直樹(京都大学)ら
P1-160 地中レーダ法を用いたクロマツ根系の検出と再構築:大橋瑞江(兵庫県立大学)ら	P1-169 わが国におけるコウヨウザンの成長:近藤禎二(森林総合研究所)ら	P1-186 林木育種における新たな3次元点群処理技術の利用:平岡裕一郎(森林総合研究所)ら	P1-205 直径変化、熱伝導変化および電気伝導変化測定による樹幹と枝の凍結-融解サイクルの検出:上田正文(京都府立大学)
P1-161 北海道北部の冷温帯林における樹木とササの細根分布:福澤加里部(北海道大学)ら	P1-170 成長曲線を用いたコウヨウザンの材積成長過程の解析:山田浩雄(森林総合研究所)ら	P1-187 北海道におけるアメリカ・カナダ産ストロブマンの適応性-江別市に設定した35年生産地試験地の結果-:花岡創(森林総合研究所)ら	P1-206# 環境傾度に基づいた樹木の水利特性の変化:東アジアにおけるブナ科の例:河合清定(京都大学)ら
P1-162# 根でわかる樹木-根の形態・解剖・化学特性による樹種同定-:矢原ひかり(信州大学)ら	P1-171 コウヨウザンの実生およびさし木コンテナ苗生産技術について:大塚次郎(森林総合研究所)ら	P1-188 北海道に導入されたカラマツ属3樹種のDNAマーカーによる識別法の検討:福田陽子(森林総合研究所)ら	P1-207# 樹液流と葉分佈情報による個葉蒸散速度の局所変異の予測可能性:花輪光彦(静岡大学)ら
P1-163# スギ4林分における細根次数形態と表層土壌化学特性:和田竜征(名古屋大学)ら	P1-172 全国有名クロマツ林から採取した球果と種子の形質変異:岩泉正和(森林総合研究所)ら	P1-189 アレル特異的PCR法を用いた無花粉スギのピラミディング育種:森口喜成(新潟大学)ら	P1-208 南米半乾燥地原産マメ科3樹種の乾燥に対する成長と葉の水分生理:井上裕太(森林総合研究所)ら
P1-164# 異なる土壌環境におけるヒノキ末端数根形態の変動-東海地方7林分において-:土居龍成(名古屋大学)ら	P1-173 抵抗性クロマツの結実量と気象の関係:遠藤良太(千葉農林総合研究センター森林研究所)	P1-190 スギさし木発根メカニズム解明に向けた遺伝子発現情報基盤の作成:田中杏奈(九州大学)ら	P1-209# 大台ヶ原の衰退林におけるトウヒ生残木の樹液流速・樹幹剥皮の程度による差異:岡本榛名(三重大学)ら
P1-165# ヒノキ・コナラ林における細根生産の長期動態と環境応答:仲畑了(京都大学)ら	P1-174 GA <sub>4</sub> を用いた抵抗性クロマツ採種圃における着花促進:玉城聡(森林総合研究所)ら	P1-191 カラマツ分子育種のための遺伝子基盤情報の整備:三嶋賢太郎(森林総合研究所)ら	P1-210# 広葉樹の乾燥ストレスによる通水コンダクタンスの低下と回復のメカニズム:新村ゆい(東京大学)ら
P1-166# Fine root dynamics and its seasonal patterns in stands of <i>Ilex pedunculosa</i> : Xiaojing Cheng (Kyoto University) et al.	P1-175 アカマツ精英樹における節間長の改良効果の予測:那須仁弥(森林総合研究所)ら	P1-192# ヒノキ葉緑体ゲノムの解読とゲノム構造の解明:岡山孔平(九州大学)ら	P1-211 苗木の根系切断による水輸送効率低下の種間差:梅村利弘(北海道大学)ら
P1-167# Fine root, litterfall and net primary production in Scots pine stands of Finland and Estonia: An, Ji Young (Kyoto University) et al.	P1-176 カラマツ種子の成熟時期の植栽期間変異:生方正俊(森林総合研究所)ら	P1-193 葉緑体ゲノムによるリュウキュウマツの進化的位置:田村美帆(九州大学)ら	P1-212 灌水前処理が熱帯湿林構成樹種の苗木の茎と根のデンプン濃度に与える影響:則定真利子(東京大学)ら
	P1-177 トドマツ精英樹実生家系における材質形質のGE交互作用:田村明(森林総合研究所)ら	P1-194 広島県庄原市のコウヨウザン林におけるクローン構成の解明と成長形質のクローン間変異の解析:磯田圭哉(森林総合研究所)ら	P1-213 植栽時期と灌水前処理が熱帯湿林構成樹種の湿地植栽後の生残に与える影響:山ノ下卓(東京大学)ら
	P1-178 山形県におけるスギ種子の発芽率向上の取り組み:宮下智弘(山形県森林研究研修センター)ら	P1-195# 静岡県天竜地域におけるスギ高齢人工林の遺伝的多様性:岩崎隼(東京大学)ら	P1-214# 酸欠ストレスがマングローブ樹種の耐塩性に及ぼす影響:沖田総一郎(鳥取大学)ら
	P1-179# 光環境と施肥濃度がスギ当性実生苗の初期成長に及ぼす影響:田玉巧(新潟大学)ら	P1-196 鳥嶼ブナ北限奥尻島集団の遺伝的多様性と分化:北村系子(森林総合研究所)ら	P1-215# 異なるNaCl処理が根粒菌を接種したマメ科樹種の生存・生育に与える影響:笹原育美(鳥取大学)ら
	P1-180 異なる温度条件下で育成したスギの形質評価:高島有哉(森林総合研究所)ら	P1-197# V字谷の谷底および谷壁に生育するシオン ( <i>Fraxinus spaethiana</i> ) の遺伝構造:小西雄大(東京大学)ら	P1-216 海水による土壌冠水がホウライチクの陽イオン含有量に与える影響:井上美那(鳥取大学)ら
	P1-181 さし木時期および穂木の低温貯蔵がスギ在来品種のさし木発根性に与える影響:佐藤嘉彦(大分県農林水産研究指導センター)ら	P1-198 マイクロサテライトマーカーを用いた立田山ヤエクチナシの遺伝解析:金谷整一(森林総合研究所)ら	P1-217# 直流高電圧を用いた熱帯樹木への形成層マーキング:中井涉(京都大学)ら
	(発表取消)	P1-199 愛媛で生育するヤマザクラのSSRマーカーによる遺伝構造解析:西原寿明(愛媛県農林水産研究所林業研究センター)	P1-218# 植物ホルモン処理がニセアカシアの萌芽発生に及ぼす影響:片山卓弥(鳥取大学)ら
	P1-183 スギ地域差検定林に共通植栽された系統の幼苗における形態と成長パターン:河合慶恵(森林総合研究所)ら	P1-200# 房総半島に生育するアサダの葉緑体DNAシーケンスによる系統地理:安藤岳洋(東京大学)ら	P1-219# 気候条件からみたブナの葉の表現型可塑性:堀川慎一郎(神戸大学)ら
	P1-184 スギの成長と試験地内微小環境との関係性の解析-九州育種基本区の事例-:武津英太郎(森林総合研究所)ら	P1-201 ブナ乾燥応答性遺伝子 FcMYB1603の塩基多型の地理的変異:鳥丸猛(三重大学)ら	P1-220 異なる光環境下に生育するモミ稚樹の樹体内デンプン濃度の季節変化:田中憲蔵(森林総合研究所)ら

ポスターの準備ならびに撤収は速やかにお願します。ポスターの掲示場所については当日に会場でお知らせします。

コアタイムには必ずポスターの前に立ち質疑に応じてください。

研究発表題目(ポスター発表 P1グループ P1-001からP1-287) 3月27日 5/6

会場:学習交流プラザ # : 学生ポスター賞応募ポスター ポスター準備8:30~11:00, コアタイム12:00~13:30, ポスター撤収16:00~16:30

生理	防災	T4 流出を測る一分野横断的な解析ツールとしての流出研究の応用と可能性	利用	T2 森林生態系中の放射性セシウム汚染に関する新たな知見
P1-221 スギの伸長成長に対する光強度と気温の影響:岡田鈴実(九州大学)ら	P1-239# 白山における2015年地すべりの地形解析と植生復元の方向性:田口真(石川県立大学)	P1-248 複数トリーサによる流域の浮遊土砂流出プロセスの推定:水垣滋(土木研究所)ら	P1-254# 栃木県における小規模木質バイオマスガス化発電のための利用可能量推計:山本嵩久(宇都宮大学)ら	P1-265# 福島県内の隣接した植生が異なる3林分における土壤中放射性Csの挙動:林愛佳音(名古屋大学)ら
P1-222# 風がヒノキの生理成長に及ぼす影響:杉田昂駿(静岡大学)ら	P1-240# 立木間における深度方向の根系分布特性:長岡真子(信州大学)ら	P1-249# 土壌カラムを用いた降雨中の浸透流出及び水質形成の実験的検討:酒井佑一(東京大学)ら	P1-255# 収穫・輸送費用を指標とした木質バイオマス発電所への森林資源供給の可能性:中田知沙(三重大学)ら	P1-266# 福島の森林生態系における放射性セシウムの動態:蓄積と移動の空間的不均一性について:佐野みずほ(京都大学)ら
P1-223# スギ幹呼吸の樹齢およびサイズに伴う変動:大西裕子(九州大学)ら	P1-241# スギ人工林斜面におけるリターの個体あたりの重量と移動要因:飯田晴花(三重大学)ら	P1-250 山地河川における増水時の量水観測精度向上に向けた検討:浅野友子(東京大学)ら	P1-256# 造林方法の違いによるプロセッサ作業能率の分析:吉岡和起(東京農業大学)ら	P1-267 広域調査に基づく森林内における立木の放射性セシウム分布:氏家亨(国土防災技術)ら
P1-224 福岡地方におけるスギの肥大成長開始と気温:玉泉幸一郎(九州大学)ら	P1-242# 平成28年熊本地震により森林と草地に生じた斜面崩壊の土砂移動と滞留:小柳賢太(東京農工大学)ら	P1-251 利根川源流部の多雪地森林小流域における融雪期の流出特性:瀧澤英紀(日本大学)ら	P1-257# 欧州製自走式搬送機の作業分析:市川翔悟(東京農業大学)ら	P1-268# スギにおける放射性Csの存在形態とその成熟過程における変化:原寛彰(名古屋大学)ら
P1-225 裸子植物と被子植物の光合成制御の違い:津山孝人(九州大学)ら	P1-243# Detecting potential sites for vegetation recovery in Banda Aceh, Indonesia: Arief, Mochamad Candra Wirawan (Mie University) et al.	P1-252 南アルプス付加体堆積岩山地における基岩湧水の降雨応答特性の解析:山川陽祐(筑波大学)ら	P1-258# スイングヤーダの簡易的搬送装置の開発:沢崎元美(島根大学)ら	P1-269# スギ林における立木位置と樹幹基部の放射性セシウムとの関係:山崎文生(宇都宮大学)ら
P1-226 キサントフィルサイクルに依存しない樹木特異的なNPG:柴田勝(山口大学)ら	P1-244# マレーシアのオイルパーム林の遮断蒸発特性:横山泰之(東京大学)ら		P1-259# 軽架線集材の索張り方式:青木遥(高知大学)ら	P1-270 阿武隈の広葉樹林における放射性セシウム吸収量推定の試み:小林達明(千葉大学)ら
P1-227 加齢がマダケとモウソウチクの種のクロロフィル濃度におよぼす影響:大原遼(九州大学)ら	P1-245# ヒノキ林における自作濡れセンサーを用いた各層の樹冠遮断および蒸発過程の実測:仙福雄一(京都大学)ら		P1-260# 林内の無線電波伝搬特性:五明友実(高知大学)ら	P1-271 栃木県北部の落葉広葉樹林における樹上葉および落葉の放射性セシウムの季節変化と地表への移行過程:大久保達弘(宇都宮大学)ら
P1-228# 青色光受容体フォトロピンの機能分化は裸子植物で既に起きていた:石下和宏(九州大学)ら	P1-246# Rainfall partitioning in an unmanaged dense stand for Japanese cypress ( <i>Chamaecyparis obtusa</i> ): Seonghun Jeong (Kyushu University) et al.		P1-261# 日本大学八雲演習林における風倒木処理について:ドローン空撮による事前調査:亀山翔平(日本大学)ら	P1-272 森林内における放射性セシウム動態のデータベース構築:橋本昌司(森林総合研究所)ら
P1-229# タイワンスギにおける赤色光受容体フィトクロム分子種の解析:木数亮太(九州大学)ら	P1-247# 東シベリアカラマツ林における群落下の乱流特性比較:上倉義人(名古屋大学)ら		P1-262# ヒノキ漸伐林での上木伐採にともなう更新木損傷の分布:大塚大(信州大学)ら	P1-273# ミズナラの各器官における高さ別の放射性セシウム量:河野沙紀(東京農工大学)ら
P1-230 クロロフィル蛍光測定を応用したヒバの耐凍性獲得過程の評価:福永路子(秋田県立大学)ら				P1-274 休眠期のコナラ当年枝および土壌間におけるセシウム137濃度の関係:金指努(森林総合研究所)ら
P1-231 プナ乾燥応答性遺伝子 FeMYB1603の機能的解析:赤田辰治(弘前大学)ら				P1-275 スギの樹幹基部における放射性セシウム濃度の分布パターン:飯塚和也(宇都宮大学)ら
P1-232# プナ花成のエピジェネティック制御-DNAメチル化の決定時期と養分の影響-和田尚之(北海道大学)ら				P1-276# コシアブラにおける元素吸収特性について-アーバスキュラー菌根菌に注目して-福土彰久(名古屋大学)ら
P1-233# プナのタンニン合成経路に働く傷害誘導遺伝子の解析:福井忠樹(弘前大学)ら				P1-277 千葉県のモウソウチク林における放射性セシウム濃度の経年変化:小林真生子(千葉県)ら
P1-234 高温ストレスによりスギ実生で誘導される転写産物の解析:伊原徳子(森林総合研究所)ら				P1-278# 落葉分解過程における放射性セシウムの動態-異なる植生間, 年度間の比較-:渡邊菜月(横浜国立大学)ら
P1-235# スギにおける新規カリウムトランスポーター遺伝子CjKUP4の単離および解析:石川達也(信州大学)ら				P1-279 林床における落葉分解に伴う放射性セシウムの吸着様式の変化:高橋輝昌(千葉大学)ら
P1-236 リュウキュウマツ, ヤクタネゴウ組織から誘導したカルスからのプロトプラストの単離・培養:細井佳久(森林総合研究所)ら				P1-280 森林生態系内の放射性セシウム移行における有機物および微生物の役割に関する実験的検討:遠藤雅貴(千葉大学)ら
				P1-281 異なる放射性セシウム濃度での落葉分解にともなう濃度および量の変化の比較:市川貴大(とちぎ農林倶楽部)ら

ポスターの準備ならびに撤収は速やかにお願します。ポスターの掲示場所については当日に会場でお知らせします。

コアタイムには必ずポスターの前に立ち質疑に応じてください。



研究発表題目(ポスター発表 P2グループ P2-025からP2-263) 3月28日 1/4

会場: 学習交流プラザ ポスター準備8:30~11:00, コアタイム12:00~13:30, ポスター撤収16:00~17:00

経営		植物生態		
P2-025 スギ人工林における局所最大法を用いた樹頂点抽出と林分状況との関係: 上野操子(バスコ)ら	P2-044 衛星画像を用いた鹿児島県東部の人工林皆伐の把握: 加治佐剛(鹿児島大学)ら	P2-062 小根山記念林における品種別スギ植栽地の測定および分析: 佐藤孝吉(東京農業大学)ら	P2-065 門馬山ヒバ天然林における24年間の林分動態: 太田敬之(森林総合研究所)ら	P2-082 Study on isolating Matsutake mycorrhizas-associated actinobacteria and evaluating their impacts on fungal growth: Chunlan Lian (University of Tokyo) et al.
P2-026 航空レーザー測量による単木抽出精度: 地上型レーザーキャナによる検証: 長島啓子(京都府立大学)ら	P2-045 Google Earth Engineを用いた亜寒帯林における森林火災モニタリング: 多賀瑞希(千葉大学)ら	P2-063 焼きなまし法による間伐最適化: 焼きなましパラメータの調整: 守口海(信州大学)ら	P2-066 伊勢湾台風被害43年後における縞枯れ林の純一次生産量: 岩本宏二郎(森林総合研究所)ら	P2-083 保残伐施業前の北海道トマツ人工林で確認された外生菌根: 山中高史(森林総合研究所)ら
P2-027 航空機LiDARデータを用いた立木密度の推定: UAV空撮画像による上層木本数の検証: 田中真哉(森林総合研究所)ら	P2-046 種の均一性に基づくオブジェクト林相分類の最適探索: 星元啓吾(バスコ)ら	P2-064 癒しの森プロジェクト-実証林の設定と住民参加の調査研究: 藤原章雄(東京大学)ら	P2-067 暖温帯落葉広葉樹二次林におけるコナラ個体群の動態: 30年間の観測と年輪解析結果: 坂本圭児(岡山大学)ら	P2-084 津波被害後の海岸クロマツ林における菌根相: 竹内祐子(京都大学)ら
P2-028 航空レーザーデータを用いたwatershed分割領域の林相分類: 福井翔宇(バスコ)ら	P2-047 放置モウソウチク林の毎木調査区の大きさの検討: 豊田信行(愛媛大学)ら	P2-068 沖縄島やんばる地域における非皆伐成熟林の動態と台風攪乱の影響: 高嶋敦史(琉球大学)ら	P2-085 ナラ枯れがコナラ種子散布の空間分布に与える影響: 佐藤貴紀(東京大学)ら	
P2-029 航空機LiDARによる平均林冠高法の比較分析: 小谷英司(森林総合研究所)ら	P2-048 NFIデータにおける個体のばらつきを考慮した集計方法の検討: 北原文章(森林総合研究所)ら	P2-069 モンゴル北部森林地帯における山火事後の植生回復: 松井哲哉(森林総合研究所)ら	P2-086 林床植物ベニシダ ( <i>Dryopteris erythrosora</i> , オンダ科)の長野県における分布拡大に対する気候変動影響の検出: 高野(竹中)宏平(森林総合研究所)ら	
P2-030 航空機LiDARによる森林解析への斜面傾斜の影響について: 石塚伸太郎(バスコ)	P2-050 山梨県内カラマツ芯腐れ病ハザードマップの作成: 大地純平(山梨県森林総合研究所)	P2-070 冷温帯林の斜面崩壊跡地における樹木実生の定着と成長に影響を及ぼす要因: 野口麻穂子(森林総合研究所)ら	P2-087 2倍体オニヤブソテツの交配様式の進化について: 今井亮介(筑波大学)ら	
P2-031 人工林を対象とした波形記録式航空機LiDARデータによる森林構造の把握: 前田佳子(国際航業)ら	P2-051 新潟県村上市山北地区で生産されるスギ素材の利用動向: 龍原哲(東京大学)	P2-071 古文書に記録された江戸末期天城山のブナ林: 井出雄二(東京大学)	P2-088 REDD+プロジェクトがもたらす環境便益: 古川拓哉(森林総合研究所)ら	
P2-032 3Dレーザーキャナを用いた標準地調査について: 松本純(大分県農林水産研究指導センター林業研究部)ら	P2-052ゾーニングが地域の木材生産及び各種機能に与える長期的な影響の予測: 山田祐亮(森林総合研究所)	P2-072 ササの一回開花の周期は何年なのか? -木曾およびその周辺地域の歴史資料から分かったこと-: 岡本透(森林総合研究所)ら	P2-089 森林公園における生態系サービスのトレードオフ-景観と希少種保全に関するアンケート調査-: 長池卓男(山梨県森林総合研究所)	
P2-035 UAVを用いた林分構造推定: 太田徹志(九州大学)ら	P2-053 最適採材による用材・燃料材区分を考慮した都道府県別・間伐材生産量予測モデルの開発: 広嶋卓也(東京大学)ら	P2-073 森林生態リモートセンシング研究のための大規模森林調査プロットの整備: 中路達郎(北海道大学)ら		
P2-036 UAVによる林内の資源調査に関する検討: 吉野彰(東京農業大学)ら	P2-054 持続可能な森林経営に向けた北海道の課題-資源, 施業, 利用からの視点-: 八坂通泰(北海道立総合研究機構林業試験場)	P2-074 日本の温帯樹木と潤湿熱帯樹木とで養分蓄積様式に違いがあるのか? JIBPデータの再検討: 稲垣昌宏(森林総合研究所)		
P2-037 森林内調査におけるUAVの有効性の検討: 山本一清(名古屋大学)ら	P2-055 更新補助作業を組み入れた天然林施業の実行可能性: 吉田俊也(北海道大学)	P2-075 窒素付加量の異なる林分に生育するスギにおける炭水化物濃度の変動: 壁谷大介(森林総合研究所)ら		
P2-038 石川県のスギ人工林におけるUAVを用いた林分材積の推定: 瀧美幸大(石川県農林総合研究センター林業試験場)ら	P2-056 択伐施業と台風被害に伴う天然生混交林の長期的変化: 東京大学北海道演習林の事例: 尾張敏章(東京大学)ら	P2-076 モウソウチク林とマダケ林における多量・微量元素の分布と存在量: 籠谷泰行(滋賀県立大学)ら		
P2-039 UAVを用いたスギ人工林の林分材積推定のための樹冠形状モデルの構築: 木村一也(石川県森林組合連合会)ら	P2-057 花粉記録と林政史資料に基づく秋田天然スギ林帯における中世以降のスギの減少: 池田重人(森林総合研究所)ら	P2-077 放置されたクロマツ林の炭素循環における蔓植物の寄与: 藤井正典(環境科学技術研究所)ら		
P2-040 UAV空撮とSfMによる木竹混交林の林分構造推定: 上森真広(大阪府立環境農林水産総合研究所)ら	P2-058 長期モニタリングデータによるカラマツの成長特性と環境要因: 高橋正義(森林総合研究所)ら	P2-078 つる性木本植物サルナシおよびアジの組織構造と生存戦略: 黒田慶子(神戸大学)ら		
P2-041 複数時期のUAV空撮画像でみるブナ林: 村上拓彦(新潟大学)ら	P2-059 1伐5残のスギ列状間伐林における樹冠量と定期直径成長量との関係: 高橋興明(森林総合研究所)ら	P2-079 やんばる固有種オキナワセッコクの着生木選択: 阿部真(森林総合研究所)ら		
P2-042 Detection of low density natural forest in the Andes region using LANDSAT 8 imagery: Vega Isuhuyalas, Luis Alberto (Forestry and Forest Products Research Institute)	P2-060 スギ人工林における下層間伐区と上層間伐区での成長経過の違い: 田中邦宏(森林総合研究所)ら	P2-080 ブナ樹冠内の葉クラスターの形状による局所的な環境変異への適応-地上レーザーキャナによる三次元葉分布の解析-: 望月貴治(岐阜大学)ら		
P2-043 時系列衛星画像を用いたミャンマー択伐林における森林攪乱の抽出: 志水克人(住友林業)ら	P2-061 タイ国テーク人工林の皆伐後に2本仕立てにした萌芽の生育経過: 野田巖(森林総合研究所)ら	P2-081 高知大学演習林(瀬北フィールド)におけるヤマザクラの衰退原因の検討: 市栄智明(高知大学)ら		

ポスターの準備ならびに撤収は速やかにお願します。ポスターの掲示場所については当日に会場でお知らせします。

コアタイムには必ずポスターの前に立ち質疑に応じてください。

研究発表題目(ポスター発表 P2グループ P2-025からP2-263) 3月28日 2/4

会場:学習交流プラザ ポスター準備8:30~11:00, コアタイム12:00~13:30, ポスター撤収16:00~17:00

造林		利用	
P2-091 カラマツコンテナ苗の根系生長:上村章(森林総合研究所)ら	P2-108 植栽密度と下刈り期間の違いがスギの成長に与える影響:小谷二郎(石川県農林総合研究センター林業試験場)	P2-125 ナラ枯れが進行する二次林におけるコナラ種子生産量の6年間の変化:久保満佐子(鳥根大学)ら	P2-142 山形県地蔵山におけるオオシラビソの被害程度と更新状況:千葉翔(山形県森林研究研修センター)ら
P2-092 スギ・ヒノキコンテナ苗における水分ストレスによる根系の発達促進効果:陶山大志(鳥根県中山間地域研究センター)	P2-109 スギ植栽木の樹高と競合状態による下刈り要否の判断基準:山川博美(森林総合研究所)ら	P2-126 カバノキ科樹木の雄花生産の種間・個体間変異とUAVによるその評価:倉本恵生(森林総合研究所)ら	P2-143 ヒノキ人工林皆伐跡地における天然更新の阻害要因の検討:久田善純(岐阜県森林研究所)ら
P2-093 スギコンテナ苗の用土量と成長の関係:渡部公一(山形県森林研究研修センター)	P2-110 下草との競合状態がカラマツ植栽苗の初期成長に及ぼす影響:原山尚徳(森林総合研究所)ら	P2-127 カラマツ天然更新地における種子散布と実生との関係:清水香代(長野県林業総合センター)ら	P2-144 ヒノキ漸伐試験地における下種伐後の更新状況と下種伐採率の更新に与える影響:肥後睦輝(岐阜大学)ら
P2-094 キャビティ容量の異なるスギコンテナ苗の灌水停止後の水ポテンシャルの変化:飛田博順(森林総合研究所)ら	P2-111 下刈り実施・省略下でカラマツ植栽が示す樹形アロメリーの経年変化:八木貴信(森林総合研究所)ら	P2-128 低木層に広葉樹があるスギ人工林を皆伐したら広葉樹林化するのか?:石川美(愛媛県農林水産研究所林業研究センター)	P2-145 京都盆地の丘陵斜面上に広がるヒノキ・コジイ混交林におけるヒノキの種子と実生の動態:寄元道徳(京都大学)ら
P2-095 ヒノキコンテナ苗における灌水停止後の水ポテンシャルの変化-キャビティ容量150ccと300ccの比較-:山下直子(森林総合研究所)ら	P2-112 北海道中央部に造成されたカラマツ類人工林の7年生までの生育状況:大野泰之(北海道立総合研究機構林業試験場)ら	P2-129 スギ人工林の択伐後10年間の下層植生の変化:塚原雅美(新潟県森林研究所)ら	P2-146 ヒノキの発芽における発芽床としての蘚類の影響:木下勇作(鳥取大学)ら
P2-096 スギ充実種子の一粒播種によるコンテナ育苗試験:藤井米(徳島県立農林水産総合技術支援センター)ら	P2-113 施肥がセンダン苗木の成長に及ぼす影響:池本省吾(鳥取県林業試験場)	P2-130 福岡県における海岸クロマツ林に自然侵入した広葉樹の分布:桑野泰光(福岡県農林業総合試験場資源活用研究センター)ら	P2-147 ササのある木曾ヒノキ天然林の林分構造:星野大介(森林総合研究所)ら
P2-097 スギ裸大苗の活着への摘葉の効果:野宮治人(森林総合研究所)ら	P2-114 本州西部地域での早生樹センダンの植栽試験:糟谷信彦(京都府立大学)ら	P2-131 落葉広葉樹における個葉の光要求度と被陰下での個体成長の整合性:田中裕(山梨県森林総合研究所)ら	P2-148 東北タイの砂質土壌に植栽したチークの養分吸収特性:香山雅純(国際農林水産業研究センター)ら
P2-098 水耕栽培によるスギ補植のカルス形成と発根誘導:平田令子(宮崎大学)ら	P2-115 芽かきしたセンダンの枝および葉の現存量が直径成長に与える影響:横尾謙一郎(熊本県林業研究指導所)ら	P2-132 人工林内における広葉樹実生の定着に及ぼす森林施肥と母樹からの距離の影響:横沢広朗(東京農工大学)ら	P2-149 間伐強度と斜面位置がチーク人工林の成長に及ぼす影響:樺間岳(国際農林水産業研究センター)ら
P2-099 マツノサイゼンチュウ抵抗性クロマツ種子からの不定胚形成細胞の誘導:丸山毅(森林総合研究所)ら	P2-116 再造林地におけるスギの樹高成長と地形および土壌厚の関係:上野満(山形県森林研究研修センター)	P2-133 関東南部の高齢の放置二次林における林冠構成種の16年間の変化:勝木俊雄(森林総合研究所)ら	P2-150 再湿地化火災荒廃地におけるサゴヤシ生産性向上の試み:金子隆之(京都大学)ら
P2-100 2011年津波浸水被害を受けた高齢クロマツ海岸林個体の肥大成長変化:白旗学(岩手大学)ら	P2-117 地位が異なるスギ林分における樹冠葉量の推定:稲垣善之(森林総合研究所)ら	P2-134 滋賀県落葉広葉樹二次林に優占するコナラの用途別材積の推定:奥田史郎(森林総合研究所)ら	(発表取消)
P2-101 海岸防災林再生地に植栽したコナラ苗木の生残に影響を与える要因:植栽季節, 防風柵, 園根園, 肥料の効果:高橋一秋(長野大学)ら	P2-118 気温と土壌条件がヒノキの葉寿命に及ぼす影響:中西麻美(京都大学)ら	P2-135 中国フチ砂漠の移動砂丘に植栽された <i>Populus simonii</i> Carr.の根萌芽特性:岩永史子(九州大学)ら	P2-162 4, 6, 8m材の集材生産性の比較:鈴木秀典(森林総合研究所)ら
P2-102 スギ裸実生苗の伸長成長におよぼす期首サイズの影響:渡辺直史(高知県立森林技術センター)ら	P2-119 品種によるスギの成長量と窒素利用様式の違い-九州産スギ5品種間の植栽後45年での比較-榎木勉(九州大学)ら	P2-136 ウルシ萌芽木の成長に与える密度の影響:石井智朗(岩手大学)ら	P2-163 放置竹林駆除作業の能率とコスト:伊藤崇之(森林総合研究所)ら
P2-103 ヒノキコンテナ苗の成長に及ぼす競合植生の影響:諏訪謙平(森林総合研究所)ら	P2-120 スギの伸長, 肥大成長フェロロジの環境応答:保坂武直(九州大学)ら	P2-137 広葉樹林の皆伐地における萌芽と実生の成長と空間分布:川口英之(鳥根大学)ら	P2-164 積雪期の平地地における広葉樹伐採の生産性:中澤昌彦(森林総合研究所)ら
P2-104 スギ特定母樹コンテナ苗の植栽後2年間の地上部成長:藤本浩平(高知県立森林技術センター)ら	P2-121 スギ列状間伐における残存木の成長について:山増成久(鳥取県林業試験場)	P2-138 皆伐から5年後のシデコブシ自生地の更新状況:玉木一郎(岐阜県立森林文化アカデミー)ら	P2-165 木質バイオマス発電施設が必要とする森林資源量と集荷範囲:石川知明(三重大学)ら
P2-105 植栽時期の異なるヒノキ・コンテナ苗の植栽後3年間の成長:渡邊仁志(岐阜県森林研究所)ら	P2-122 多地点データを使ったアカエゾマツ人工林のY-N曲線の調製:竹内史郎(北海道立総合研究機構林業試験場)ら	P2-139 広葉樹二次林における剥皮層の樹種選択性と影響:岡本卓也(岐阜県森林研究所)ら	P2-166 額田木の駅プロジェクトにおける出荷の持続性:狩場晴也(名古屋大学)ら
P2-106 省力的手法による皆伐後再造林の低コスト化-静岡県における調査研究からの試算-袴田哲司(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)ら	P2-123 岐阜県の多雪地域におけるスギ人工林の林分収獲表と林分密度管理図の高齢級林分への対応:片桐奈々(岐阜県森林研究所)ら	P2-140 トドマツ人工林個体の根株腐朽発生要因:滝谷美香(北海道立総合研究機構林業試験場)ら	P2-167 八甲田山麓ブナ林内の紅葉期環境色彩分布:松村哲也(信州大学)
P2-107 雑草木の植生タイプ別にみた毎年下刈りした林地におけるスギ幼樹木の成長:鶴崎幸(福岡県農林業総合試験場資源活用研究センター)ら	P2-124 ミズナラ種子生産の年次変動に影響する気象要因の検討:水谷瑞希(信州大学)	P2-141 応力波伝播速度測定によるオオシラビソ・シラビソ生立木の非破壊腐朽診断:小林元(信州大学)ら	

ポスターの準備ならびに撤収は速やかにお願します。ポスターの掲示場所については当日に会場でお知らせします。

コアタイムには必ずポスターの前に立ち質疑に応じてください。

研究発表題目(ポスター発表 P2グループ P2-025からP2-263) 3月28日 3/4

会場:学習交流プラザ ポスター準備8:30~11:00, コアタイム12:00~13:30, ポスター撤収16:00~17:00

動物・昆虫	立地	防災
P2-168 高知県全域におけるシカ柵設置および管理の現状.志賀薫(森林総合研究所)ら	P2-185 和歌山県におけるスギノアカトトラカミキリのシイ類の花での捕獲.法眼利幸(和歌山県林業試験場)ら	P2-194 北海道南部におけるカンラン岩を基盤とする森林流域における流出の特徴.佐藤冬樹(北海道大学)ら
P2-169 山口県におけるシカ低嗜好性樹木の検定.渡邉雅治(山口県農林総合技術センター)	P2-186 薬剤樹幹注入したヒノキにおけるスギノアカトトラカミキリの生育.衣浦晴生(森林総合研究所)ら	P2-195 トドマツ人工林の保残伐施業試験地(REFRESH)における伐採1年後の水質変化.長坂有(北海道立総合研究機構林業試験場)ら
P2-170 不完全な発見と一時的な移出のある群集の推定 -open hierarchical distance samplingを用いたアプローチ-山浦悠一(森林総合研究所)ら	P2-187 プナ林での薬剤樹幹注入によるブナハバチ防除実証試験.谷脇徹(神奈川県自然環境保全センター)ら	P2-196 九州の鹿北試験地における2001~2014年の雨水による溶存物質流入量の年々変化.釣田竜也(森林総合研究所)ら
P2-171 福岡県における15年間のシカ生息密度分布の動態.近藤洋史(森林総合研究所)ら	P2-188 九州山地におけるブナハバチ <i>Fagineura crenativora</i> の大発生.後藤秀章(森林総合研究所)ら	P2-197 窒素飽和条件下における窒素收支の変動とその影響.馬場光久(北里大学)ら
P2-172 UAVを使った低コストな大型哺乳類の個体数カウント手法.丹羽悠二(東京大学)	P2-189 マツ材線虫病被害先端地域における線虫媒介昆虫種の空間的・時間的変化と保持線虫種.柳澤賢一(長野県林業総合センター)ら	P2-198 圧密処理が土壌の窒素動態と微生物群集動態に与える影響.館野隆之輔(京都大学)ら
P2-173 高知県における植生によるニホンシカ生息密度推定方法の検討.深田英久(高知県立森林技術センター)ら	P2-190 Nematode associated with <i>Odontotermes formosanus</i> and its associated arthropods: Natsumi Kanzaki (Forestry and Forest Products Research Institute) et al.	P2-199 ヒノキ人工林の斜面に沿った土壌の窒素無機化特性と有機態窒素存在形態.廣部宗(岡山大学)ら
P2-174 若齢人工林における繊維特性の異なるクマ除けネットの効果.渡辺直明(東京農工大学)ら	P2-191 マツ材線虫病のアカマツ抵抗性品種数種における病徴進展初期の防御反応.三木直子(岡山大学)ら	P2-200 葉と根の分解過程で溶脱するもの-スギヒノキの場合-.谷川東子(森林総合研究所)ら
P2-175 耕作放棄地の放牧管理がもたらす集落維持機能の向上効果.森野真理(吉備国際大学)ら	P2-201 熱帯アジア・オーストラリアに見出される森林樹木の漂白落葉とそれに関する菌類.大園享司(同志社大学)	P2-202 日本の針葉樹種における枯死木の木材成分濃度.酒井佳美(森林総合研究所)ら
P2-176 プナ林における樹洞形成とそれを利用する土壌動物群集.吉田智弘(東京農工大学)	P2-202 日本の針葉樹種における枯死木の木材成分濃度.酒井佳美(森林総合研究所)ら	P2-203 苗場山ブナ林における異なる標高での土壌呼吸季節変化.楢本正明(静岡大学)ら
P2-177 北海道中央部のトドマツ人工林を主体とした小流域のトビケラ群集.速水将人(北海道立総合研究機構林業試験場)ら	P2-204 スギ人工林における土壌乾燥処理にもなう土壌呼吸変動.阪田匡司(森林総合研究所)ら	P2-204 スギノロ山における1980年マツ枯れ以降の樹木生長に伴う流況変動の傾向.細田育広(森林総合研究所)
P2-178 シイタケ害虫の化学生態学的比較.所雅彦(森林総合研究所)ら	P2-205 ヤチダモ湿地林における生態系メタフラックスのボトムアップ推定.寺澤和彦(東京農工大学)ら	P2-205 湿度領域の不飽和透水係数計測に対応した実用的な蒸発法装置の提案.正岡直也(京都大学)ら
P2-179 シイタケのフタモントンボキノコバエ被害に対するホダ木被覆の効果.岩澤勝巳(千葉県農林総合研究センター)	P2-206 樹幹流は表面流発生要因となりうるのか? -樹冠サイズによる影響-.山岸極(宮崎大学)ら	P2-206 多雪山地の流域における流出に関わる気象要因.相浦英春(富山県農林水産総合技術センター)
P2-180 共生菌接種スギ生立木へのオナガキバチの産卵試験.松本剛史(森林総合研究所)ら	P2-207 福島県における土地分類基本調査(国土調査)について.今井辰雄	P2-207 モウソウチク林斜面における浸透経路と根系の関係.平岡真合(筑波大学)ら
P2-181 青森県南西部のマツ材線虫病初期被害地におけるマツノマダラカミキリ幼虫の罹病木穿入密度.伊藤昌明(青森県産業技術センター林業研究所)ら	P2-208 ラオス北部山地の異なる標高域および地形条件に分布する森林土壌の形態的特徴.今矢明宏(国際農林水産業研究センター)ら	P2-208 森林樹冠における水輸送の観測.北村兼三(森林総合研究所)
P2-182 カラマツヤツバキクイムシをピンで誘引できるのか? .小野寺賢介(北海道立総合研究機構林業試験場)ら	P2-209 スギ・ヒノキ人工林における土砂受け箱で捕捉された土壌と地表層土壌の粒径組成の比較.島田博匡(三重県林業研究所)	P2-209 冷温帯落葉広葉樹林における熱フラックスの季節および年変化.小坂泉(日本大学)ら
P2-183 カンノナガキクイムシ穿入孔に羽化トラップを設置してみたわかったこと.大橋章博(岐阜県森林研究所)	P2-210 スギ新植地に木質燃焼灰を施肥した林分の土壌化学性.山田毅(森林総合研究所)ら	P2-210 半島マレーシア熱帯雨林における降雨・植物・土壌および渓流水中の酸素水素安定同位体比.小杉緑子(京都大学)ら
P2-184 越冬前及び越冬中のハラアココバカミキリ成虫の捕獲事例.小坂肇(森林総合研究所)ら		

ポスターの準備ならびに撤収は速やかにお願いします。ポスターの掲示場所については当日に会場でお知らせします。

コアタイムには必ずポスターの前に立ち質疑に応じてください。

研究発表題目(ポスター発表 P2グループ P2-025からP2-263) 3月28日 4/4

会場:学習交流プラザ ポスター準備8:30~11:00, コアタイム12:00~13:30, ポスター撤収16:00~17:00

防災	微生物		
P2-237 風速と雨量計の受雨面積が降雨捕捉に与える影響:若原妙子(東京農工大学)ら	P2-246 キツネタケの菌根から分離培養されたバクテリア:小長谷啓介(森林総合研究所)	P2-263 <i>Raffaelea quercivora</i> のゲノム解析:升屋勇人(森林総合研究所)ら	
P2-238 アロメトリ式を用いて広葉二次林の年蒸散量を算定:邱滇璋(東京農工大学)ら	P2-247 皆伐地におけるアカマツ母樹からの距離が外生菌根菌群集に及ぼす影響:松田陽介(三重大学)ら		
P2-239 降雨強度と樹種の違いが樹幹流量に及ぼす影響—人工降雨実験に基づいた検討—:飯田真一(森林総合研究所)ら	P2-248 外生菌根菌に感染したコナラ苗木の放射性セシウム吸収特性:崔東寿(東京農工大学)ら		
P2-240 里山広葉樹-ササ群落における下層植生(アズマネザサ)による遮断の特徴:ササ稗流の考慮:安部豊(サントリーグローバルイノベーションセンター)ら	P2-249 異なる林相の海岸クロマツ林における菌根性子実体の群集構造:中島寛文(愛知県森林・林業技術センター)ら		
	P2-250 カン類の葉に優占する内生菌 <i>Tubakia</i> spp.の病原性:松村愛美(東京大学)ら		
	P2-251 琉球列島のマングローブにおけるヒルギダマシとメヒルギの樹体内生菌相の比較:亀山統一(琉球大学)		
	P2-252 熊本市のスギ植栽地で落下する菌類胞子数の季節変化および年次変動:高畑義啓(森林総合研究所)		
	P2-253 ポルネオ島北部の熱帯多雨林における多孔菌類の種多様性:1950年代以降の標本を利用して:山下聡(徳島大学)ら		
	P2-254 トドマツ人工林腐朽材から分離された腐朽菌類相:太田祐子(日本大学)ら		
	P2-255 ナミダタケモドキによる根株心腐が立木の成長に与える影響の検討:原口竜成(東京大学)ら		
	P2-256 南根腐病罹病木の水利用特性と <i>Phellinus noxius</i> 菌糸の樹体内局在:矢崎健一(森林総合研究所)ら		
	P2-257 スギ非赤枯性溝腐病の感染に関する新知見:服部力(森林総合研究所)ら		
	P2-258 チャンチンモドキに寄生する <i>Aecidium</i> 属さび菌の生活環:安藤裕萌(森林総合研究所)ら		
	P2-259 ソメイヨシノコンバクト苗の作出と、コンバクト苗を用いたサクラ類こぶ病に対する抵抗性崩壊の再現:石原誠(森林総合研究所)		
	P2-260 北海道におけるニオイヒバ衰退枯死の被害実態:山口岳広(森林総合研究所)		
	P2-261 接種後1年4ヶ月及び2年4ヶ月経過した抵抗性クロマツ接木苗におけるマツノサイセンチュウの分布:中島剛(青森県産業技術センター林業研究所)ら		
	P2-262 沖縄島におけるマツノサイセンチュウの遺伝的構造:秋庭満輝(森林総合研究所)ら		

ポスターの準備ならびに撤収は速やかをお願いします。ポスターの掲示場所については当日に会場でお知らせします。

コアタイムには必ずポスターの前に立ち質疑に応じてください。

## 口頭発表 座長

部門	発表番号	座長氏名(所属)
林政1	A1	山本信次(岩手大学)
	A2~A7	前の講演者が座長(司会)を務める
	A8	田中伸彦(東海大学)
林政2	A9~A18	前の講演者が座長(司会)を務める
	A19	興柁克久(筑波大学)
林政3	A20~A35	前の講演者が座長(司会)を務める
	B1	奥敬一(富山大学)
風致	B2~B6	前の講演者が座長(司会)を務める
	C1~C7	田中真哉(森林総合研究所)
経営1	C8~C12	加藤顕(千葉大学)
経営2	C13~C17	米康充(鳥根大学)
	C18~C22	平田泰雅(森林総合研究所)
	C23~C26	吉田茂二郎(九州大学)
経営3	C27~C33	光田靖(宮崎大学)
	D1~D4	渡邊仁志(岐阜県森林研究所)
	D5~D9	吉田俊也(北海道大学)
造林	D10~D13	酒井敦(森林総合研究所)
	E1~E5	森口喜成(新潟大学)
遺伝・育種	E6~E9	花岡創(森林総合研究所)
	F1~F3	田中憲蔵(森林総合研究所)
生理	F4~F6	矢崎健一(森林総合研究所)
	F7~F9	古川原聡(住友林業)
	G1~G9	長池卓男(山梨県森林総合研究所)
植物生態	H1~H4	長倉淳子(森林総合研究所)
立地	H5~H8	戸田浩人(東京農工大学)
	I1~I5	谷誠(人間環境大学)
防災1	I6~I10	小杉緑子(京都大学)
	I11~I14	篠原慶規(九州大学)
防災2	I15~I18	執印康裕(宇都宮大学)
	J1~J4	齋藤仁志(信州大学)
利用	J5~J8	伊藤崇之(森林総合研究所)
	J9~J12	松本武(東京農工大学)
	J13~J16	有賀一広(宇都宮大学)
動物・昆虫	K1~K4	中村克典(森林総合研究所)
	K5~K10	山崎理正(京都大学)
	K11~K13	上田明良(森林総合研究所)
	K14~K16	梶村恒(名古屋大学)
	K17~K19	山浦悠一(森林総合研究所)

調整・討論のコマは、座長の裁量で、総合討論、質疑、時間調整等にお使いください。  
林政部門、風致部門では、講演終了後に次の講演の座長をお願いします。

部門	発表番号	座長氏名(所属)
微生物1	L1~L3	奈良一秀(東京大学)
	L4~L6	松田陽介(三重大学)
	L7~L9	小長谷啓介(森林総合研究所)
微生物2	L10~L13	太田祐子(日本大学)
	L14~L16	竹内祐子(京都大学)
特用林産	M1~M3	小松雅史(森林総合研究所)
セッション番号	発表番号	座長氏名(所属)
T2	T2-1~T2-6	大久保達弘(宇都宮大学)
	T2-7~T2-13	金子真司(森林総合研究所)
T3	T3-1~T2-3	菱拓雄(九州大学)
	T3-4~T2-6	福澤加里部(北海道大学)
	T3-7~T2-8	牧田直樹(信州大学)
T4	T4-1~T4-4	芳賀弘和(鳥取大学)
	T4-5~T4-8	小田智基(東京大学)
	T4-9~T4-13	勝山正則(京都大学)
T5	T5-1~T5-5	藤木大介(兵庫県立大学)
	T5-6~T5-10	明石信廣(北海道立総合研究機構林業試験場)
T6	T6-1~T6-5	久保雄広(国立環境研究所)
	T6-6~T6-14	愛甲哲也(北海道大学)
	T6-15~T6-23	庄子康(北海道大学)
T7	T7-1~T7-8	吉岡拓如(日本大学)・有賀一広(宇都宮大学)
	T7-9~T7-16	久保山裕史・横田康裕(森林総合研究所)
	T7-17~T7-18	横田康裕(森林総合研究所)
T8	T8-1~T8-2	藤原敬大(九州大学)
	T8-3~T8-5	寺内大左(京都大学)
T9	T9-1	上原巖(東京農業大学)
	T9-2	尾崎勝彦(フリーランス)
	T9-3	高山範理(森林総合研究所)
	T9-4	森田えみ(森林総合研究所)
	T9-5	竹内啓恵(東京農業大学)
	T9-6	伊藤賢司(姫路北病院)
T10	T10-1~T10-3	青柳かつら(北海道博物館)
	T10-4~T10-6	大石康彦(森林総合研究所)
	T10-7~T10-9	杉浦克明(日本大学)
	T10-10~T10-12	井上真理子(森林総合研究所)

調整・討論のコマは、座長・コーディネータの裁量でお使いください。



## 企画シンポジウム

### S1. “森林・林業分野の人材育成”と教育研究機関の役割—新しい林学を求めて

The role of education and research institutions in “human resource development for forest and forestry sector” – toward a new dimension of forestry science

コーディネータ： 田村典江（総合地球環境学研究所），井上真理子（森林総合研究所）

3月27日 14:00-17:00 会場 共通教育棟1号館111講義室

「森林・林業再生プラン」（2009年）および「森林・林業基本計画」（2011, 2016年）は、森林・林業における人材育成を重点のひとつとしてとりあげた。その中で林野庁は、フォレスター・プランナー・現場技能者の3つの人材が相互に連携する像を取りまとめ、各人材の職務内容とそれに対応する技術知識の体系を整理し、各種の研修や資格を整備することで体系的な人材の育成を図るものとした。

林野庁が主導する人材育成の取り組みの中で、大学等の教育研究機関との関わりは、個々の教員（研究者）が有識者として研修の企画運営委員やテキスト執筆、講師などを担うにとどまった。他方、大学等の教育研究機関が自らの役割として、社会人再教育を担う事例も各地にみられ、鹿児島大学、北海道大学、岩手大学、島根大学では、文科省事業「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」（平成25-27年度）を利用して教育プログラムの開発を試行し、大学の社会人教育について検討を行い、今年度も継続している。

また2012年の京都府立林業大学校の開校を皮切りに、全国各地で林業大学校の設立が相次いでいる。林業大学校の設立は就業前の人材育成を図るものであるが、大学教育を対象とする日本技術者教育認定機構（JABEE）の「森林及び森林関連分野」の技術者教育プログラム認定もまた、就業前教育を担うものである。

多様な主体による取り組みがある中で、教育研究機関が相互にどう連携して人材育成を行うべきかという検討が必要である。また、現状の“林業人材育成ブーム”は林野庁が主導した部分が大きいが、森林や林業に対する社会的な要請は多様化しており、林業技術者・技能者として期待される人材像や、学術研究と教育や普及のあるべき姿などについても、広く議論する必要がある。本シンポジウムでは、現状の各教育機関の取組状況を確認しつつ、よりよい人材育成に向けた議論を行う。

S1-1 森林・林業分野の人材育成と教育研究機関：田村典江(総合地球環境学研究所)

S1-2 森林・林業基本計画における人材育成の位置づけとその取組状況について：川村竜哉(林野庁)

S1-3 地方林務行政における林業教育への期待—海外連携の経験を通じて—：中村幹広(岐阜県立森林文化アカデミー)

S1-4 「県立の専修学校（林業専門学校）が担う社会人教育」の意義：横井秀一(岐阜県立森林文化アカデミー)

S1-5 鹿児島大学における林業社会人教育プログラム：枚田邦宏(鹿児島大学)ら

S1-6 北海道に即した林業技術者の育成—大学・研究機関の役割：柿澤宏昭(北海道大学)

S1-7 大学演習林における林業技術者に対する教育活動の実践：山本信次(岩手大学)

S1-8 高校教育の中の森林・林業教育：奈良岡隆樹(青森県立五所川原農林高等学校)

S1-9 京都府立林業大学校における教育の現状と課題について：志方隆司(京都府立林業大学校)

S1-10 JABEEプログラムの現状からみた大学の林学教育：戸田浩人(東京農工大学)

S1-11 高度林業技術者の育成に向けた大学院教育の目標と課題：山田容三(愛媛大学)

## S2. 残されたマツ林をどのようにして守るか

How can we protect the surviving pine forests from pine wilt disease?

コーディネータ： 二井一禎（京都大学），竹内祐子（京都大学）

3月27日 9:00-12:00 会場 共通教育棟1号館111講義室

マツ枯れは日本各地のアカマツ林，クロマツ林を壊滅させながら今や本州最北端の青森県にまで侵入した。流行病防除の要諦はその水際における徹底した対策に尽きるが，森や林で何本かのマツが枯死した段階（＝水際）ではなかなか発見が難しく被害木は放置されがちであったのであろう。やがて被害が激害化の様相を見せ，誰の目にも事態の深刻さが認識されるようになる頃には，少々の予算処置では被害の沈静化にいたらず，結局様々な理由をつけて防除は打ち切られる。そのようにして日本のマツ類は見捨てられ，マツ林は消滅してきた。しかし，日本各地には今も必死にマツ林を維持しようと努力する行政が存在する。また，ゴルフ場や社寺，庭園のマツ類，あるいは景観上の理由で欠かすことのできない重要なマツ林が存在し，大きな経費を覚悟の上で防除を続けている行政や団体が存在する。このように，現在も限られた防除予算という桎梏の中，予算を投下すべき森林を選択し，集中的に防除しようという方針がある。また，一方で様々な防除法を効果的に組み合わせるマツ林を守ろうという考えもある。このシンポジウムでは，これらいくつかの新しい防除戦略に取り組んでいる方々にその戦略について説明をいただき，現行の防除法の問題点を検討し，新しい防除法についてその可能性を議論する。

S2-1 松くい虫被害に対する防除戦略：考え方と実際：中村克典(森林総合研究所)

S2-2 選抜された抵抗性マツ植栽林における材線虫病の流行と新防除技術：杉本博之(山口県農林総合技術センター)ら

S2-3 北限の松枯れの特徴を踏まえた省力的防除体制：科学的検証と秋田の市民ボランティアによる15年間の実践：星崎和彦(秋田県立大学)ら

S2-4 ”マツノザイセンチュウ潜在感染松に対し樹幹注入剤の効果は？”－2,3の検証－：田中啓司(近畿大学)

S2-5 潜在感染木に対する樹幹注入剤の効果－三保松原において小集団で毎年発生する松枯れ被害地の枯死木発生経過と対策－：加藤徹(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)ら

S2-6 潜在感染木を対象に含めたマツ枯れ防除戦略：二井一禎(京都大学，サンケイ化学)

## S3. 収穫期を迎えた人工林における資源循環利用と水土保全との両立

Balancing between the soil and water conservation and the cyclic use of bioresources in manmade forests in ready for harvest

コーディネータ： 玉井幸治（森林総合研究所），鶴田健二（京都大学），谷誠（人間環境大学）

3月27日 9:00-12:00 会場 共通教育棟1号館121講義室

日本の人工林は収穫期を迎え，2016年5月改定された森林林業基本計画でも，「資源の循環利用」が重視されている。しかし，持続的に人工林を利用するためには，解決すべきさまざまな学術的な課題が存在する。これまで，過密人工林の間伐は，下草生育を促進して地表面流やそれによる土壌侵食を抑制するとされ，環境面でのプラス影響が強調されてきた。これに対して，皆伐後は，蒸発散の低下による洪水流出量増大，あるいは，根系腐朽による表層崩壊の発生頻度の増加など，むしろ環境面でのマイナス影響がこれまでの研究で指摘され，水土保全上の負荷への対策を考えなければならない。さらに，人工林の循環利用には，人工林施業の担い手不足，シカ食害などがかわるので，災害防止の面のみならず，林政，造林，保護にまたがる森林科学全体の深刻な問題と認識する必要がある。

そこで，直面する人工林の循環利用の観点から森林の水土保全機能評価を見直してみると，研究成果の蓄積が十分ではないことに気づく。もちろん，この研究分野においては，長期水文試験による森林伐採の水量水質への

影響、樹木根系の崩壊防止機能などについて、多くの知見が得られてきた。しかし、皆伐を前提とする林業を持続的に展開するために必要な水土保全技術、皆伐を行う場所と行わない場所をゾーニングするための水土保全機能評価技術の開発までには至っていない。そのため、これまでの研究知見をレビューし、今後取り組むべき研究方向性を見いだすことが求められる。また、この研究推進には、森林科学全体、ひいては林業現場との連携が不可欠であることは言うまでもない。

本企画シンポジウムでは、成熟して収穫期を迎えた人工林が増加している背景のもと、木材生産と環境保全の両立を見据えて、水土保全の側面だけでなく、他分野と連携して包括的に適正な森林の整備・保全のあり方を検討することを目標とする。

- S3-1 木材生産と水土保全との両立に向けた森林流域試験の取り組み：野口正二(森林総合研究所)ら
- S3-2 人工林における林分構造の変化が蒸散量に及ぼす影響評価に向けて：鶴田健二(京都大学)
- S3-3 森林の水土保全機能向上への流域人工林管理技術実装へ向けて：五味高志(東京農工大学)ら
- S3-4 斜面における土層発達・崩壊と人工林の資源循環利用：下川悦郎(鹿児島大学)ら
- S3-5 次世代の森林整備に向けた九州国有林での取組－人工林での資源循環利用に向けて－：大政康史(林野庁九州森林管理局)
- S3-6 資源循環利用と生物多様性・水土保全を両立させる伐区配置の検討：伊藤哲(宮崎大学)ら
- S3-7 オーストリア・チロル州の市町村林務職員による野溪監護(Wildbachbetreuung)：古井戸宏通(東京大学)
- S3-8 獣害問題に学ぶ：小泉透(森林総合研究所)
- S3-9 石油が不足すると森林管理で何が問題になるか?：小松光(京都大学)

#### S4. 森林保全遺伝学のこれまでとこれから

Forest conservation genetics: research in the past and future

コーディネータ： 戸丸信弘 (名古屋大学), 津村義彦 (筑波大学), 井鷲裕司 (京都大学),  
陶山佳久 (東北大学)

3月27日 9:00-12:00 会場 共通教育棟3号館321講義室

地球上の生物多様性は、様々な人間活動の直接的・間接的影響により急速に減少していることはすでによく知られている事実である。より深刻なケースでは、多くの種や集団がすでに絶滅、あるいは絶滅の危機に瀕している。このような状況は森林生態系を構成する生物においても例外ではない。保全遺伝学は保全生物学の重要な一分野であり、特に種や集団の絶滅に影響する遺伝的要因を明らかにし、絶滅のリスクを最小化する遺伝的管理を考える学問である。これまでの森林保全遺伝学の研究では、絶滅危惧種や希少種を保全するために、種や集団の遺伝的多様性、集団間の遺伝的分化、集団内の遺伝的構造、近親交配、近交弱勢、送受粉・種子散布、実生繁殖やクローン繁殖による更新プロセス、さらには外来種との交雑・遺伝子浸透など多くの情報を明らかにしてきた。また、普通種なども対象として、それらの保全単位を決定するために種内の集団遺伝構造なども明らかにしてきた。これらの研究成果は、遺伝マーカーを用いた分子生態学的解析手法の目覚ましい発展によるものである。さらに近年では、次世代シーケンサー (NGS: Next Generation Sequencer) の登場により、桁違いの分子データを比較的容易に取得することが可能となり、保全遺伝学の研究も全く新しい局面を迎えている。そこで本シンポジウムでは、森林保全遺伝学のこれまでの研究成果を俯瞰しつつ、最新の研究成果を発表していただき、今後の研究にどのように新しい研究手法を取り入れていくのかなど、将来の森林保全遺伝学研究の課題と展望について、参加者ととも議論したい。

- S4-1 ブナ林の断片化がブナ集団の遺伝的多様性と繁殖に及ぼす影響：戸丸信弘(名古屋大学)ら
- S4-2 持続的な熱帯林管理のためのフタバガキ科林業樹種の交配特性を考慮した択伐施業の高度化：谷尚樹(国際

農林水産業研究センター)ら

S4-3 MIG-seq 法による熱帯林樹木の保全遺伝学的研究：満行知花(東北大学)ら

S4-4 特殊土壌への適応が促した森林植物の系統分化：阪口翔太(京都大学)ら

S4-5 保全遺伝学から保全ゲノミクスへ：変わる事、変わらない事：津田吉晃(筑波大学)

S5. 生理部門特別セッションー樹木の成長と環境：講演会とポスター1分紹介

Special session of the Physiology Section “Tree Growth and Responses to Environmental Factors”

コーディネータ： 則定真利子(東京大学), 小島克己(東京大学), 斎藤秀之(北海道大学),  
津山孝人(九州大学)

3月27日 9:00-12:00 会場 共通教育棟3号館322講義室

講演会と生理部門のポスター発表の1分紹介からなる生理部門の特別セッションを企画します。

生理部門では樹木の成長の仕組みを明らかにする研究に携わっておられる方々の情報・意見交換の場となることを目指します。キーワードとして以下の21語を掲げています：樹木生理, 個体生理, 生態生理, 水分生理, 光合成, 呼吸, 栄養成長, 生殖成長, 環境応答, ストレス応答, 代謝, 栄養, 物質輸送, 植物ホルモン, 細胞内小器官, 細胞壁, 組織培養, 形質転換, 遺伝子発現, ゲノム科学, オミクス解析。個体から細胞・分子レベルまでの幅広いスケールの現象を対象とした多様な手法によるアプローチを含んでおりますので、これまでの研究分野の枠組みにとらわれることなく、さまざまなスケール・手法で樹木の成長の仕組みの解明に携わっておられる多くの皆様に生理部門での口頭・ポスター発表にご参加頂くとともに本シンポジウムにご参集を頂きたいと考えております。

講演会では、植物の二次代謝産物の代謝機構について研究されているマルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルクの Carsten Milkowski 氏に植物の加水分解性タンニンの代謝について、生物的ストレスに対する樹木の防御機構について研究されている東京大学の楠本大氏にシグナル物質によるヒノキ師部防御反応の制御について、樹木の環境ストレス応答の分野で長年にわたって研究を続けてこられた鳥取大学の山本福壽氏に樹木のストレスとエチレンの生理作用についてお話し頂く予定です。

1分紹介では、生理部門でポスター発表をされる方に発表内容を1分間でご紹介頂きます。

S5-1 Enzyme identification and pathway engineering in plant phenolic metabolism : Carsten Milkowski (Martin Luther University of Halle-Wittenberg)

S5-2 シグナル物質によるヒノキ師部防御反応の制御：楠本大(東京大学)

S5-3 Roles of ethylene in growth responses of woody species under various environmental stresses : Fukuju Yamamoto (Tottori University)

S6. 環境に適応する根系の形態と機能ー樹木根の成長と機能 企画シンポジウムー

Root morphology and function under different environmental condition -Symposium in development and function of tree roots-

コーディネータ： 平野恭弘(名古屋大学), 野口享太郎(森林総合研究所), 大橋瑞江(兵庫県立大学)

3月27日 9:00-10:30 会場 共通教育棟3号館331講義室

本企画シンポジウムでは【根系の形態とその機能】に焦点をあてます。根系の形態や構造はどのように決定されるのか？ また根系形態や構造は土壌物理性化学性にどのくらい影響するのか？ 根形態の違いはどのような機能の違いをもたらすのか？ などの視点から、根系形態と構造を種特性や取り巻く環境条件とともに議論していき

いと思います。

今回は、東海大学農学部 阿部淳先生に【栽培環境に適した植物根の形態—作物根系の事例から—】と題し、養水分が乏しい荒廃地や湿害が起きやすい水田転換畑でも栽培が可能なバイオマス作物の根など例に、根の垂直分布や不定根形成の話題を提供していただく予定です。また兵庫県立農林水産技術総合センター 山瀬敬太郎氏に【樹木の根系構造と引き抜き抵抗力】と題し、スギやクロマツなどの根の引き抜き試験の事例から、根系の形態構造の違いが土壌と根が形成する土壌緊縛力に与える影響について、ご講演いただきます。

当日は、それぞれ 30 分程度話題提供していただき、質疑の後、作物の根と樹木の根を比較しながら環境への適応する根形態とその機能について総合討論を行います。

S6-1 栽培環境に適した植物根の形態—作物根系の事例から—：阿部淳(東海大学)

S6-2 樹木の根系構造と引き抜き抵抗力：山瀬敬太郎(兵庫県立農林水産技術総合センター)

## S7. 森林管理者としての大学演習林～森林の教育・社会貢献活動の意義を考える～

University forests as forest manager: considering about the meaning of educational and social activities in forests

コーディネータ： 齋藤暖生 (東京大学), 當山啓介 (東京大学), 石橋整司 (東京大学)

3月27日 9:00-12:00 会場 共通教育棟3号館311講義室

1990年代以降、「持続可能な開発」、「地球環境の保全」というキーワードが社会全体に広がっていく中で、都市の周囲に広がる「森林」に対する意識が高まり、環境教育の場として期待されるようになった。昨年度の企画シンポジウムにおいて、大学演習林を管理する立場から「実現可能」かつ「効果的」な森林の教育・社会貢献活動のあり方について実際の大学演習林の取り組みを元にあらためて議論を行った。その結果、人員・予算が縮小の一途をたどるなか安全管理面では厳格な対応を要求されているなど、利用者を受け入れる際の負担が増えている実態と、その状況下でも大学外教育・社会貢献活動に取り組もうとする大学演習林の姿が明らかになった。そこで、昨年に続き、大学演習林が今後担うべき社会的任務とは何なのか、大学演習林にとって必要な「持続可能な教育・社会貢献活動の姿」について考えたい。今回は、特に森林管理者としての大学演習林にとって森林の大学外教育・社会貢献利用を行うことの意義を掘り下げ、何をめざして社会からの希望に応えていくべきなのか、という点を中心に議論を深めたい。

S7-1 大学演習林の教育および社会との関わりの変遷と多様性：齋藤暖生(東京大学)ら

S7-2 大学演習林アンケートにみる教育・社会連携活動の実態：石橋整司(東京大学)ら

S7-3 鹿児島大学演習林の森林環境教育—行政・NPO・地域住民との協働による多様な発展とそれに伴う諸課題：井倉洋二(鹿児島大学)

S7-4 新潟大学佐渡演習林における地域貢献活動—大学教育と大学外教育のジレンマ—：崎尾均(新潟大学)ら

S7-5 東京大学秩父演習林における近年の利用申込の特徴：高德佳絵(東京大学)ら

S7-6 北大研究林のフィールドを活用した地域連携：小塚力(北海道大学)ら

S7-7 岐阜大学位山演習林における森林管理と教育活動—天然木の経済的価値とヒノキ科極相林の保全—：石田仁(岐阜大学)

S7-8 演習林の森林認証取得と意義 —信州大学農学部附属AFC演習林の事例—：三木敦朗(信州大学)ら

## S8. 熊本地震による森林・林業被害と今後の課題

### Damages on forests by the 2016 Kumamoto Earthquake

コーディネータ： 森貞和仁（森林総合研究所），大丸裕武（森林総合研究所）

3月27日 14:30-16:30 会場 共通教育棟3号館311講義室

熊本県熊本地方で2016年4月14日夜と16日未明に最大震度7の地震が相次いで発生した。また、16日以降、熊本県阿蘇地方および大分県西部・中部地方にかけても地震が相次ぎ、これら一連の地震活動は「平成28年(2016年)熊本地震」と名付けられた(以降、熊本地震)。熊本地震により、熊本県を中心とした地域で建築物の損壊や土砂崩れが数多く発生し、地震による直接の犠牲者は50人にのぼった。

この熊本地震は広範な地域で森林・林業にも大きな打撃を与えた。林野庁のまとめによると、林業関係の被害は鹿児島を除く九州6県から報告があり、山腹崩壊(433カ所)や林道被害(1686カ所)のほか、流出した土砂等による立木への被害、木材加工施設やきのこ栽培施設の破損など、林業関係の被害額は総額395億円(2016.7.13現在)に達している。

広範囲にわたる森林被害状況の把握は、労力の点や林道被害による現場へのアクセス障害などから現地調査だけではカバーできない。そのため、森林被害調査には現地調査に加えてヘリコプターを用いた上空からの目視調査が行われた。さらに、森林内の地表面に発生した亀裂等は上空からの目視調査でも把握が困難であることから、航空レーザ計測による詳細な微地形情報の把握及び解析等が行われた。

本シンポジウムでは、これらの様々な調査結果および現場からの森林・林業関連施設の復旧への取り組み等の発表を行い、地震による森林・林業被害の実態と今後の課題に関して情報交換と議論を行うことを目的とする。

S8-1 平成28年熊本地震の概要と山地災害の発生状況：黒川潮(森林総合研究所)

S8-2 現地調査に基づく熊本地震に伴う山地災害の実態と特徴：久保田哲也(九州大学)

S8-3 熊本県における森林被害と復旧・復興への取り組み：木下節夫(熊本県)

S8-4 熊本地震で発生した森林域の亀裂等の航空レーザ計測による把握：岸功規(林野庁)

## S9. 森林動態研究：到達点・応用・展望

### Researches of forest dynamics: Present issues, applications, and perspectives

コーディネータ： 長池卓男（山梨県森林総合研究所）

3月27日 14:00-17:00 会場 共通教育棟3号館321講義室

「どのような研究分野を専門にしようとも、森林学者には、森林と人間社会の仲立ちをする者としての自覚が求められる(「教養としての森林学」)ならば、森林学における基礎研究的位置付けにある分野は、どのような議論を今後進めていけばよいのだろうか?

森林は、樹木という長寿命の生命体を主とした集合であり、木材生産機能を発揮するにしろ、公益的機能を発揮するにしろ、長期的かつ総合的な視点をもった研究が必要であることは言うまでもない。天然林では、その維持機構の解明のために長期動態研究の必要性が高まり、各地で森林動態研究が始まった。森林生態系としての維持機構の解明が、資源管理、天然更新施策、生態系サービス供給などのための基礎として今後どのように活用されるだろうか。人工林では、資源管理の観点から収穫試験地などで成長量等に関する長期データが収集されてきた。これらのデータを成長、競争関係等の基礎研究的視点から資源管理へ応用していくには今後どのような展開があるだろうか。

気候変動が顕在化し、木材自給率の向上が求められる中、「森林と人間社会の仲立ち」を俯瞰した際、森林動態研究は、現在どこまで解明し、何がわかっていないのだろうか? また、今後どのような視点が求められ、何に活かせるのだろうか? このような視点のもと、落葉広葉樹林と人工林での研究事例を議論の端緒とし、会場の

参加者と双方向で議論する場としたい。

- S9-1 落葉広葉樹林における動態研究の到達点：正木隆(森林総合研究所)
- S9-2 用材林に誘導された旧薪炭ブナ林の択伐的利用と天然更新：紙谷智彦(新潟大学)
- S9-3 琉球諸島の生物多様性保全と森林管理：システム化保全計画と森林施業スキーム：久保田康裕(琉球大学)
- S9-4 スギの長期動態研究—これからどこに向かうのか—：松下通也(森林総合研究所)
- S9-5 スギ人工林における成長の地域差と伐期：西園朋広(森林総合研究所)

## S10. 大気環境変化にともなう森林の生産性と分布の予測

Forest productivity and vegetation under changing atmospheric environment

コーディネータ： 渡辺 誠 (東京農工大学)

3月27日 14:00-17:00 会場 共通教育棟3号館322講義室

産業革命以降、化石燃料の消費拡大に代表される人間活動によって、森林を取り巻く環境は劇的に変化している。特に大気 CO<sub>2</sub> 濃度の増加やそれに伴う気候変動、窒素や硫黄といった酸性物質の沈着量の増加、PM2.5 を始めとした微粒子、そして大気汚染物質である対流圏のオゾンが森林生態系に与える影響は世界的に懸念されている。数十年の長い年月が必要とされる木材の生産、環境資源としての森林の持続的利用、そして流域レベルでの物質循環の将来予測を行う上で、大気環境の変化に対して森林やその主要構成種である樹木がどのように応答するのかを明らかにする必要がある。本シンポジウムでは樹木生理生態学を基礎として、大気環境に関するモニタリング、実験的研究およびフィールド調査、さらには数値モデルを用いた森林や樹木への影響評価に関する研究、というように分野横断的に最新の知見を持ち寄り、日本をはじめとしたアジア地域の森林に対する大気環境の変化の影響と将来の展望を議論する。今回のシンポジウムは二部構成となっており、第一部(S10-1～S10-6, 合計 90分)では大気環境変化と樹木の関係に関する個別事例を報告して頂く。第二部では黄瀬佳之氏 (東京農工大学, S10-7) と北尾光俊氏 (森林総合研究所, S10-8) に最近誌面発表された樹木の光合成生産に対するオゾンの影響に関する研究成果を紹介して頂く (合計 75分)。シンポジウム全体として、異なる分野間の異なるスケールで得られた知見を、双方からどのように捉えるのかについての議論を深める機会としたい。

- S10-1 日本の森林樹種の成長および乾物分配のオゾンに対する応答：渡辺誠(東京農工大学)ら
- S10-2 オゾン暴露と硫酸アンモニウム付加に対するニホンカラマツとグイマツ雑種 F<sub>1</sub> 苗木の応答の種間差：菅井徹人(北海道大学)ら
- S10-3 開放系 O<sub>3</sub> 付加施設で生育させた落葉広葉樹の無機養分の動態：小池孝良(北海道大学)ら
- S10-4 境界面としての樹冠における大気との相互作用：佐瀬裕之(アジア大気汚染研究センター)ら
- S10-5 水溶性エアロゾルの森林樹冠への乾性沈着：堅田元喜(茨城大学)
- S10-6 生態系への人為的な窒素負荷の増大は樹木にどのように影響するのか：久米篤(九州大学)
- S10-7 養分状態が異なる土壌で育成したブナ苗の CO<sub>2</sub> 固定量に対するオゾンの影響：黄瀬佳之(東京農工大学)ら
- S10-8 オゾン吸収量に基づいた森林の CO<sub>2</sub> 吸収機能に対するオゾンの影響評価：北尾光俊(森林総合研究所)

## 公募セッション

### T1. 持続可能な森林経営と森林環境のモニタリング

Sustainable forest management and forest environmental monitoring

本公募セッションは、取消となりました。

This session was canceled.

### T2. 森林生態系中の放射性セシウム汚染に関する新たな知見

New evidence for radiocesium contamination in forest ecosystem

コーディネータ： 金子真司（森林総合研究所）、大久保達弘（宇都宮大学）

3月27日 9:00-12:00 14:15-16:30 会場 共通教育棟1号館 131講義室

ポスター発表 3月27日 P1-265~P1-287

福島原発事故から5年が経過し、避難指示区域の見直し、被災地における林業の再開が進められている。しかしながら、森林に降下した放射性セシウム(Cs)は自然減衰によって低下しつつあるものの、系外への流出は少なく大半が森林内に留まっている。このため、森林利用再開にあたっては汚染状況を継続的に把握することが大切である。特に、広葉樹に関してはキノコ栽培用原木と菌床に対する放射性Csの指標値がそれぞれキログラムあたり50ベクレルと150ベクレルと厳しく設定されており、汚染地では利用が困難になっている。さらに、野生キノコや山菜も基準を越え出荷制限されている地域も多く、放射性Csの汚染状況の将来予測が求められている。

過去5回の森林学会大会で森林の放射能汚染に関するセッションを開催し、放射性Csの初期沈着および動態、樹木による放射性Csの吸収と樹体内の移動、放射能汚染の対策および除染、林業木材・里山利用への影響等に関する多くの研究成果知見が発表され、毎回熱心な議論が交わされてきた。森林生態系内の放射性Csに関して、新たな知見が日々見出されていることから、これまでの議論を継承しつつ、新たな成果に基づき、被災地における森林・林業の復興のために何が必要かを考えていくことを目的として本公募セッションを設けることにした。

### T3. 樹木根の成長と機能

Development and function of tree roots

コーディネータ： 平野恭弘（名古屋大学）、野口享太郎（森林総合研究所）、大橋瑞江（兵庫県立大学）

3月27日 10:45-12:00 14:30-16:30 会場 共通教育棟3号館 331講義室

ポスター発表 3月27日 P1-159~P1-167

『樹木根の成長と機能』の公募セッションでは、樹木根をキーワードに太い根から細い根まで、生態系レベルから細胞レベルまで、根と関連した多岐にわたる研究を公募し、報告対象といたします。

本公募セッションでは、樹木根だけでなく、境界領域分野との融合を目指します。すなわち、研究内容に「根」の測定項目があれば、葉など樹木地上部、材質特性、土壌化学性、土壌緊縛力など物理性、土壌微生物、温暖化や酸性化といった環境条件など、根以外を主な対象とする発表も広く歓迎いたします。「根」を測定項目としたい会員向けに測定方法の共有も目的とします。発表形式は口頭発表またはポスター発表とします。

さらに趣旨説明では2017年6月にエストニアで開催第7回国際樹木根会議など樹木根の国際的動向を森林学会員に広く情報提供し、樹木根と境界領域分野の関連研究者間のネットワーク作りを促進するための総合討論も行いたいと思います。



当日は趣旨説明の後、発表していただき適宜発表間に討論時間を設け、最後に総合討論の時間を設ける予定です。

#### T4. 流出を測る一分野横断的な解析ツールとしての流出研究の応用と可能性ー

Discharge measurements - As a common tool for cross-sectional studies

コーディネータ： 勝山正則（京都大学）、芳賀弘和（鳥取大学）、小田智基（東京大学）

3月27日 9:00-12:00 14:30-16:30 会場 共通教育棟1号館 125 講義室

ポスター発表 3月27日 P1-248~P1-252

本公募セッションで対象とする「流出」とは、単に河川・溪流からの水の流出（狭義の流出）にとどまらず、森林生態系全体やその一部を一つのシステムと捉え、その内側から外側へ水や風によって物質が輸送される現象（広義の流出）として幅広く定義する。水やガス、溶存あるいは粒子状の水質成分の輸送に加え、土砂や落葉枝のようなリターの輸送などがこれに含まれる。流出現象の解明は、対象場での水・物質収支の正確な把握に必要であるだけでなく、環境変動に対する生態系の応答や下流域への影響の理解においても不可欠である。広義の流出研究は、森林学会において防災、立地、植物生態、造林、生理などの幅広い部門で、様々な環境を対象に、様々な手法を用いて進められてきた。しかし、その測定手法や考え方には、各分野において独自に発展してきたものも多く、他分野にとっては馴染みが薄い場合がある。森林学会の場で「流出を測る」ことを幅広い視点で議論し、分野横断的な解析ツールとして利用することは、今後の森林生態系のゾーニングや流域管理に対して指針を示すとともに、地球環境問題に対する森林の役割解明という共通課題に取り組む道筋を示すことにもつながる。

本セッションでは、最新の観測技術・装置の開発や適用事例、これまで捉えることが困難であった流出現象をアイデアや工夫によって捉えた研究、長期観測の継続によって見えてきた新たな現象の紹介などの基礎研究を主な対象とする。また、観測から得られた情報を活用したモデル化の応用研究や、森林生態系の機能評価研究なども歓迎する。議論を通じて、このような流出現象を捉えることができれば新たな発見につながるというような展望を共有し、こういうものを測ってみたいがどうすればいいかという疑問に対して解決の糸口を探りたい。公募セッションである利点を生かし、若手・学生研究者の積極的な発表も歓迎し、活発な議論の場としたい。

#### T5. 森林におけるシカ問題の解決に向けて

Constructing solutions against the impact of deer on forestry and forest ecosystems

コーディネータ： 明石信廣（北海道立総合研究機構林業試験場）、藤木大介（兵庫県立大学）、

田村淳（神奈川県自然環境保全センター）、安藤正規（岐阜大学）、飯島勇人（山梨県森林総合研究所）

3月28日 9:00-12:00 会場 共通教育棟1号館 131 講義室

ポスター発表 3月27日 P1-131~P1-136

全国各地におけるシカの増加によって、森林では様々な影響が顕在化している。シカによる森林への影響を軽減するためには、シカの生態や個体数管理、シカの生息状況や森林への影響の把握方法、影響の程度を決定する要因の解明などシカを対象とした研究だけでなく、これらの知見を育林技術や林業経営、さらには森林に関する施策と統合するための多様な視点からの検討が必要である。

シカによる影響の蓄積によって、森林生態系に容易には回復させることのできない変化が生じることが明らかにされつつあり、他の生物や土壌などに及ぼす影響についても研究がすすんでいる。森林への影響が広域化し、これまでシカの少なかった地域でもシカ対策が求められるようになってきているが、そこでは、すでに対策がすすんでいる他地域の事例が大いに参考となるだろう。また、人工林資源が成熟して更新面積が増加し、幼齢造林地におけるシカ被害がさらに増加することが懸念されている。シカ対策に要するコストは林業経営における大きな開

題となりつつある。一方、林業関係者がシカ捕獲に関わるための施策が実施されるなど、新たな展開に対応するため、現場からもシカ対策の研究成果が強く求められている。

本セッションでは、シカに関する幅広い研究発表とともに、シカ問題に関心をもつ多様な分野の研究者の参加を期待し、森林におけるシカ問題解決に向けた議論をすすめたい。

## T6. 観光とレクリエーション

### Tourism and recreation

コーディネータ： 庄子康（北海道大学）、愛甲哲也（北海道大学）、久保雄広（国立環境研究所）  
3月28日 9:00-12:00 14:30-18:30 会場 共通教育棟3号館 321講義室  
ポスター発表 3月27日 P1-023~P1-025

本公募セッションの目的は、近年の観光やレクリエーションに対する社会的な注目を反映し、これらについて議論できる場を設定し、研究交流の促進を図ることにあります。扱う対象は森林だけでなく、自然保護地域や自然公園、都市公園、景観、野生動物など幅広い対象を想定しており、観光やレクリエーションという文脈の下、様々な学問分野の研究発表がなされることを想定しています。観光とレクリエーションはこれまで風致部門においてキーワードレベルで扱われてきました。しかし、1) 林業が名目 GDP に占める割合は0.1%に満たないのに対し、観光業は5.0%を占めており、自然地域での観光がこの値すべてに関係している訳ではないものの、かなりの部分で関係していること、2) 全国の大学で観光関係の学部が新設されており、そこには森林学会に所属している研究者も数多く教員として採用されていること、の二点から公募セッションを設けることとしました。本公募セッションは一昨年度に引き続きの三回目の開催になります。皆様のご参加をお待ちしております。

## T7. 木質バイオマス発電のための未利用木材を長年にわたり安定的かつ調和的に供給するために

### Toward a stable and coordinated supply chain of fuel chips for power-generation plants for a long period

コーディネータ： 横田康裕（森林総合研究所）、寺岡行雄（鹿児島大学）、  
久保山裕史（森林総合研究所）、吉岡拓如（日本大学）、有賀一広（宇都宮大学）  
3月28日 9:00-12:00 14:30-18:00 会場 共通教育棟3号館 331講義室

2012年7月に再生可能エネルギーの固定価格買取制度が開始されて以降、木質バイオマス発電、特に買取り価格が高く設定された未利用木材を燃料とする発電施設が、全国で多数計画されている。2016年末までにその多くが稼働を本格化する一方、未利用木材の供給が間に合わない可能性が懸念されている。この問題について、2016年3月の第127回日本森林学会大会において、「2016年問題—発電所は燃料の未利用木材を安定的に確保できるのか?—」と題した企画シンポジウムを開催し、議論した。その結果、当初予定されていた林地残材などのD材ではなく、製紙用チップ用材などのC材が発電利用にあてられ、燃料材は確保されているが、C材は値上がりし、輸入チップを調達する事例も生じていることが明らかとなった。また、今後、計画されているすべての発電所が稼働した場合、年間500万の需要が新規に発生するとも見積もられ、長期的な燃料材供給に関する懸念が払拭されているわけではないことも明らかになった。このため、総括として、未利用木材の供給に関しては今後も注視していく必要があるとの認識で一致し、未利用木材の低コスト供給と長期的に安定的なサプライチェーンの構築が今後の課題と考えられた。そこで、今年度は、これらの2つの課題に関する検討をさらに掘り下げるべく、全国から広く各地域の事例や調査研究についての報告を求めることとした。なお、未利用木材の供給にあたっては、上記の製紙用チップとの競合問題の例のように、それが森林・林業・林産業・地域社会に及ぼす影響について高い関心が寄せられており、両者の調和を保つための取組に関連する報告も求める。また、未利用木材に関す

る検討を相対化するために、一般木材やリサイクル木材との比較検討に関連する報告等も歓迎する。本セッションにおいて、長期にわたり安定的かつ調和的な未利用木材の供給の在りように関する議論が深まることを期待する。

## T8. 熱帯林研究

Tropical forestry research

コーディネータ Coordinators :

藤原敬大 Fujiwara Takahiro (九州大学 Kyushu University),

鈴木遥 Suzuki Haruka (京都大学 Kyoto University),

江原誠 Ehara Makoto (森林総合研究所 Forestry and Forest Products Research Institute),

寺内大左 Terauchi Daisuke (京都大学 Kyoto University)

3月27日 10:00-12:00 会場 共通教育棟1号館 124 講義室

This session is designed to share knowledge, information, and experiences on tropical forestry research. To address issues and achieve better conservation and utilization of tropical forests, it is essential to have the following: (1) knowledge on interdisciplinary approaches, (2) dialogue based on accurate information, and (3) learning from past experiences of trial and error. We invite presentations from various research fields such as ecology (e.g. biodiversity, carbon stock), silviculture, socioeconomics (e.g. farm economy, community forestry), anthropology (e.g. local livelihood, culture), politics (e.g. national and international policy), and information science (e.g. remote sensing, GIS). We also welcome presentations by international students as well as young Japanese researchers. To carry out discussion among participants from different countries, English is official language for all presentations and following question and answer in this session. To facilitate lively discussion in this session, the speakers are encouraged to make your presentations understandable for the participants with different background and mother languages.

## T9. 森林環境の持つ保健休養機能の基礎的研究と応用研究

Basic and applied researches on forest environment amenities

コーディネータ : 上原巖 (東京農業大学)

3月28日 9:30-12:00 会場 共通教育棟3号館 311 講義室

本セッションは本大会で13回目を迎え、森林科学研究の分野の中で、一般市民の関心が高い分野の1つである。これまでの大会では、生理的および心理的なアプローチの基礎的研究をはじめ、臨床事例、研究手法、尺度開発、国内外の地域における事例研究などが発表されてきた。基礎的研究から、保健休養に供する森林環境の整備といったハードの課題、治療・保養プログラム作成等のソフトの課題、そして各臨床症例・事例研究や、保養地事例などに至るまで多岐にわたった内容になっていることが特徴である。そのため、森林・林業関係者だけでなく、医療、社会福祉、心理、教育など、多領域の専門家とコラボレーションを行ってきていることも本セッションの特色であると言える。森林環境は、一般市民の日常的な健康増進はもとより、職場における保健衛生や、医療、福祉、教育などの社会における諸分野での可能性が大きい。本大会のセッションでは、そのような視点から生活習慣病や心の健康づくりに供する森林、樹木の利用、活手法などの調査研究、事例研究に特に重点を置き、森林環境の持つ保健休養機能についての研究手法、アプローチ方法についても検討、考究したいと考えている。活発で自由な雰囲気のもと、のびのびとしたセッションを展開していきたい。

## T10. 多様な主体による森林教育

Forest education with diverse implementing entities

コーディネータ： 杉浦克明（日本大学）、大石康彦（森林総合研究所）、  
井上真理子（森林総合研究所）、青柳かつら（北海道博物館）

3月28日 14:30-18:30 会場 共通教育棟3号館 311 講義室

ポスター発表 3月27日 P1-027~P1-028

日本森林学会における森林教育をテーマとするセッションは2003年に開始され、これまで継続して森林教育の研究を先導し、数多くの研究発表が行われてきた。第127回大会では、「地域」をキーワードに持続的な森林教育の条件等について議論された。さらに森林教育に関連した企画シンポジウムとして、「森林管理者と社会をつなぐ森林の教育・社会貢献の在り方 - 大学演習林からの再考 - 」と「技術教育、専門教育としての森林・林業教育 - 学校教育を中心に - 」の2件が開催され、大学演習林での教育と、専門教育としての森林・林業教育に関する発表が行われた。これまでの教育セッションでの視点に加えて、森林管理者の視点や技術教育・専門教育の視点から議論が展開された。3件の森林教育に関する研究発表の場が設けられ、合計24件の研究発表が行われたことは、森林教育に対する社会の期待や要請の増加と、それに応える研究活動の活発化を意味していると考えられる。これまでの議論から、森林教育は、専門的な人材育成にとどまらず、人間と森林との関係を知り、自然と共生した持続可能な社会を担う市民の人材育成をも含むもので、森林教育が多様な実践主体、内容、対象者、実施場所、社会制度など様々な要素で構成されている複合分野であることが明らかにされてきている。

そこで本セッションでは、10年以上セッションを重ねてきた歴史や社会的要請の高まりを鑑みながら、教育の種別（専門教育、学校教育、社会教育）を問わず、多様な主体による森林教育の教育内容や方法について議論を深めたい。加えて、森林教育の部門化を視野に入れた議論も深めたいと考えている。多くの方のご参加を期待している。

## 学会企画

### 1. 林政・風致・経営, 観光・レクリエーション, 教育分野のあり方検討会

コーディネータ： 田中伸彦（プログラム編成委員会林政, 風致部門委員長, 東海大学）

日時 3月26日 16:30-19:00 会場 かがしま県民交流センター 大ホール3

日本森林学会大会においては、近年「観光・レクリエーション」及び「教育」にかかわる研究発表が増加し、関連する複数の公募セッションや企画シンポジウムが毎年のように開催されるようになった。このような状況の中で、これらを主宰する研究者の中から、各々の分野を部門化してほしいという要望が出ている。本検討会は、その要望を受けて開催する。

検討会は公開形式で行う。進め方としては、「観光・レクリエーション」、「教育」にかかわる公募セッションや企画シンポジウムを学会大会で長年コーディネートしてきた研究者らに登壇いただき、これまでの総括と将来の展望をまとめていただくとともに、「林政」、「風致」、「経営」などの既存部門における「観光・レクリエーション」及び「教育」研究の現状を各部門委員会委員らに総括してもらう。さらに、国際森林研究機関連合（IUFRO）の社会科学系研究の部門分け等も念頭において、日本森林学会における社会科学系の研究部門の今後の在り方まで広く視野に入れた上で、「観光・レクリエーション」及び「教育」の部門化に当たっての考えを検討したい。

### 2. 大学院進学とその後の進路の選択-どのように社会に出ていくのか-

コーディネータ： 黒田慶子（日本森林学会副会長, 神戸大学）

日時 3月28日 13:30-14:30 会場 共通教育棟1号館132講義室

昨年の大会では、学術振興会の研究員制度（DC1からPD, SPD）への活発な応募を支援するために、「大学院生のための申請書作成指南-学術振興会の特別研究員（DC1～PD）の応募手法-」を開催した。出席者へのセミナー後のアンケートでは、知らなかったことが多かった、気後れせずに応募したいなどの感想の他に、博士号取得後の進路を含め、発展的な内容での企画の継続を望む声が多かった。

森林学の研究の発展には、若手研究者の自由な発想や活発な議論が不可欠であるが、近年は博士課程後期課程（以下、博士課程）への進学希望者が多いとは言えない。博士課程前期課程（修士課程）では研究に没頭していても、研究者としての将来が想像しにくいように見える。進学を躊躇する理由としては、博士号取得後の就職先についての不安があげられる。研究者ポストの募集状況、ポスドクとはどのような状態か、また、任期付き雇用からパーマネント雇用へのステップアップの方法など、わかりにくいことが多い。周囲に博士課程進学者が少ない環境では、研究者として就職した人と直接話す機会が少なく、ネガティブな情報が耳に入りやすいのではないだろうか。このような状況から、学会の活性化や研究の発展に寄与できるように本企画を実施する。

このセミナーでは、博士課程での研究や博士号取得後のポスドクなどの概要をまず説明する。そのあと、最近研究職として採用された方に、就職までのプロセスや業績の積み上げ方、その他の重要なポイントについて説明していただく。講演後には質疑応答とアンケートにより、学会員がどのような情報を求めているのか把握し、次年度の企画の参考にしたい。

(1) 概要の解説 黒田慶子（神戸大学）

(2) 事例の紹介 牧田直樹（信州大学）

岩永史子（鳥取大学）

### 3. 論文執筆や審査の経験を共有しよう Part 2-回答書や英語論文を書いてみる-

コーディネータ： 正木隆（日本森林学会理事，森林総合研究所）

日時 3月28日 17:45-19:45 会場 共通教育棟1号館132講義室

昨年の大会で論文執筆のノウハウやモチベーションに関するセミナーを開催したところ，研究発表前日の夕方にもかかわらず80名もの参加をいただき，ご好評をいただいた。そこで，本大会でもPart 2を開催することとした。

昨年は和文誌（例えば日林誌や関連学会誌）への論文投稿・審査を念頭に，学生の論文執筆の指導に携わる先生方，および地方研究機関で行政に近い位置にいらながらも論文を発表されてきた研究者の方をお招きし，これまでの経験談をご紹介いただいた。

今年度は，昨年のアンケートに記された要望を参考に，大学，国研，地方林試という幅広い立場の方々にご登壇いただき，査読コメントに対する回答書の良し悪しや具体的なポイント，若手の時に初めて投稿論文に取り組んで受理にまで至った体験談，地方の研究機関に所属しながらも国際誌にチャレンジして見事アクセプトに至り博士号を取得した体験，などについて話題提供していただく予定である。

このセミナーに参加された会員諸氏が，なんとなく論文が簡単に書けるような気分になり，そのモチベーションを保ったまま本大会での発表内容を，日林誌やJFRを初めとする学術誌に投稿されることで森林学の発展につながっていけばたいへん喜ばしいことと考えている。

(1) 英文誌への挑戦と学位の取得 成松眞樹（岩手県林業技術センター）

(2) 投稿論文に取り組むにあたって：社会科学の立場から 平野悠一郎（森林総合研究所）

(3) Fighting against reviewers and editors! 隅田明洋（北海道大学）

（上記タイトルは当日変更される場合があります）

## 第 128 回日本森林学会大会：高校生ポスター発表題目一覧

第 4 回を迎える高校生ポスター発表では、16 校（19 件）の発表がエントリーされています。発表は 2017 年 3 月 28 日（火） です。未来を担う可能性にあふれた若者達の発表に、励ましや前向きなアドバイスをいただけますようお願いいたします。

中等教育連携推進委員会

発表番号	学校名	発表題目
KP01	東京都立大島高等学校	ツバキを守って島おこしーツバキを活用した地域振興の実践報告②ー
KP02	岡山県立勝間田高等学校	桜丸太生産 4 年連続日本一の美作桜の PR
KP03	山梨英和学院山梨英和中学校・高等学校	富士山北麓におけるササラダニ類の多様性評価
KP04	東京都立小笠原高等学校	世界自然遺産・小笠原で人間は生物と共存できているかー土地開発後も生き残っている固有種・絶滅危惧種ー
KP05	山梨県立農林高等学校	学校内林の整備事業
KP06	熊本県立芦北高等学校	「森を楽しむための森育活動の実践」～森を歩き・森に学び・森で癒される～
KP07		「林業技術を活かした森・川・海の地域環境保全の実践」～森から海を見つめ、海から森を見つめる～
KP08	北海道岩見沢農業高等学校	トドマツ人工林における巻き枯らし間伐の効果についての調査・研究
KP09	群馬県立中央中等教育学校	赤城山のマツ林の研究～枯死した県木クロマツの今後～
KP10	三重中学校・高等学校	三重の森林と私たち学生
KP11		高校生による名人の聞き書き
KP12	北海道旭川農業高等学校	木の大切さを伝えようパート 6～木育でつながる森と人と人～
KP13	岐阜県立岐阜農林高等学校	近隣地域におけるニホンジカに関する生態調査
KP14	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	マレーシアにおけるパーム油産業と森林・環境問題
KP15	京都府立嵯峨野高等学校	校有林への動物侵入による林内生態系への影響
KP16		校有林における物質循環～土壌生物の役割～
KP17	熊本県立八代農業高校泉分校	森林内でのアウトドア活動と私たちの変化
KP18	東京都立江北高等学校	荒川上・中・下流の水質調査～下流の水生生物を中心に～
KP19	青森県立五所川原農林高校	コンテナ苗栽培におけるスギの移植時期による生育について

## 関連研究集会等

集会名	日時	場所
IUFRO-J 平成 29 年度機関代表会議	3 月 29 日 8:00- 9:00	農学部共通棟 101 講義室
森林計画学会総会	10:00-12:00	
森林計画学会賞受賞者講演会	3 月 29 日 13:00-13:30	農学部共通棟 101 講義室
森林計画学会春季シンポジウム	13:30-16:30	
林業経済学会 2017 年春季大会	3 月 29 日 9:30-18:00	共通教育棟 1 号館 111 講義室
第 20 回森林施業研究会シンポジウム	3 月 29 日 9:00-12:00	共通教育棟 1 号館 121 講義室
第 23 回森林昆虫談話会	3 月 29 日 9:00-12:00	共通教育棟 1 号館 124 講義室
森林利用学会	3 月 29 日 9:00-17:00	共通教育棟 1 号館 125 講義室
第 6 回森林遺伝育種シンポジウム	3 月 29 日 9:00-12:30	共通教育棟 1 号館 131 講義室
樹木病害研究会	3 月 29 日 9:00-12:00	共通教育棟 1 号館 132 講義室
林木の成長機構研究会	3 月 29 日 9:00-12:00	共通教育棟 1 号館 133 講義室
森林立地学会理事会／編集委員会	3 月 26 日 13:30-16:45	かごしま県民交流センター 小研修室第 2
森林立地学会現地研究会／総会	3 月 29 日 9:00-	鹿児島県鹿児島市, 霧島市, 始良市
森林 GIS フォーラム学生研究コンテスト	3 月 26 日 17:00-19:00	かごしま県民交流センター 大研修室第 2

注:二重線以下の会合は, 鹿児島大学学内で開催いたしません。

### IUFRO-J 平成 29 年度機関代表会議

日時: 3 月 29 日 (水) 8:00~9:00

会場: 農学部共通棟 101 講義室 (西側)

テーマ: IUFRO-J 平成 29 年度機関代表会議

内容: 平成 28 年度会務報告, 会計決算, 監査報告の審議と承認, 及び平成 29 年度事業計画案, 予算案の審議と承認案, 予算など

連絡先: 川元スミレ, 国際森林研究機関連合日本 (IUFRO-J) 事務局, 〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1  
国立研究開発法人森林総合研究所国際連携・気候変動研究拠点国際研究推進室, Tel. 029-829-8327, Fax.  
029-874-3720, E-mail: iufro-j@ffpri.affrc.go.jp



## 森林計画学会総会

日時：3月29日（水）10:00～12:00

会場：農学部共通棟101 講義室（東側）

連絡先：美濃羽 靖，〒606-8522 京都府京都市左京区下鴨半木町1-5 京都府立大学大学院生命環境科学研究科，Tel. 075-703-5684，Fax. 075-703-5680，E-mail: sharmy@uf.kpu.ac.jp

## 森林計画学会賞受賞者講演会

日時：3月29日（水）13:00～13:30

会場：農学部共通棟101 講義室（東側）

連絡先：美濃羽 靖，〒606-8522 京都府京都市左京区下鴨半木町1-5 京都府立大学大学院生命環境科学研究科，Tel. 075-703-5684，Fax. 075-703-5680，E-mail: sharmy@uf.kpu.ac.jp

## 森林計画学会春季シンポジウム

日時：3月29日（水）13:30～16:30

会場：農学部共通棟101 講義室（東側）

テーマ：スマート林業構築への取り組み

内容：農林水産技術会議の革新的技術開発・緊急対策事業で、スマート林業コンソーシアムが採択された。群馬県（東京大学）、三重県（三重大学）、人吉市（鹿児島大学）、真庭市・糸島市（住友林業）が中心となり、ICTを活用して森林SCMの構築を目指して、3年間の研究開発が進んでいる。高精度森林情報の活用や経営分析など、森林計画分野の知見を応用することが期待されている。今回はスマート林業構築に関する報告をもとに、スマート林業に関して学会参加者との議論を行いたい。これから森林計画分野で活躍する学生・院生にもぜひご参加いただき、本シンポジウムを通して今後のスマート林業のあり方について議論を深めたい。詳細は森林計画学会ホームページで広報予定。

話題提供予定：

- ・スマート林業コンソーシアムメンバー
- ・林野庁、地方自治体等で森林計画に携わる公務員
- ・GISなどを活用する森林コンサルタント企業
- ・森林組合
- ・研究者

連絡先：寺岡行雄，加治佐剛，〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-24 鹿児島大学農学部，（学会事務局）長島啓子，〒606-8522 京都府京都市左京区下鴨半木町1-5 京都府立大学大学院生命環境科学研究科

## 林業経済学会2017年春季大会

日時：3月29日（水）9:30～18:00

会場：共通教育1号館111 講義室

8:30 受付（鹿児島大学共通教育1号館111 講義室講義室前にて）

9:30～17:00 大会シンポジウム

「木材需要の変化に伴う素材流通・生産—主伐拡大に着目して—」

座長 伊藤 勝久（島根大学）

報告者

嶋瀬拓也（森林総合研究所）

国内製材業における素材需要の変化とその要因

川崎章恵（九州大学）

木材需要拡大期における原木流通構造の変容および森林組合の現状—九州地方を事例に—

林 雅秀 (山形大学)

林業経営の組織形態の変化についての新制度学的検討

—1960年代以降を対象として林業経営の組織形態に関する研究と現状—

コメンテーター

藤掛一郎 (宮崎大学)

17:00~18:00 定期総会

閉会后、懇親会 (教育学部 食堂エデュカ)

なお、大会に先立って3月28日に理事会、評議会、各種委員会を開催します。

連絡先: 枚田邦宏 (ひらたくにひろ), 〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-24 鹿児島大学農学部森林政策学研究室, Tel./Fax. 099-285-8578, E-mail: khirata@agri.kagoshima-u.ac.jp

## 第21回森林施業研究会シンポジウム

日時: 3月29日(水) 9:00~12:00

開催場所: 共通教育棟1号館121講義室

テーマ: コンテナ苗は再造林に最適な苗木といえるのか?

内容: 皆伐後の再造林におけるコンテナ苗への期待は大きく、苗木生産から植栽まで多くの研究が集中的に行われ、並行して現場への導入も進められている。多くの知見が集まりつつある今、コンテナ苗が再造林に適しているのかどうか考えてみたい。

1. 伊藤 哲 (宮崎大学) 「低コスト再造林とコンテナ苗 (仮)」
2. 長倉良守 (長倉樹苗園) 「苗木生産者からみたコンテナ苗のメリット・デメリット (仮)」
3. 壁谷大介 (森林総合研究所) 「全国で評価した植栽後のコンテナ苗の成長」
4. 渡辺直史 (高知県立森林技術センター) 「コンテナ苗の林地保管・活着・成長 (仮)」
5. 総合討論: コンテナ苗は再造林に最適な苗木といえるのか

連絡先: 横井秀一, 〒501-3714 岐阜県美濃市曾代88 岐阜県立森林文化アカデミー, Tel. 0575-35-3884, Fax. 0575-35-2529, E-mail: yokoi@forest.ac.jp

## 第23回森林昆虫談話会

日時: 3月29日(水) 9:00~12:00

会場: 共通教育棟1号館124号講義室

テーマ: 福島第一原子力発電所事故が昆虫相に与えた影響

内容:

<話題提供>

1. 「森林流域における溪畔林と川のつながりと放射性セシウムの動態」  
岩本愛夢 (NPO 法人生態工房)・境 優 (中央大学)・岡田健吾 (福島県)・根岸淳二郎 (北海道大学)・布川 雅典 (寒地土木研究所)・五味高志 (東京農工大学)
2. 「福島県における表層性ミミズの放射性セシウム濃度: 事故後4.5年後までの変化」  
長谷川元洋 (森林総研四国)・金子真司・池田重人・赤間亮夫・小松雅史・今村直広 (森林総研)・伊藤雅道 (駿河台大学)
3. 「土壌—植物—節足動物群集をつなぐ食物連鎖における放射性セシウム移行」  
綾部慈子 (名古屋大学)・金指 努 (森林総研)・吉田智弘 (東京農工大学)・肘井直樹・竹中千里 (名古屋大学)
4. 「森林の腐食連鎖と放射性セシウム汚染—生物濃縮と土壌による保持のバランス—」  
金子信博・渡邊菜月・武藤芽依 (横浜国立大学)・綾部慈子 (名古屋大学)・吉田智弘 (東京農工大学)・竹中千里 (名古屋大学)

世話人：吉田智弘（東京農工大学）・松浦 崇遠（富山県森林研究所）・松本剛史（森林総合研究所）

3月28日（火）夜に懇親会を予定しています。

連絡先：松本剛史，〒305-8687 茨城県つくば市松の里1 国立研究開発法人森林総合研究所森林昆虫研究領域，  
Tel. 029-829-8253, Fax. 029-873-1543, E-mail: mtakeshi@ffpri.affrc.go.jp

## 森林利用学会

日時：3月29日（水）総会 10:30～12:00 シンポジウム 13:00～16:00

会場：共通教育棟1号館125講義室

シンポジウムテーマ：皆伐と再生林を考える

パネリスト：未定

連絡先：森林利用学会事務局 〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林利用学研究室内，Fax. 03-5841-7553, E-mail: JFES-office@jfes.jp

## 第6回森林遺伝育種シンポジウム

日時：3月29日（水）9:00～12:30

会場：鹿児島大学共通教育棟1号館131講義室

森林遺伝育種学会総会後に下記のシンポジウムを行います。9:30からを予定しています。

テーマ：「これからの林業とコウヨウザン」，

コーディネーター 鹿児島大学農学部 藤澤義武

内容：

基調講演：「これからの林業を考える」 森林総合研究所森林保険センター 大貫 肇

講演1)「コウヨウザン研究の現状」 森林総合研究所林木育種センター 近藤禎二

講演2)「コウヨウザンの材質」 広島県立総合技術研究所林業技術センター 涌嶋 智

講演3)「コウヨウザン造林における広島県の取組み」 広島県林業課 黒田幸喜

連絡先：津村義彦，〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学生命環境系，E-mail: tsumura.yoshihiko.ke@u.tsukuba.ac.jp

## 樹木病害研究会

日時：3月29日（水）9:00～12:00

会場：共通教育棟1号館132講義室

テーマ：南の樹木病害

内容：樹木病害の分布は宿主の分布やそれぞれの温度特性によって地域性がみられる。その中で南方系の樹木病害については特に注視しておく必要がある。それは、昨今の気候変動によりいくつかの樹木病害で分布が北上する可能性のあるためである。また、宿主の多様性も高いことから、それに対応して病原菌の多様性も高い。よって、南方系の樹木病害は日本における樹木病害のホットスポット、もしくはトレンドの先端地といってもよいのかもしれない。今回は特に南方系の樹木病害について知見を持つ方々に、様々な方向から南方系の樹木病害について紹介していただきながら、他地域の樹木病害との対比、議論を通じて樹木病害全般の知識の深化を試みる。

連絡先：松下範久，〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1，東京大学大学院農学生命科学研究科，Tel./Fax. 03-5841-5226/03-5841-7554, E-mail: matusita@fr.a.u-tokyo.ac.jp, 石原 誠，札幌市豊平区羊ヶ丘7番地，森林総研北海道支所，Tel./Fax. 011-851-4131/011-851-4167, E-mail: makolin@affrc.go.jp, 升屋勇人，盛岡市下厨川字鍋屋敷92-25，森林総研東北支所，Tel./Fax. 019-648-3961, E-mail: massw@ffpri.affrc.go.jp

## 林木の成長機構研究会

日時：3月29日(水) 9:00~12:00

会場：共通教育棟1号館133講義室

テーマ：乾燥ストレスに対する樹木の応答

世界各地で、気候変動による大規模な干ばつや降雨パターンの変化が予測されている。樹木の乾燥ストレスへの応答や順応機構の解明は、今後予測される気候変動による森林動態や植生への影響予測にとって不可欠である。この研究会では、常に高温多湿なボルネオ熱帯雨林の樹高40mを超える巨大高木を対象に、人工的な降雨遮断実験を行い、林冠葉の乾燥ストレス応答を明らかにした事例と、過去100年間に渡り乾燥傾向が続いている小笠原に生育する樹木を対象に、乾燥などの環境ストレスへの応答を明らかにした成果を中心に紹介し、乾燥ストレスに対する樹木の応答や順化について議論を深めたいと思う。

話題提供

井上祐太(森林総合研究所)

「降雨遮断による土壌の乾燥が巨大高木の葉の水利用に及ぼす影響」

才木真太朗(京都大学生態学研究センター)

「小笠原樹木の生存限界に対する、糖、水、呼吸ストレスの役割」

世話人：田中憲蔵・米田令仁

連絡先：田中憲蔵(森林総合研究所, E-mail: mona@affrc.go.jp)

## 森林立地学会理事会

日時：3月26日(日) 13:30~15:00

会場：かごしま県民交流センター 小研修室第2

内容：2016年度実施内容報告

2017年度実施計画(案)検討

連絡先：総務担当・山下尚之, 〒305-8687 茨城県つくば市松の里1 森林総合研究所, Tel. 029-829-8227, Fax 029-874-3720, E-mail: ritchi\_general@ffpri.affrc.go.jp

## 森林立地編集委員会

日時：3月26日(日) 15:15~16:45

会場：かごしま県民交流センター 小研修室第2

内容：編集状況の報告および編集方針の検討

総務担当・山下尚之, 〒305-8687 茨城県つくば市松の里1 森林総合研究所, Tel. 029-829-8227, Fax 029-874-3720, E-mail: ritchi\_general@ffpri.affrc.go.jp

## 森林立地学会現地研究会

日時：3月29日(水) 9:00~30日(木) 17:00

開催場所：鹿児島県鹿児島市, 霧島市, 始良市

テーマ：桜島・霧島の火山活動が植生・土壌に与えた影響と防災対策

内容：桜島および霧島において植生や土壌に火山噴火が及ぼした影響とその後の回復状況や、火山地帯での治山・砂防工事の現状を見学し、防災のあり方について検討します。また、鹿児島県が取り組んでいる最新の森林研究についても紹介いただく予定です。

・1日目：3月29日(水)

鹿児島中央駅西口9:00—桜島ビジターセンター(桜島の概要)—湯之平展望所(土砂発生源と治山・砂防工事の状況)—鳥島展望所(大正噴火の溶岩と植生回復)—国際火山防災センター(野尻川の砂防工事の状況)—黒神埋没鳥居(大正噴火により埋没した鳥居)—霧島ロイヤルホテル17:00(総会, 懇親会)

・2日目：3月30日（木）

霧島ロイヤルホテル 8:30 — 高千穂河原（新燃岳噴火による植生・土壌影響）— 鹿児島県森林技術総合センター（コンテナ苗，林地残材の分解試験に関する講演とセンター内案内）— 鹿児島空港 16:00 — 鹿児島中央駅 17:00  
参加費：¥17,000 以内（学生・PD は割引予定）

申込方法：森林立地学会申込フォーム（<https://shinrin-ritchi.jp/apply-excursion/>）または下記連絡先から（2017年2月28日締切，定員45名，先着順）

連絡先：事業担当，志知幸治，〒305-8687 茨城県つくば市松の里1 森林総合研究所，Tel. 029-829-8227，Fax. 029-874-3720，E-mail：ritchi\_excursion@ffpri.affrc.go.jp

## 森林 GIS フォーラム学生研究コンテスト

日時：3月26日（日）17:00～19:00

開催場所：かごしま県民交流センター 大研修室第2

テーマ：森林・林業分野における GIS，リモートセンシング技術の応用全般

内容：学生研究コンテストは次世代の森林 GIS を担う若手研究者・技術者の育成と交流の場です。大会の他部門で発表したものと重複しても結構です。1人15分程度の口頭発表を行い，優れた発表数件を表彰します。以下の2部門で各5名程度を募集し，応募者多数の場合は選抜します：部門①卒業論文の研究，部門②修士論文，博士論文の研究。

連絡先：高橋正義，〒305-8687 茨城県つくば市松の里1 国立研究開発法人 森林総合研究所森林災害・被害研究拠点，Tel. 029-829-8314，Fax. 029-873-3799，E-mail:martaka@ffpri.affrc.go.jp